

42834

教科書文庫

4
291
41-1921
20000 24188

Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

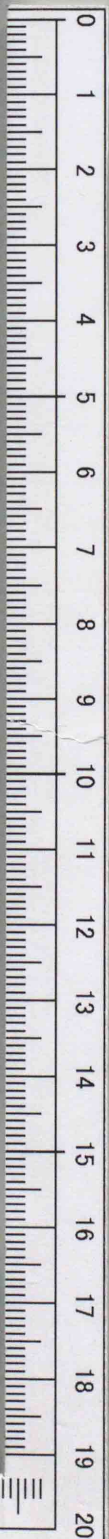
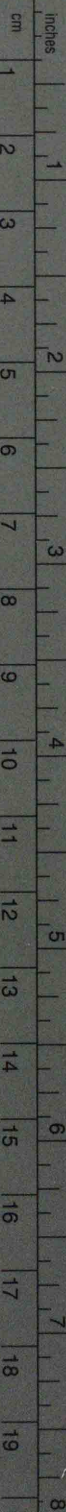


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

© Kodak, 2007 TM: Kodak

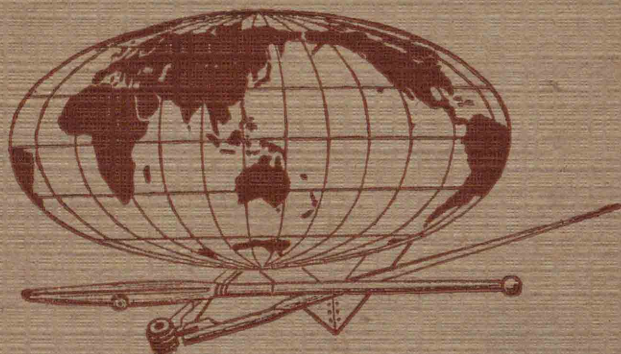


3759
Chi8
資料室

地 理 教 授 同 志 會
編 纂

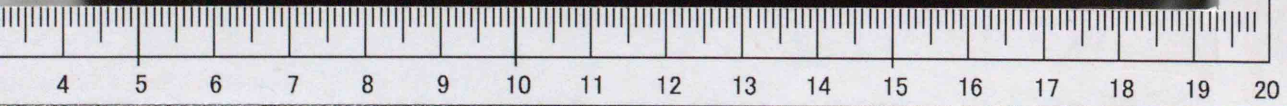
帝 國 地 理

[版 度 年 十 正 大]



東 京 帝 國 書 院 藏 版

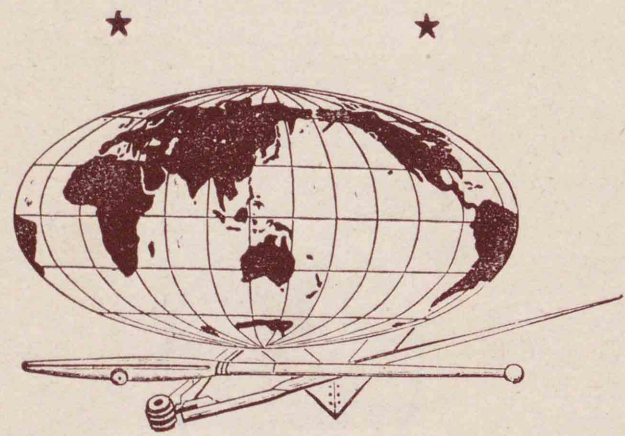
教
4
20



教科書文庫
4
291
41-1921
2000024188

地理教授同志會
纂 編

帝國地理



東京帝國書院藏版

資料室

398.9
Chi 19

千葉足利の市制施行、國勢調査に係る都市村落人口一覽をも掲げて此の遺憾なきを期し候

大正十年一月十四日
文部省檢定済



広島大学図書

2000024188



改訂につきての例言

本書の原書は大正七年末即ち僅々二年前の出版なれども、一は我が國運、國勢の盛なる今日の事として、移動事項多々なると、一は、世の歡迎に應ずべく莫大なる印刷をなしたる爲に、原版殆んど用ふること能はざるに至りしとにより、爰に之を改訂することゝしたり。

原書は、約十名の分擔執筆に係りしものを、代表者に於て總合統一を計りたるなり。爾來二年、地方諸君子より教授上、實際上の注意助言を蒙りたること多大なり。這般の改訂は、新事實の蒐集以外に於ては、殆ど叙上の注意助言の統一・參酌を以て、主要作業となしたり。

本書は、呱呱の聲をあげて僅々二ヶ年に止まれり。而かも正に一躍して中等教科書界の霸王・重鎮たるに至りたり。冀くは江湖の諸君子、教授上、實際上の注意助言を與へられ、以て益々本書の健全發達を計られんことを。

大正九年十二月

地理教授同志會代表者 謹誌

目次

緒論

第一編 地方誌

第一章 關東地方

第一節 地域

第二節 地勢

第三節 氣候

第四節 産業

第五節 交通

第六節 處誌

第二章 奥羽地方

第一節 地域

第二節 地勢

第三節 氣候

第四節 産業

第五節 交通

第六節 處誌

目次

上

第三章 本州中部地方

第一節 地域.....三

第二節 地勢.....三

第三節 氣候.....四

第四節 產業.....六

第五節 交通.....四

第六節 處誌.....四

第四章 近畿地方

第一節 地域.....五

第二節 地勢.....五

第三節 氣候.....五

第四節 產業.....五

第五節 交通.....五

第六節 處誌.....五

第五章 中國地方四國地方

第一節 地域.....七

第二節 地勢.....七

第三節 氣候.....七

第六章 九州地方

第一節 地域.....八

第二節 地勢.....八

第三節 氣候.....八

第四節 產業.....八

第五節 交通.....八

第六節 處誌.....八

第七章 臺灣地方

第一節 地域.....九

第二節 地勢.....九

第三節 氣候.....九

第四節 產業.....九

第五節 交通.....九

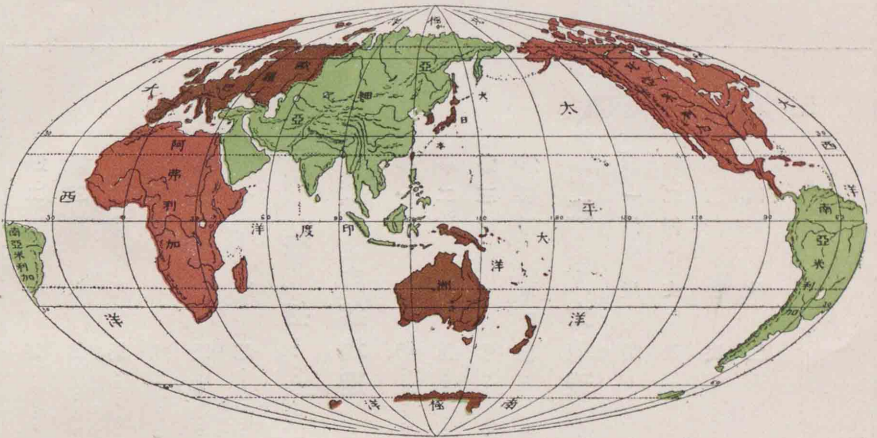
第六節 住民.....九

第七節 處誌.....九

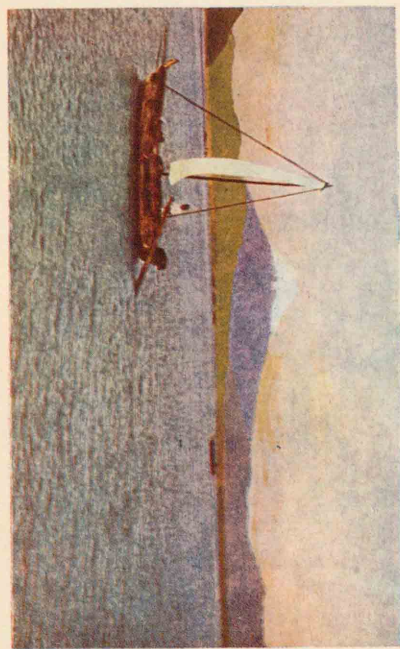
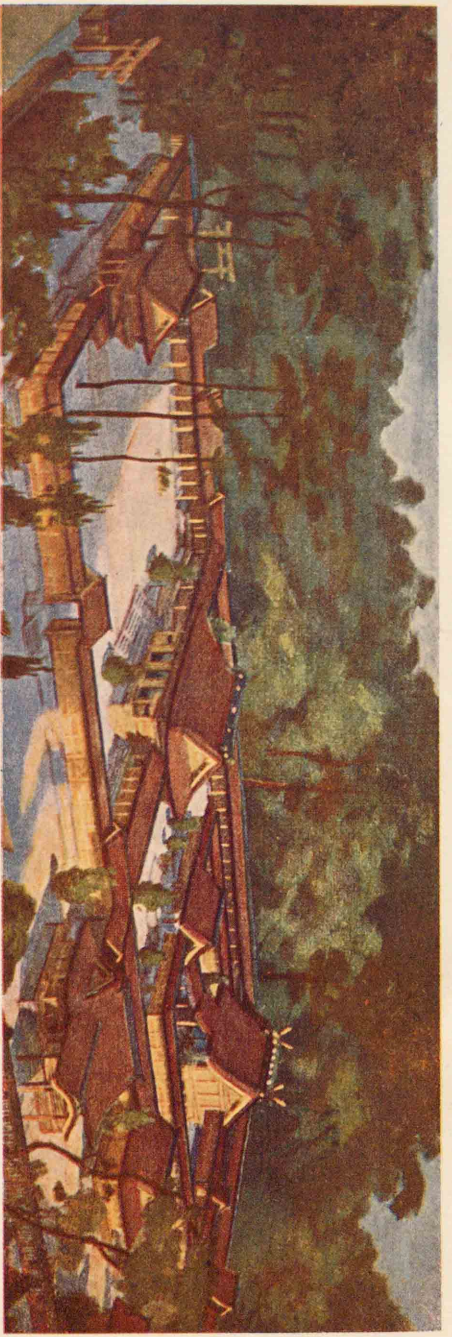
第八章 北海道地方

第一節 地域	104
第二節 地勢	104
第三節 氣候	104
第四節 產業	104
第五節 交通	104
第六節 住民	104
第七節 處誌	104
第九章 樺太地方	115
第一節 地域沿革	115
第二節 地勢	116
第三節 氣候	117
第四節 產業	117
第五節 交通	118
第六節 住民	118
第七節 處誌	119
第十章 朝鮮地方	130
第一節 地域	130

第二節 地勢	110
第三節 氣候	113
第四節 產業	113
第五節 交通	114
第六節 住民	114
第七節 處誌	116
第二編 概括	131
第一章 自然地理	131
第一節 地勢	131
第二節 海洋	135
第三節 氣候	137
第四節 天產物	137
第二章 人文地理	138
第一節 產業	139
第二節 交通	140
第三節 住民	141
第四節 政治	141
結論	145



洋大三			洲 大 六					
印	大	太	大	南	北	阿	歐	亞
度	西	平	洋	亞	亞	弗	羅	細
洋	洋	洋	洲	米	米	利	巴	亞
				利	利	加	洲	洲
				加	加	洲		
				洲	洲			



(左段下) スナブル本日

(右段下) 山士富

(段上) 宮神治明



帝國地理

地理教授同志會 編纂

緒論

我が大日本帝國は、國勢日に振ひ、國光月に盛なり。これ主に、地理の事情良好なればなり。日本地理の學習、こゝに於てか趣味多く、こゝに於てか必要なり。

抑も地球の表面には、亞細亞・阿弗利加・歐羅巴・南北亞米利加・大洋洲の六大洲と、太平洋・大西印度の三大洋とあり。其の亞細亞洲の東端、太平洋の北西隅に、我が大日本帝國あり。帝國は、北東より南西に向へる一大弓

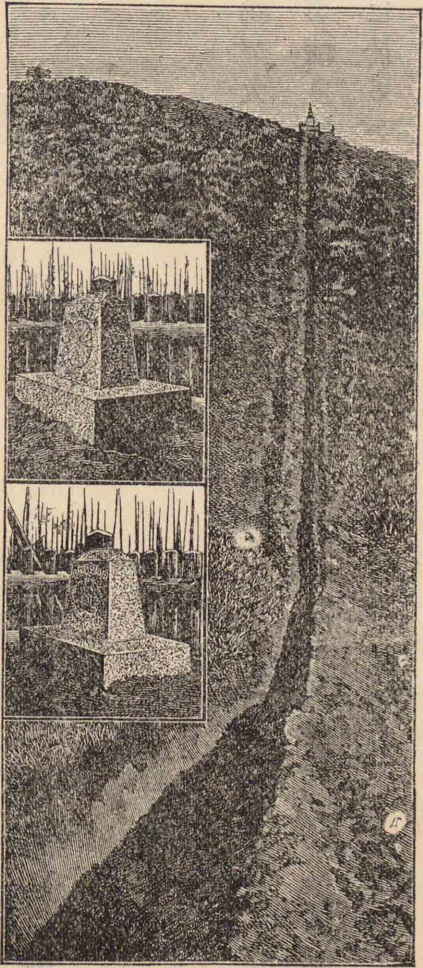
南極洲を加へて七大洲、南極洋北極洋を加へて五大洋となす者もあり

×北海道と本州・四國と西海道・臺

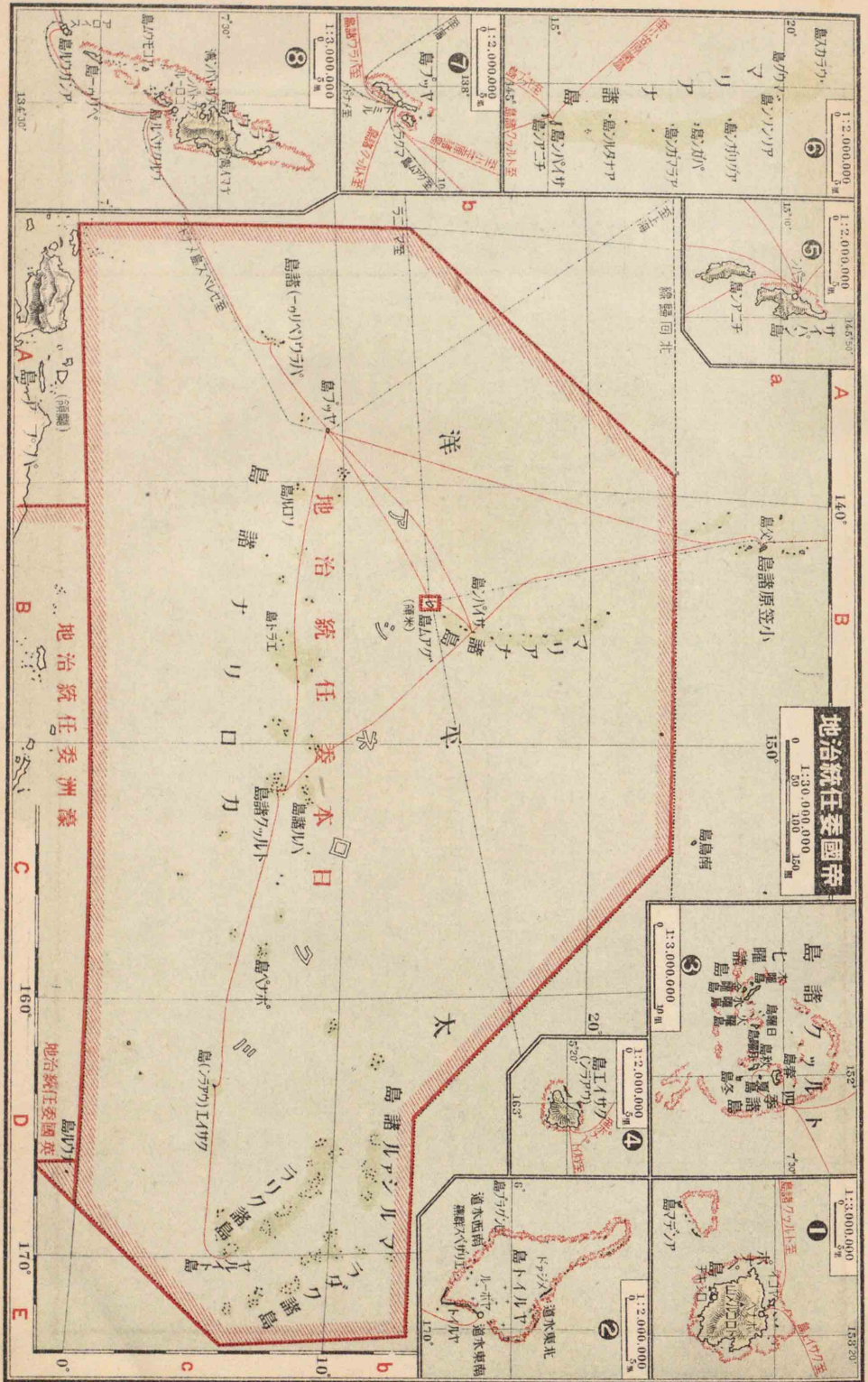
東極(東經一五度三分(古守島東端))
西極(東經一五度八分(北嶼西端))
北極(北緯五度五分(阿賴度島北端))
南極(北緯二度四分(七星岩南端))

灣との三弓形に分る

圖解 樺太の日露境界に於ける林空作業と境界標石

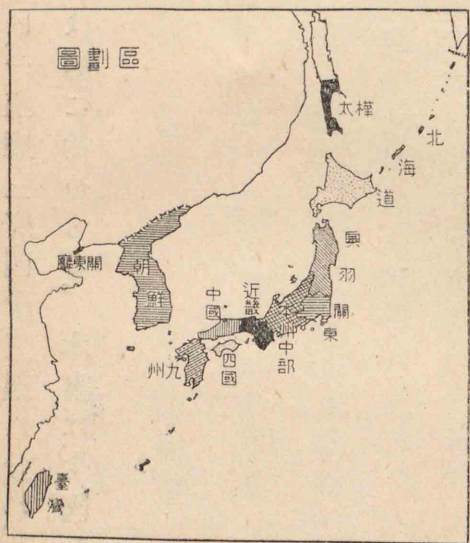


形の列島(長さ約一千二百里)と、樺太島の南半と、朝鮮半島(長さ約二百餘里)とより成れり。北方より西方にかけ、オホーツク海・日本海・黄海・東支那海ありて、露西亞領の西比利亞と老大國の支那とに對し、殊に樺太に於ては北緯五十度線により、又朝鮮に於ては豆滿鴨綠の二江と白頭山とによりて、他國と陸土を相接す。東は、遂に北亞米利加と相對し、南西は、バシ海峽を隔て、米領フィリピン群島と相隣れり。

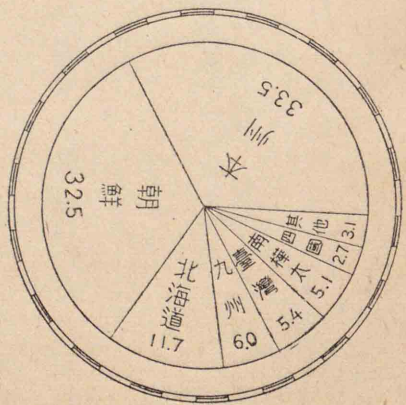


本州	14,000
朝鮮	5,000
北海道	5,000
九州	2,000
臺灣	1,000
南樺	1,000
北樺	1,000
計其	43,000

圖解 帝國各部
の面積比較



國土の面積は、今や四萬三千餘方里の廣きに達し、本州・朝鮮は、各其の約三分一を占め、北海道・本島・九州・臺灣・南樺太・四國等順次相次ぐ。尙ほ帝國は、支那の關東州を租借し、滿洲・東蒙古・膠州灣



に勢力を伸ばし、又獨領たりし南洋諸島（赤道分以）の統治を委任せられたり。斯くて國運・國勢、全く世界的となり、恰も旭日の東天に昇るが如き觀あり。行政上、舊國土の畿内八道（總計八國）

は、一道廳三府四十三縣に分れ、新領土の臺灣、朝鮮は總督府、南樺太は廳に治めらる。本書は、全國を十一地方に分てり。

第一編 地方誌

第一章 關東地方

面積 〇〇六方里 人口 〇〇五萬人 一方里人口 〇五〇〇人
隣境 太平洋・奥羽地方・本州中部地方

第一節 地域

本域は、則ち關東八州の地にして、一府六縣に分る。各府縣概ね面積狭小、人口最も稠密なり。

東京府 武藏中部伊豆七島小笠原諸島等 〓 東京市

神奈川縣 武藏南部相模 〓 横濱市

千葉縣 安房・上総 〓 千葉市

埼玉縣 武藏北部 〓 浦和町

群馬縣 上野 〓 前橋市

栃木縣 下野 〓 宇都宮市

茨城縣 下常 〓 水戸市

第二節 地勢

〓の下は地方廳所在地、以下之に同じ

× 鋸山・鹿野山・清澄山著はる

* 甲武信・武甲・三峰の諸山峙ちて秩父盆地を圍む

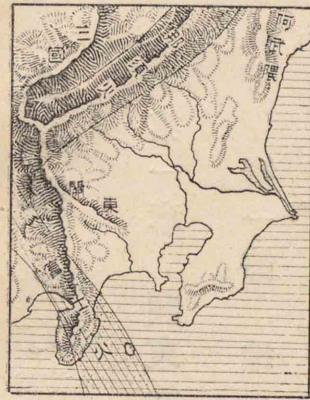
圖解下 關東地方断面圖

高原火山の北麓に鹽原温泉あり

圖解上 關東地方地勢

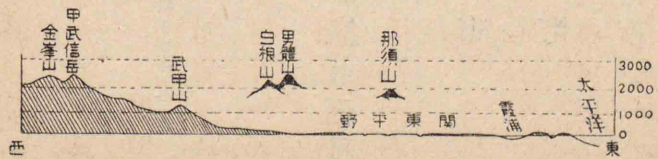
概観 北西部に山地亘り、以て本地方自然の境界をなせり。此の山地より、東又は南に向ひて、日本一の關東平野展開せり。諸河川此の地勢に従ひて流れ、平野の南方に、房總三浦の連丘あり。

山誌 北西部には、阿武隈三國關東の諸山脈と那須火山脈と相亘り、那須男體白根赤城榛名等の火山峙ち、地勢高峻なり。南西部には、大山峙ち、富士火山脈、箱根山三原山(大伊豆)を起せり。



火山地方には、伊香保(榛名)草津(白根)箱根等に温泉湧き、又勝景地も多し。

水誌 坂東太郎の稱ある利根川は、三國山脈に發



× 渡良瀬川の如し

南西部に酒匂川あり、鬼怒・利根・馬入の諸川は電力を供す。多摩川は東京市馬入川は横濱市に給水す。

× 冬寒稍強く夏季には雷雨多し。常陸の助川・大洗上總の一宮安房の北條・館山相模の逗子・葉山等も保養地として著る。

源し、鬼怒川等を合せ、江戸川を分ち、日本第二の大湖たる霞浦を始め、北浦印旛沼の水をも容れて太平洋に注ぐ。長さ七十餘里、實に關東平野の大動脈にして、其の流域本地方の大半を占めたり。利根の外に、久慈那珂荒多摩馬入(模相)の諸川ありて、中には水力電気又は飲料水を供するものあり。湖沼は、上記の外に、蘆湖中禪寺湖あり。

第三節 氣候

海岸 東岸は、犬吠崎の爲、鹿島灘と九十九里濱との沙濱に分る。南部には、房總三浦の二半島、浦賀水道を挟みて東京灣の門戸をなせり。三浦半島の西に、半圓形の相模灣あり。

第四節 産業

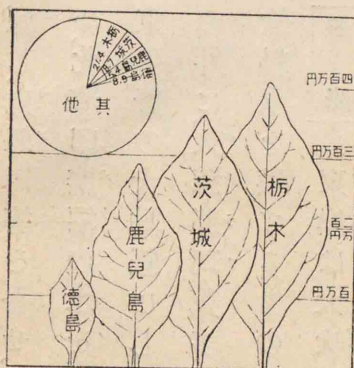
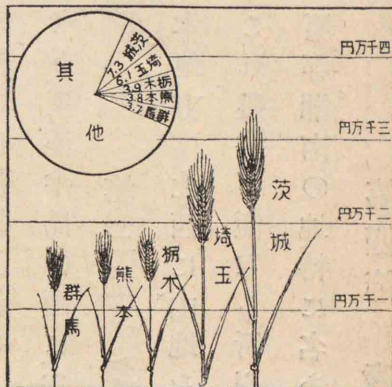
本地方は、北西に山地を負ひ、南東に面して、氣温雨量共に適度なり。これ農耕に便なる所以なり。海岸には、保養地多く、鎌倉・大磯・小田原等湘南の地、特に名あり。

×二毛作盛なり

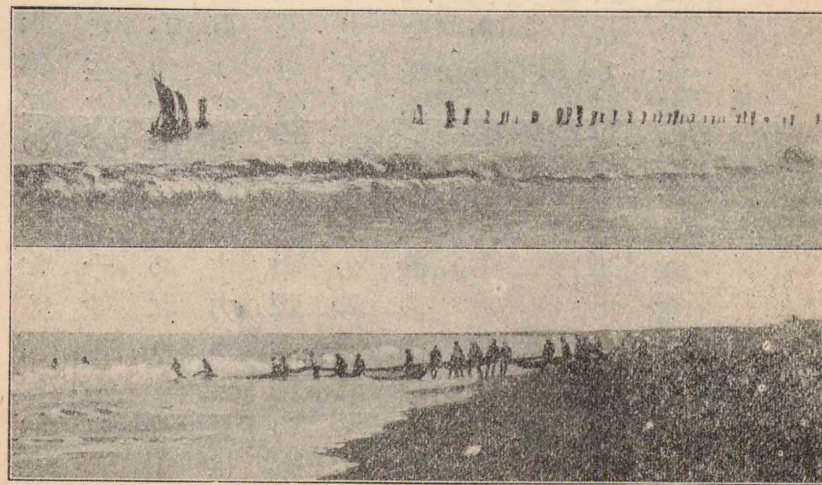
圖解 内地麥主産地方(内地年産額4,000萬圓)

圖解下 相模灣の漁船と地曳網

圖解 内地葉煙草主産地方(内地年産額1,000萬圓)



農業 關
東平野は、廣大肥沃にして農産豊かなり。米は千葉縣、麥・大豆は茨城、埼玉二縣、葉煙草は栃木、茨城、神奈川三縣に多く、麥・葉煙草の産額特に多し。太



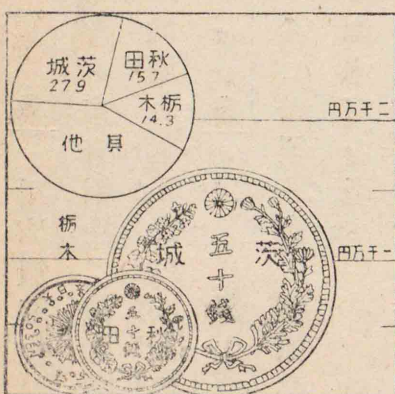
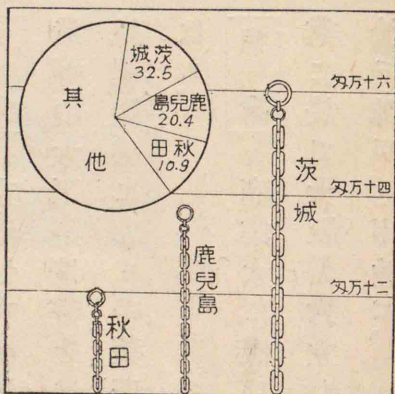
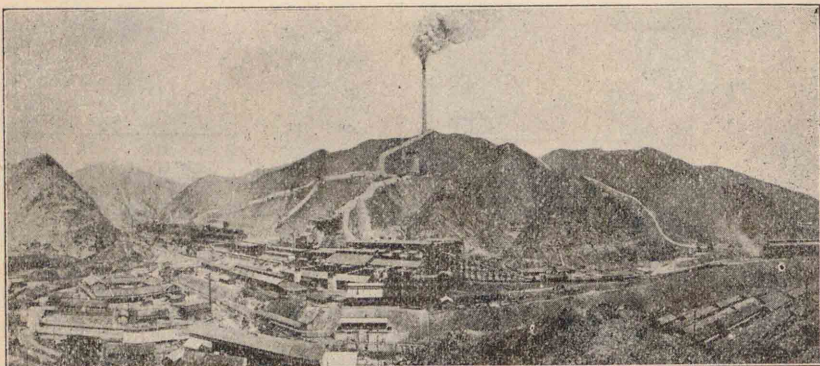
那珂流域の烏山も葉煙草の産地

圖解 内地金主産地方(内地年産額200萬圓)

千葉縣は養豚養雞も盛なり

圖解 日立鐵山

圖解 内地銀主産地方(内地年産額6萬圓)



田(久慈)・茂木・水戸(以上那珂流域)・秦野(大蔵山)は葉煙草産の中心なり。蔬菜栽培は、東京附近に榮えて、松戸(千葉)に、高等園藝學校さへ設けらる。養蠶は、群馬、埼玉の二縣殊に北西山(地)と關東平野との接合地方に盛なり。

東京灣頭にては海苔を養殖す

×湊・館山・木更津・三崎茅ヶ崎

圖解 内地毛織物類主産地方 (内地年産額八五〇萬圓)

△臺灣・朝鮮の金銀鑛をも製鍊す

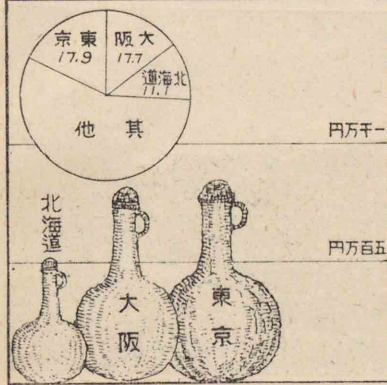
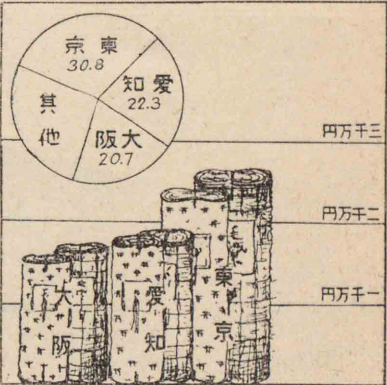
*大理石の一種

青梅は石灰石宇都宮・筑波山は石材を産す

×東京・鶴見・横濱・横須賀・浦賀

圖解 内地工業用品主産地方 (内地年産額七〇〇萬圓)

横濱は生絲・羽二重の輸出特に多し



漁業

暖流、鯷、鮪などを誘ひ、九十九里濱と東京相模二灣とは、特に好漁場にして、漁港に、銚子・北條・小田原等あり。

鑛業

足尾に銅山、日立に金銀銅山あり。共に帝國屈指の鑛山たり。茨城縣(北)は、石炭寒水石を産す。

工業

京濱地方は、紡織・製糖・造船・機械製造等の大工業地帯をなせり。養蠶地方は、製絲・絹織盛にして、千葉・茨城二縣の醸造亦著はる。

商業

商業大に振ひ、殊に東京は、内地商業に於て大阪と對立し、横濱は、外國貿易に於て神戸と相並ぶ。

第五節 交通

道路

到る處道路發達し、殊に東京は、數多の街道の起點となり、其の日本橋は、全國里程の元標たり。

鐵道

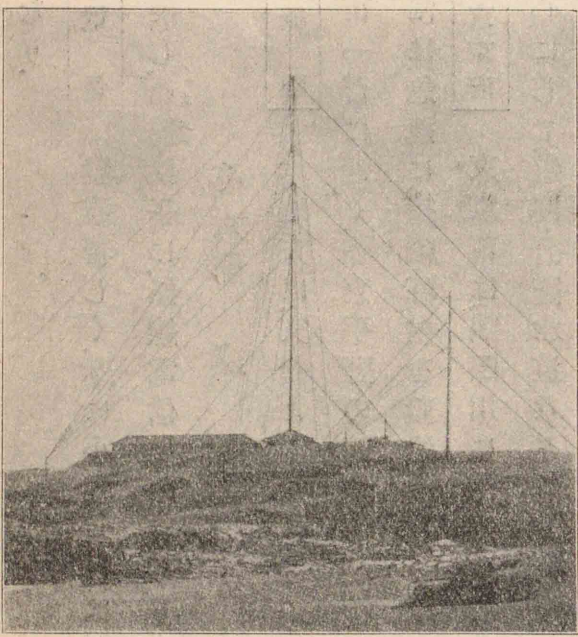
帝國中、最も能く發達して、蛛網狀を呈す。東海道・中央・東北常

- 1 東京・神戸間
- 2 東京・名古屋間
- 3 東京・青森間
- 4 東京・岩沼間
- 5 東京・銚子間
- 6 大宮・高崎間
- 7 高崎・新潟間
- 8 高崎・小山間
- 9 佐倉・佐原間
- 10 千葉・勝浦間
- 11 蘇我・北條間
- 12 大船・横須賀間

磐總武の諸線、東京を起點とし、此の他に、高崎・信越・兩毛・成田・房總・北條・横須賀等の諸線あり。

水運

横濱は、内外諸航路の大中心たり。東京も、沿岸航路利根川航運の起點



圖解 銚子の無線電信局

東武鐵道亦東京を起點とす

利根運河、利根江戸二川を連ねて東

京・銚子間の内航
路に當る

なり。

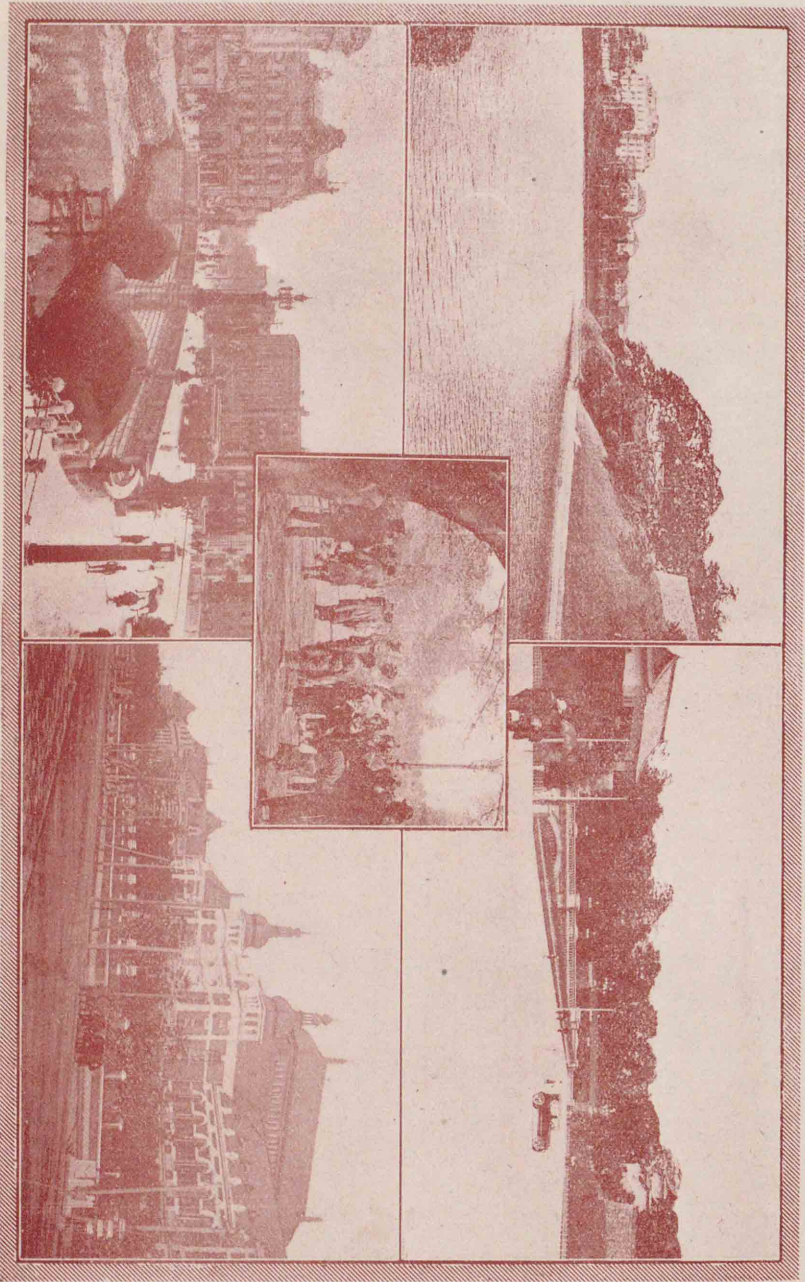
電信 發達著しく、殊に小笠原線は、太平線横斷電線の支線に接
續し、船橋・銚子に、無線電信局の設あり。

第六節 處 誌

概 觀 本地方は、文華よく開け、住民集中して、人口一萬以上の都
市一百に近く、關東平野の四邊と利根川筋とに特に多し。東京横
濱は、急速に、接續町村を發達せしめつゝあり。

× 麴町・本郷・小石
川・牛込・四谷・赤
坂・麻布・芝の八區
* 神田・下谷・淺草・
日本橋・京橋・本所・
深川の七區
市内に大審院・控

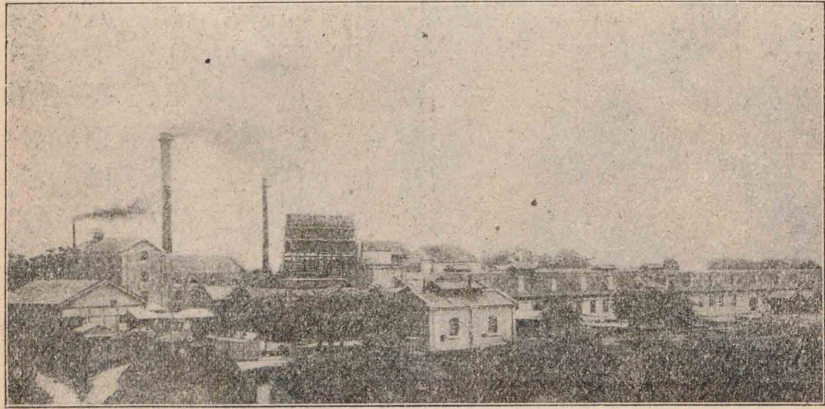
東京府 東京市は、隅田川に跨り、政治教育軍事交通商工業の大
心にして、道路公園水道など、能く修築せられ、實に世界屈指、東洋第
一の大都なり。行政上、十五區に分れ、地勢上、山手(臺)[×]下町(低)^{*}に分る。莊
嚴なる宮城略、中央におはし、諸官衙帝國議會議事堂各國大使館^カ
等、概ね此の附近にあり。北部には、東京帝國大學等の諸學校及び圖
書館博物館、西部には、兵營散在し、南東部には、銀行會社商店多く、東



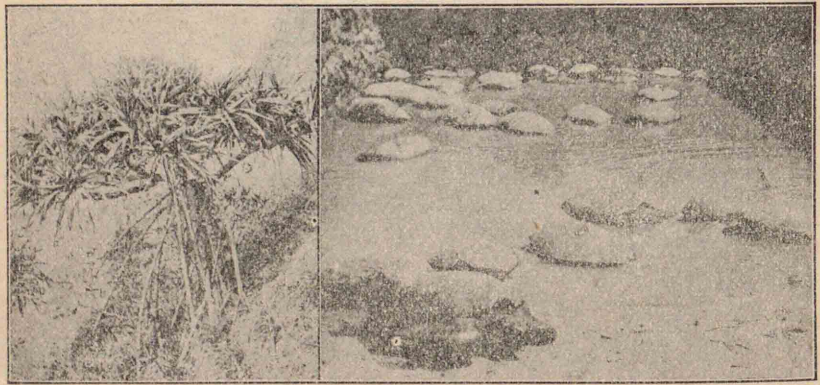
橋本日と院春大 圖下 國公野上 央中 部本謀參るた見リよ外門田櫻と城宮 圖上

訴院參謀本部海
 軍軍令部・近衛及
 び第一師團司令
 部・高等學校・商科
 大學・高等工業學
 校・高等師範學校
 等あり

圖解上 東京郊
 外澁谷に於ける
 大日本麥酒會社
 工場
 圖解下 鎌倉と
 林投樹



部及び四近は綿
 毛紡織製糖釀造
 製紙印刷等の工
 場多し。鐵道は東
 京・飯田・河上・野兩
 國橋の各驛を起
 點とし、電車は市
 の内外を通ぜり。
 上野・淺草・日比谷
 等の公園、靖國・淺
 草等の社寺には、
 地方人士も數多
 參集せり。品川・澁

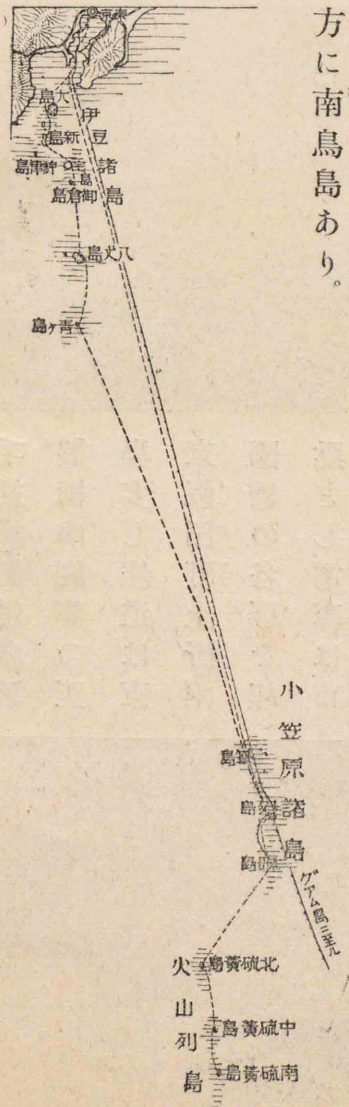


*大島利島新島
神津島三宅島御
倉島八丈島を云
ひ概れ椿油を産し
漁利多し
△要塞設けられん
とす

×珊瑚島

圖解 東京府管
轄南部の諸島

*川崎の大師鶴見
の總持寺に程近く



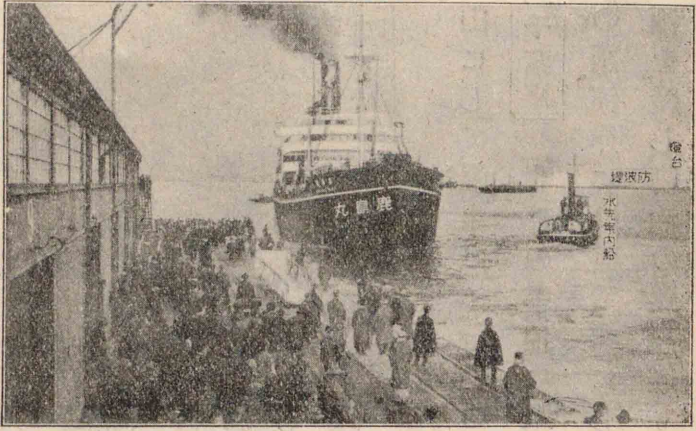
谷千住などの接續町村は、急速なる發達をなしたり。
八王子市は、絹織物(特に)の産多し。
伊豆七島中の大島に波浮港あり。八丈島に、絹織、牧牛行
はる。小笠原諸島は、熱帶性の生物(甘蔗鳳梨林)多く、父島
の二見は、日米海底電線の接續點にして、大村は、今や軍
事上の要地たらんとす。本諸島の南方に硫黃列島南東
方に南鳥島あり。

神奈川縣

*横濱市は、東京の外港、帝國二大開港の一にして、貿易の

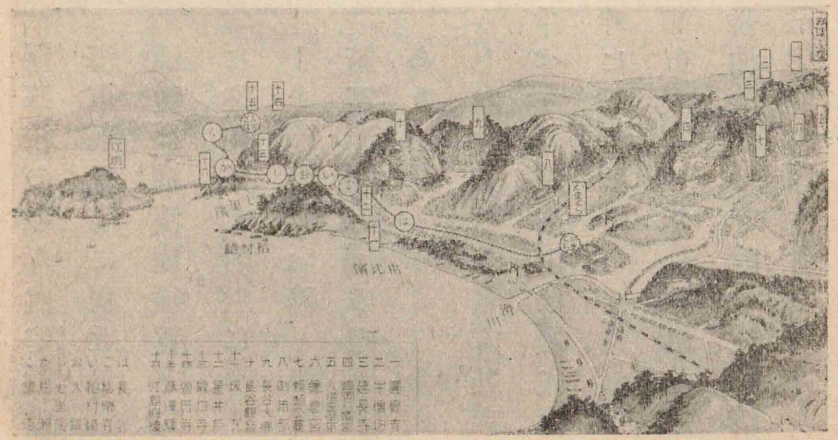
市内に輸出向きの
絹手巾麻真田陶器
漆器を産す

圖解上 横濱埠
頭
圖解下 鎌倉・
江島地方鳥瞰圖



業學校あり。横須賀市は、第一海軍區
の軍港を控へ、鎮守府海軍工廠海軍機

發達、神戸に
劣れども、實
に輸出の最
多港なり。
埠頭の設備
能く整ひ、生
絲羽二重の
輸出特に多
く、税關各國
領事館正金
銀行高等工

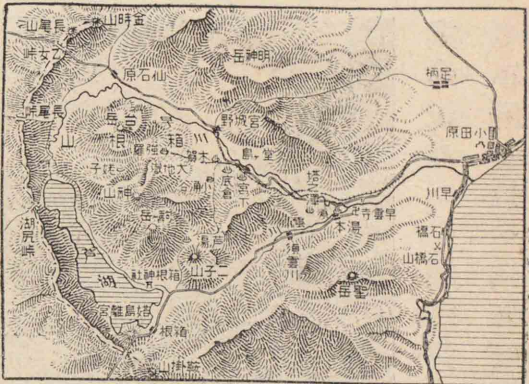


*鶴見にも行はる
×久里濱

圖解 箱根山附
近圖と蘆湖

*鎌倉宮・鶴岡八幡宮・圓覺寺・建長寺・長谷大佛等

*宮下のももの最も賑ふ



關學校のある處追濱の海軍飛行場に程近し。浦賀は、横濱横須賀と共に造船榮え附近に、ペリ上陸の記念碑と、觀音崎・富津洲(縣千葉)の砲臺とあり。

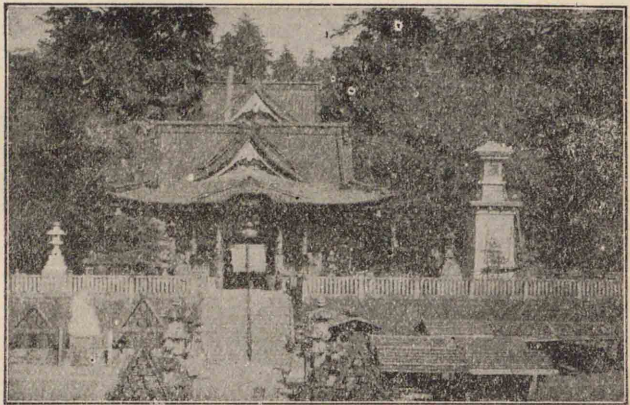
山にして、溫泉多く、蘆湖の風光すぐれ、湖畔に、離宮・關址あり。
*千葉縣 北部の平地は、米・麥の産多く、小都市散在せり。利根・江戸の兩河岸には、醸造盛にして、野田・銚子は醬油、流山は味醂、佐原は清酒を産し、醬油の産額最も多し。國府臺(江戸)習志野・佐倉の地方は、

*砲兵・騎兵・交通兵

圖解下 内地醬油主産地方(内地年産額2000萬石)
圖解上 成田不動堂

*經津主命を祭れる官幣大社
小湊は僧日蓮の誕生地にして誕生寺あり

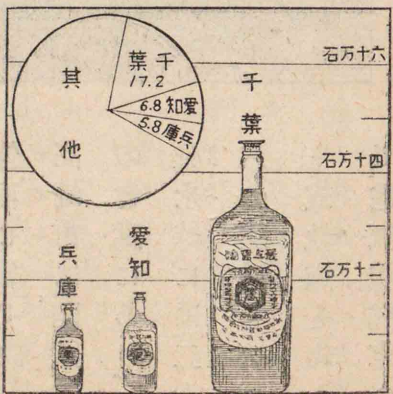
所澤に近き狭山は産茶地なり
深谷は製絲地



埼玉縣

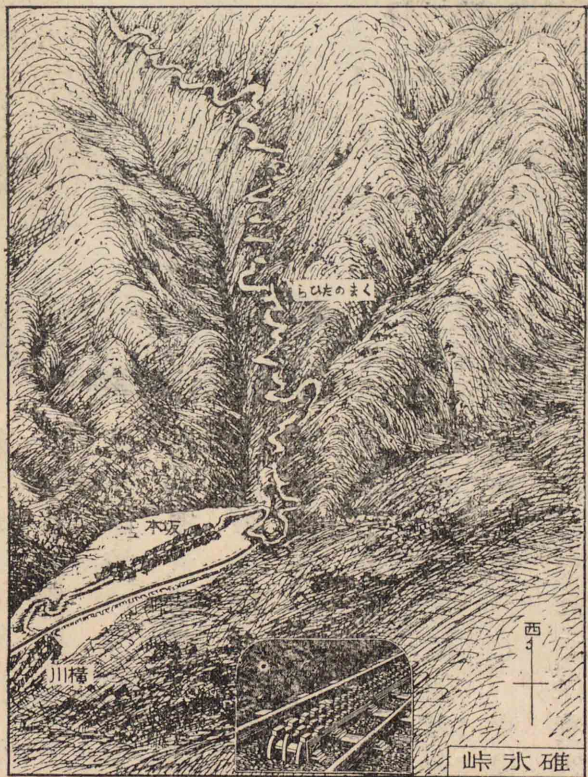
東半には、米・麥の産多く、小都市散在せり。東北高崎二線の接續點たる大宮に、鐵道工場・氷川神社あり。川越は、絹織物甘藷もて著はれ、所澤に、陸軍航空隊あり。熊谷は、北部養蠶地の中心に

練兵場多し。
*千葉市は醫學專門學校の所在地、總武房總二線の接續點なり。成田は、不動堂によりて賑ひ、佐原は、伊能忠敬の出身地にして、香取神宮に近し。東岸又は西岸は、鐵道の延長につれて、保養客、年々増加す。



* 熊谷・影森間
* 荒川流れて秩父
赤壁の名ある長瀨
の勝あり

* 上野鐵道と高崎
信越兩毛三線
圖解 碓氷峠ア
プト式軌道の經
路



名は、山容壯麗に
して共に湖水を
湛へ、妙義は、奇岩
怪石に富めり。
高崎市は、四鐵道
の會點にあり。
雄氷峠には、二十
六の隧道とアプ
ト式軌道とあり
て、電氣機關車を

して、秩父鐵道の分岐點なり。秩父盆地は、秩父絹を産して秩父を
市場とす。

群馬縣

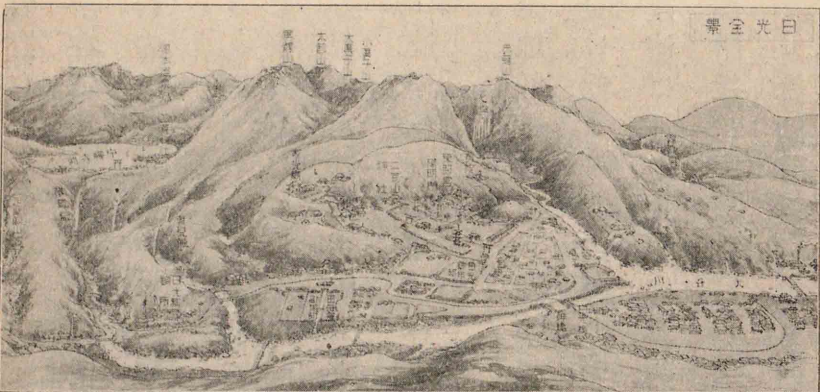
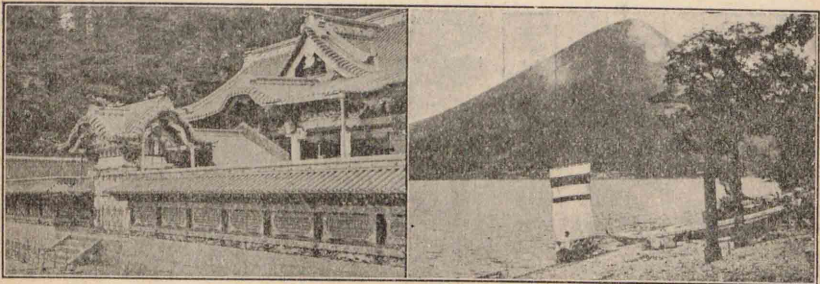
南東部以外は、山地にして温泉多し。上野の三山中、赤城・榛

前橋・原市（磯部附
近）も製絲行はる
館林には製粉とモ
スリンとの工場あ
り

圖解 男體山と
中禪寺湖と東照
宮と日光全景

* 絹綿交織物多し
* 關東の西陣と稱
すべく足尾鐵道の
起點なり

* 那須・鹽原等



通ず。

南西部は、埼玉縣の北部
に連りて、養蠶業の盛な
る處富岡は製絲地にし
て、前橋市は繭生絲の市
場なり。兩毛線上の伊
勢崎・桐生・足利（栃水
縣）地方
は、東日本の大絹織地帯
にして、桐生に、高等工業
學校あり。

栃木縣 南部以外は山
地にして、温泉勝地多し。
佐野は縮木綿の産地、小

山形縣上山等

圖解上 奥羽地方地勢

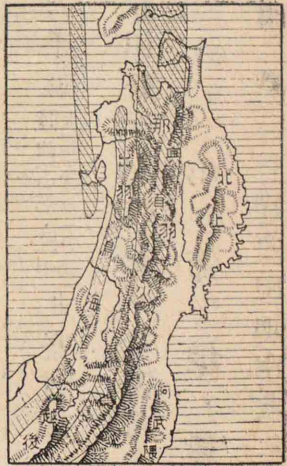
×明治廿一年七月
×廿六年六月大破
裂せり

圖解下 東部山地中央山地西部山地の断面圖

△早池峯・靈山時
つ ハヤチネ リンゼン

圖解上 鳥海山

123 羽前の三山
磐梯山 會津富士
岩手山 南部富士
鳥海山 出羽富士
岩木山 津輕富士



八甲田・恐の諸山とより成り、著しき分水界たり。東部山地は、北上・阿武隈の二山脈にして、仙臺灣の爲に中斷せらる。西部山地は、出羽山脈(羽黒山・鳥海火山・岩木山・鳥海山・月山・湯殿山)より成れり。火山は、概

なる平野なし。

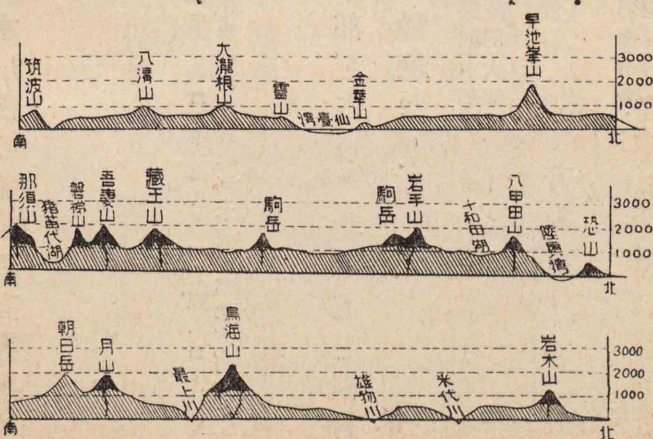
山誌

中央山地は、奥羽山脈と那

須火山脈

(磐梯) 吾妻

藏王岩手

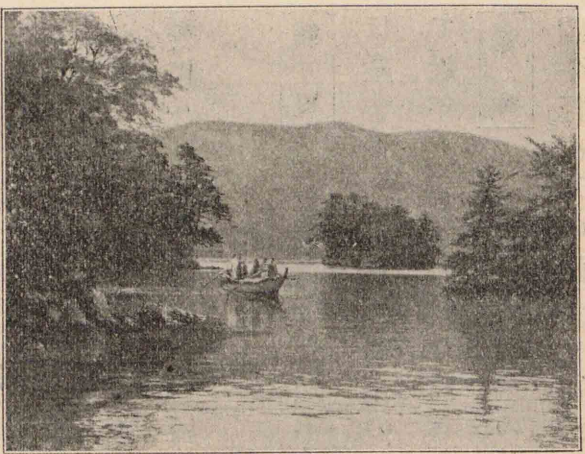


概ね東部諸川は縦谷西部諸川は盆地・横谷を開けり

圖解 十和田湖

△小河原沼・田澤湖も著はる
×鱒の一種の養殖成功せり

北に尻矢崎大間崎龍飛崎あり



海岸

概ね單調にして、屬島も少なし。牡鹿半島は、仙臺灣の東を限る。此の半島より、岩手縣東岸の中部までは、鋸齒の如く出入すれども、北上山脈内地との連絡を斷ちて發達を阻害す。下北(形)津

ね牧馬場たる裾野を曳きて山容美はし。

水誌平野

東部の北上・阿武隈二川は、太平洋に注ぎ、下流に、仙臺平野を合成せり。西部の岩木(代能)・雄物(御)・最上・阿賀諸川は、日本海に注げり。最上川の下流に庄内平野、雄物川の下流に秋田平野、岩木川の下流に津輕平野開けたり。湖沼中、十和田湖・猪苗代湖・八郎潟は著はる、何れも風光佳なり。

輕二半島は、斧形の陸奥灣を入る。西岸は、沙濱・沙丘發達し、奇勝に富める。男鹿半島、澤湖の八郎瀉を抱けり。

第三節 氣候

本州中最も低溫にして、冬季の積雪交通を妨ぐ。津輕海峽と東海上とは、濃霧屢起り、日本海は、冬季に風浪高し。

第四節 産業

概観

氣候寒冷、交通不便の爲、今尙ほ産業振はず。是れ開拓の餘地多くして、近年東北振興の聲高き所以なり。

農業

一般に、馬鈴薯の栽培盛なり。四平野は米の産多く、阿武隈河谷、米澤

× 東部特に然り
夏季も雪除を去らざる爲、本地方の鐵道旅行は不愉快

圖解 男鹿手島の奇勝

往々初夏に冷濕なる東北風發達して凶作を來す
殆ど二毛作行れず従つて麥の産額寔に少なし

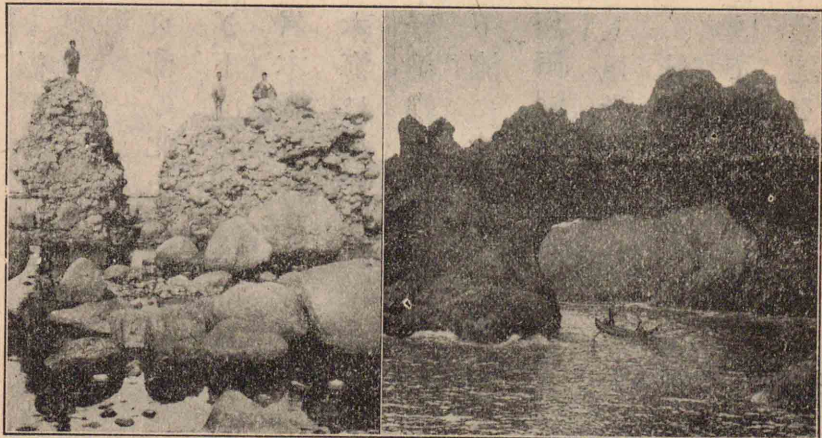
× 人口少なき爲古來他に移出す



盛岡の馬市



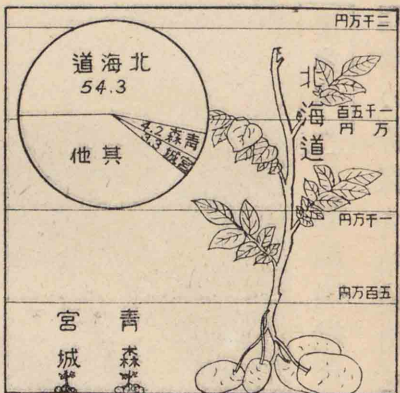
秋田縣北部(長木澤)の林相と木材伐り出し



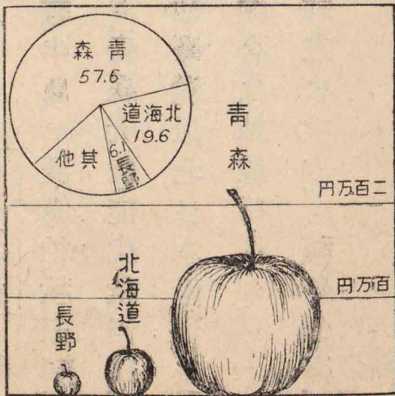
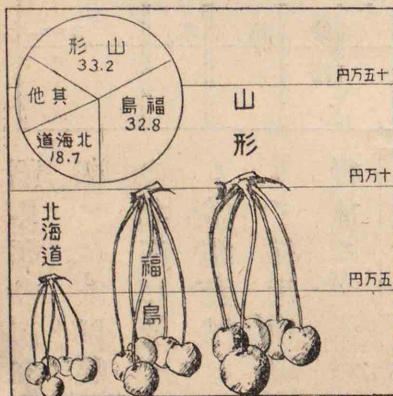
圖解上 内地馬鈴薯主産地方
(内地年産額三〇〇萬圓)

圖解下 内地苹果主産地方(内地年産額三〇萬圓)
内地櫻桃主産地方(内地年産額三萬圓)

下北半島に安部城の銀銅山あり
*和賀川の流域に仙人鐵山網取金銅山あり



附近は養蠶盛なり。青森・岩手二縣の苹果、最上川上流地方の櫻桃サクランボ世に著はる。此の二業の盛大なるは、本地方の特色なり。牧馬は、青森・岩手・福島三縣に榮えて、白河・盛岡は、馬市盛なり。秋田縣は銅の産額特に多くして、小坂を始め、尾去澤・荒川・阿仁等の諸鑛山ある上に、近年黒川等の油田、發見せられたり。岩手縣には、釜石鐵山等の鑛山あり。

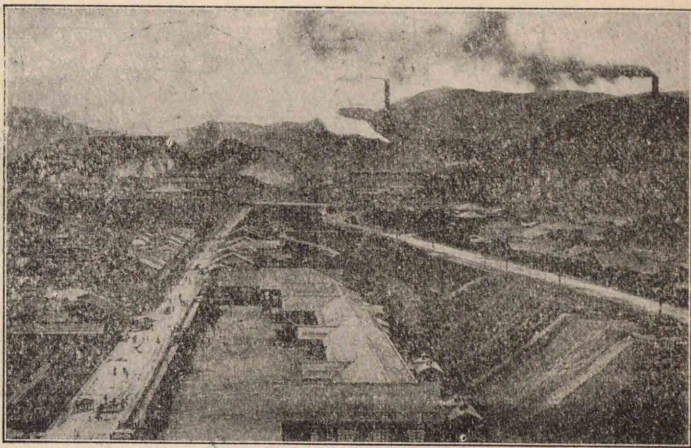


圖解下 内地銅
主産地方(内地
年産額一八〇〇萬
斤)

×四倉のセメント
湯本の煉瓦

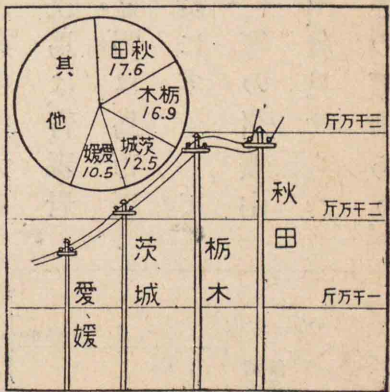
山 圖解上 小坂鐵

石巻・萩濱・鹽釜・宮
古・鮫・青森は漁港



工業商業

製絲・絹織は、福島縣に榮え、山形縣之に次ぐ。福島・仙臺、開港の青森は、商業稍盛なり。



福島縣の南東部には、茨城縣の北部に及べる常磐炭田ありて、採炭業は行はる。

林業・水産業 森

林多く、殊に津輕半島に羅漢柏、秋田縣に杉の美林あり。青森大館能代秋田は、製材盛なり。仙臺灣以北は、水産稍多く、金華山鮫の沖合は、捕鯨行はる。

第五節 交通

- 1 福島・青森間
- 2 平・新津間
- 3 小牛田・大山等間

青森・鹽釜・船川は
早晚築港完成せん
×航程五時間

×羽二重産地の小
高あり

鐵道 地勢上、先づ常磐東北・奥羽の三縦線成りしが、今や磐越陸羽二線など、山地を横斷するに至れり。郡山・福島・平・岩沼・小牛田・新庄は、鐵道の會點なり。

海運 良港少なく、殊に日本海は、冬季に風浪荒し。斯くて本地方は、海運振はず。獨り青函連絡航路のみ賑へり。

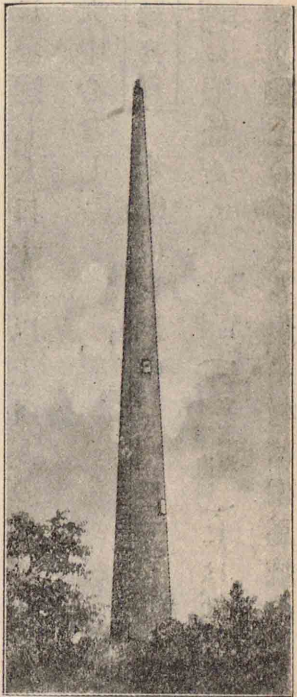
第六節 處誌

概観 人口の密度、關東の四分之一に止まり、都市は、概ね河岸のみに發達し、人口十萬以上のものは、唯、仙臺あるのみ。従つて商工業の大中心なし。

福島縣 本縣は、奥羽の南門にして、勿來・白河(附)に關址あり。東通(阿武隈山脈)には、常磐線通ぜり。線上の綴は、石炭・中村は、相馬燒の市場に

吹く風を勿來の關と思へども、道もせに散る山櫻かな (源義家)
都をば霞と共に立ちしかど、秋風ぞ吹く白河の關 (能因法師)

圖解上 原町の無線電信設備



して、富岡・原町に無線電信局あり。中通(阿武隈河谷)には、東北線通ぜり。線上の白河・須賀川は、三春と共に牧馬榮え、郡・山・二本

×翁島浮び磐梯山峠てり

圖解下 福島生絲荷造検査所

日橋川の沿岸に亞鉛製錬・製銅・鹽酸加里製造行はる
×會津蠟燭をも集散す其の北西に絹織業地喜多方あり

松は、製絲盛なり。福島市は、繭生絲の市場にして、川俣と共に羽二重を産す。

阿賀川水源の猪苗代湖は、風景に富み、其の安積

疏水は灌漑を助け、湖脚に壯大なる發電所あり。

若松市は、會津盆地の中心、會津塗・會津燒の市場

にして、悲壯なる白虎隊もて著はる。

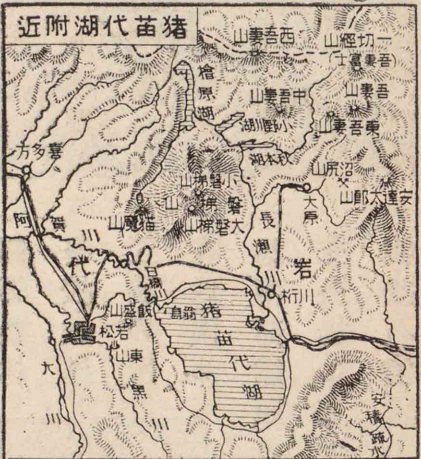
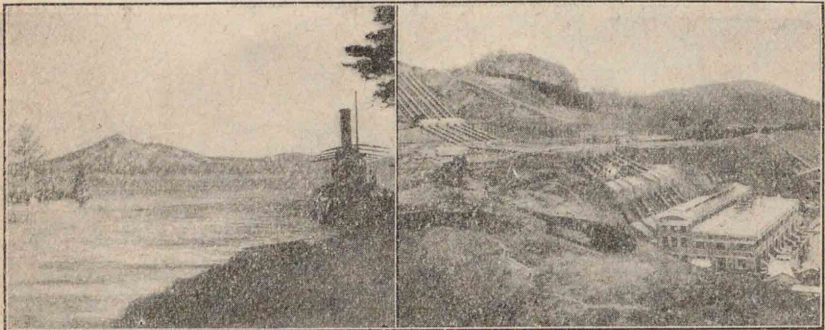
宮城縣 仙臺市は、奥羽の最大都、伊達侯の舊城

下にして、第二師團司令部控訴院、東北帝國大學



圖解上 猪苗代湖の水電工事と其の風光

府縣中面積最大人口稀薄なり



第二高等學校の所在地なり。仙臺平埋木細工を名産とし、松島灣岸の鹽釜を以て其の外港となす。

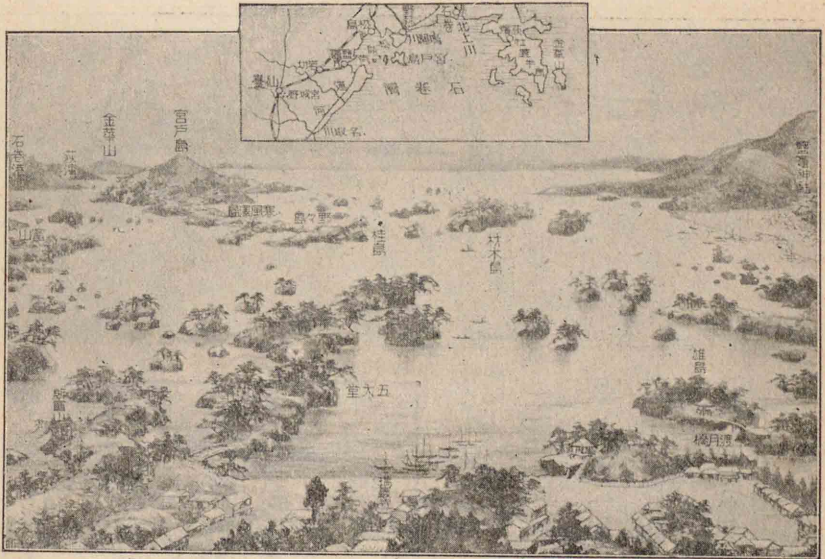
松島灣には、松樹の茂れる數多の小島星散して、風景恰も畫けるが如く、日本三景の一に數へらる。北上河口の石巻は、仙北線の起點、茨濱は、横濱・函館間の要津にして、鬼首チニカレベに、間歇溫泉牧場あり。

岩手縣 平泉は、奥州藤原氏の據りし處、中

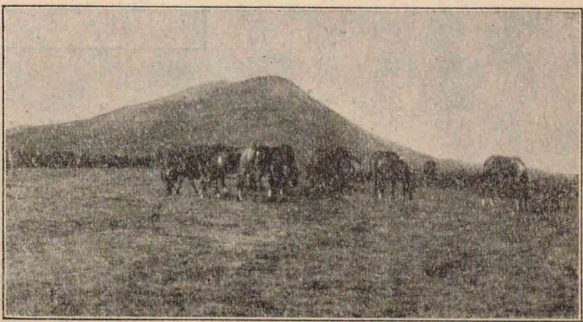
一關は縣の南門衣川は阿倍頼時貞任父子の據りし處水澤は臨時緯度觀測所の所在地

圖解下 小岩井農場と岩手山
△郊外に厨川柵址あり

圖解上 松島灣



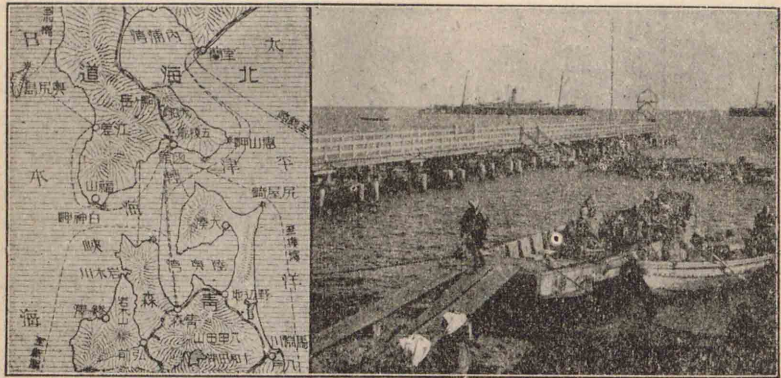
尊寺の金色堂は、其の榮華の名残を留む。
盛岡市は、高等農林學校鐵道工場の所在地、南部馬南部鐵瓶の市場にして、小岩井農場に程近し。海岸に、大船渡、釜石、宮古の良泊地あり。就中



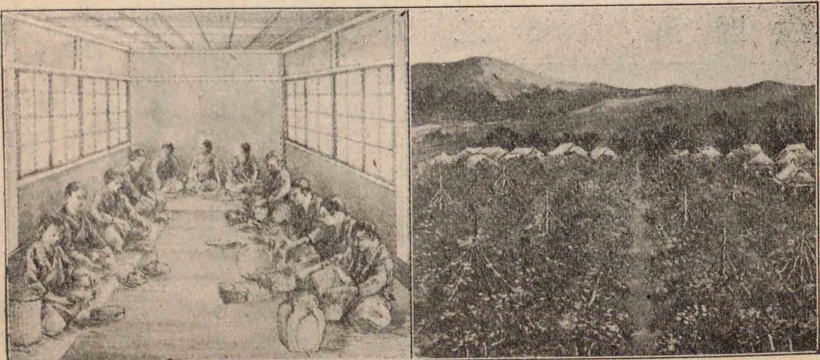
×金・銅をも製鍊す
*附近の石灰岩は秋田縣の諸鐵山に送られ東の鮫・湊は捕鯨地なり

圖解上 青森塚頭と其の附近
圖解下 苹果畑と木通細工

×大正十年度設立



釜石は製鐵行はる。青森縣八戸は、馬淵川と八戸線とに沿へり。八甲田山の東斜面には、三本木等の牧馬場あり。大湊は、海軍の要港、津輕海峽の鎮にして、青森市は、水陸交通の要地なり。弘前市は、津輕平野の中心、高等學校、第八師團司令部の所在



圖解上 秋田の大蔵



地津輕塗・苹果・木通細工の市場なり。
秋田縣 北東部には、鑛山・杉林多し。秋田市は、鑛山専門學校の所在地にして、大産地にして、大

*北方に金澤柵址あり

圖解下 酒田の米積み出し

*岩手縣黒澤尻に至るべきもの

*馬琴の句

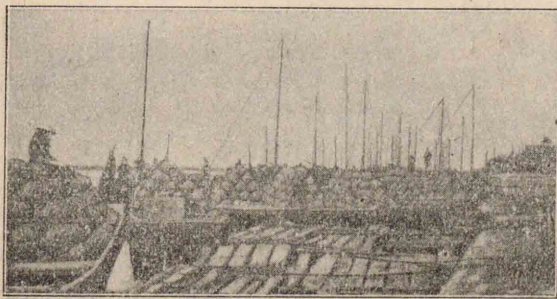
鐵道交叉點の新庄は龜綾織を産す *今は多く鐵道輸送による

落の名産あり。雄物河口の土崎は、市の外港なれども、北西の風浪を避け難く、男鹿半島の船川之が補助港たり。横手は、中央山地を横過すべき鐵道の起點なり。

山形縣

五月雨をあつめて早し最上川は、本縣

の動脈なり。河口の酒田は米の移出地、庄内平野の鶴岡は羽二重の産地なり。山形市は、最上盆



地に位し、高等學校あり。米澤市は、上杉鷹山の遺蹟地にして、今も勤儉質實の風を存し、養蠶・絹織榮えて高等工業學校あり。

第三章 本州中部地方

面積 11 萬三千里 人口 11 千六萬人 一方里人口 11 五〇人 隣境 11 關東地方・奥羽地方・日本海・近畿地方・太平洋

第一節 地域

本地方は、面積、奥羽に近くして九縣に分る。長野・新潟の二縣最も廣く、人口の密度は、各縣、概ね中庸を得たり。

山梨縣 斐甲 11 甲府市

静岡縣 伊豆大部 駿河遠江 11 静岡市

愛知縣 三河尾張 11 名古屋市

岐阜縣 飛美 濃驛 11 岐阜市

長野縣 濃信 11 長野市

新潟縣 越佐 後渡 11 新潟市

富山縣 越中 11 富山市

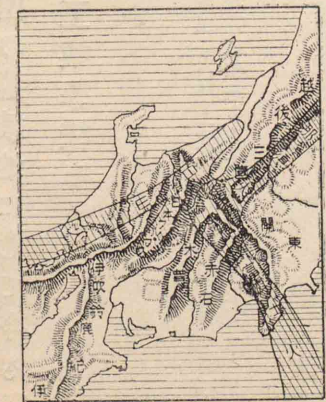
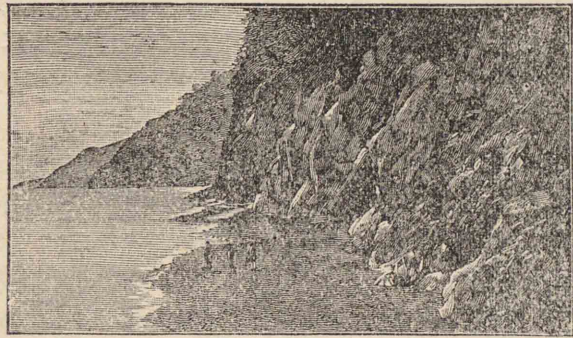
石川縣 能加 登賀 11 金澤市

福井縣 越前若狹 11 福井市

第二節 地勢

概観 本州中、幅最も廣く、土地最も高峻なり。北東派山系と南東脈山系、本地方に接合して、山脈火山脈多く、中部特に高峻なり。斯くて平野は、概ね海岸にあるのみ。

山誌 略中央には、親不知の險崖より起れる飛驒山脈(大蓮華山・白馬岳・鎗岳)と乗鞍火山脈(乗鞍岳・御岳)と並走して、日本アルプスと總稱せられ、一萬尺内外の高山名峰の相連れる様は、實に天下の壯觀にして、夏季



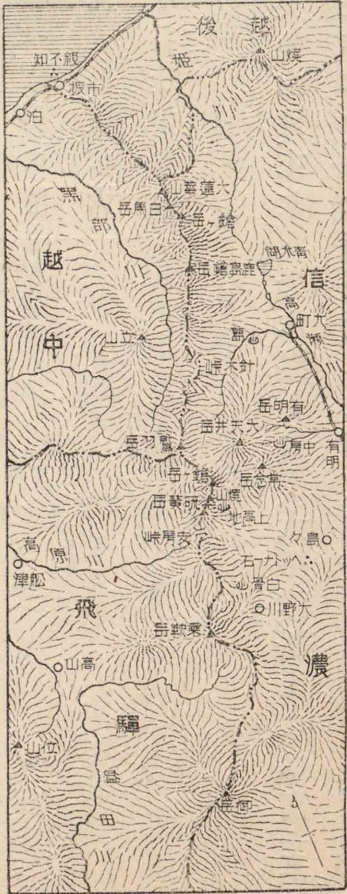
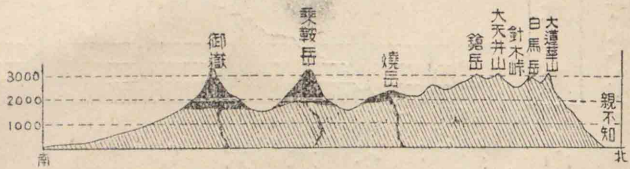
*山地の峡谷に細長く開けたるものもあり

圖解上 親不知

圖解下 本州中部地方地勢

圖解 日本アルプスの平面圖と断面圖

日本アルプス木曾山脈間に木曾川木曾赤石二山脈間に天龍川赤石山脈富士火山脈間に富士川の河谷あり

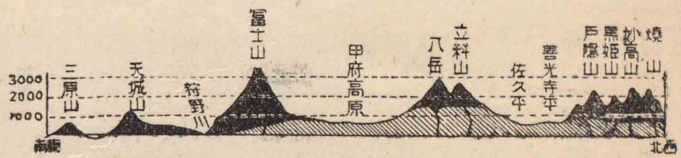


の登山者、年と共に多し。西部には、白山火山脈(白山濃飛高地・伊吹山脈)あり。東部には、木曾赤石關東三國越後の五山脈と、富士那須(淺間山)の二火山脈とあり。

富士火山脈は、富士を主峰とし、北に八嶽戸隠山・妙高山・南に箱根山・天城山を起し、熱海・修善寺等の温泉脈中に湧けり。富士は、世界の名山、帝國屈指の高峰にして、東海の表に、缺尖圓錐形の

夏期には吉田・須走・御殿場・大宮など登山者の爲に賑ひ山頂に電話を設けらる

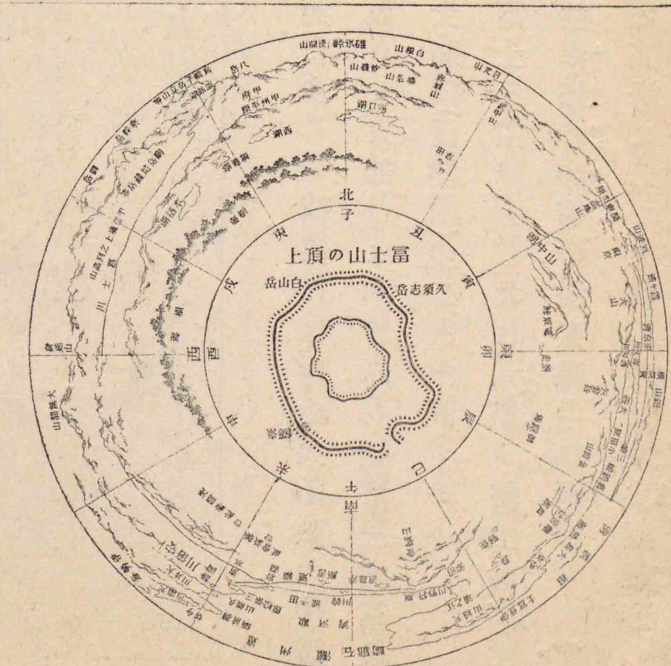
圖解上 富士火山脈断面圖
圖解下 富士山頂展望範圍



水誌

倍大井・天龍・矢作・木曾・日本海斜面には阿賀・信濃・黒部・神通・庄(水)・九頭

雄姿、凜々しく峙ち、一萬二千餘尺の劔峰を最高とし、夏季、登山者甚だ多し。山頂に登らば、眼界の半徑六十餘里、千山萬水、呼べば將に應へんとし、實に天下を吞吐するの感あり。



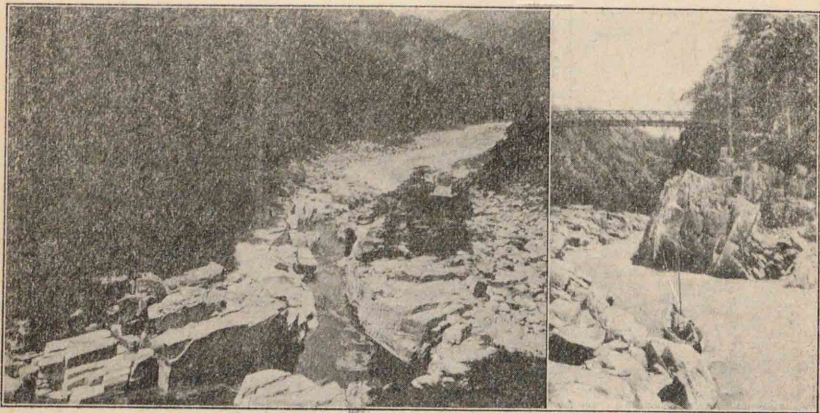
*濃尾・越後・越中の三平野著大なり

*石斧形*手首形

圖解 天龍峽と寢覺床

駿河灣・遠州灘間に御前崎斗出し其の燈臺は東海道線の乗客夜間能く認むべし

*沼津・興津等



龍の諸川あり。これ等の多くは、上流に、寢覺床・天龍峽の如き絶勝の峽谷を作り、下流に、平野を開けり。

湖沼は、濱名湖・諏訪湖著はる。富士の北麓には、河口・山中の諸湖相連り、日本海岸には、澤湖多し。

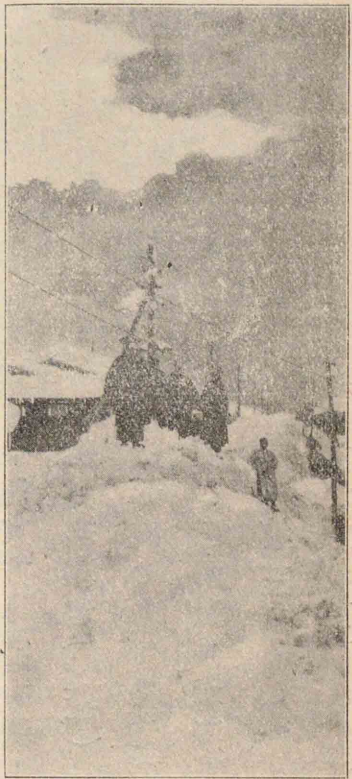
海岸 伊豆半島西方の駿河灣と、能登

半島東方の富山灣とは、共に水尋深く、伊勢海若狭灣(賀特に敦)は、相逼りて本州地峽を形成せり。伊勢海の東、知多渥美二半島間に三河灣、日本海上に佐渡島あり。

第三節 氣候

本地方の南面は、海洋性氣候にて保養地

圖解 日本海方面の深雪

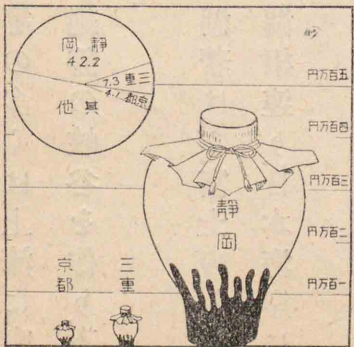
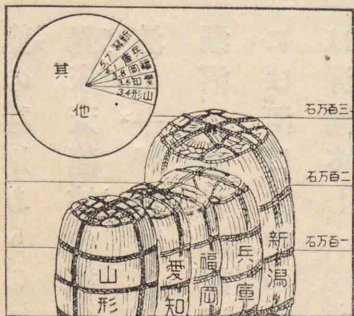


共に、晩春、梅櫻桃李一時に發くの快觀あり。

第四節 産業

農業・林業 越後・越中濃

尾の三平野は、米の産多く、越後米・越中米は、海路北海道に、陸路東京に送らる。愛知縣は麥、靜岡



に富み、夏季に雨量多し。北面は、冬季に雨雪多く、風浪高し。中部は、稍大陸性氣候を帯び、奥羽・北海道と

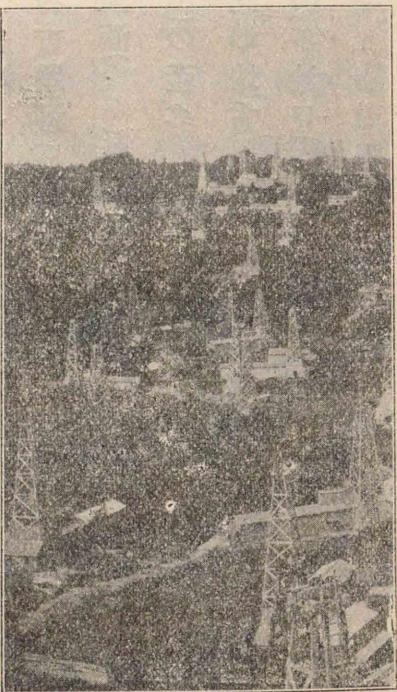
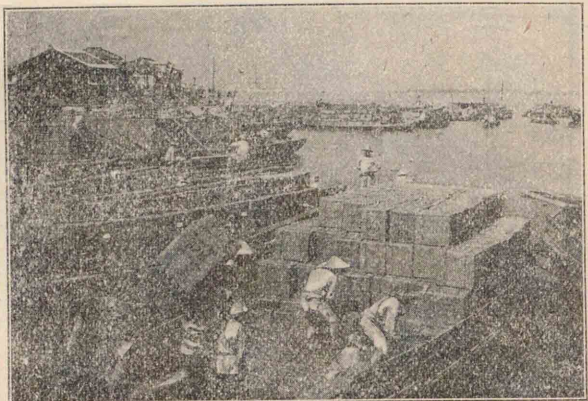
圖解 内地米主産地方 (内地年産額 50 萬石) 内地茶主産地方 (内地年産額 200 萬貫)

山梨縣勝沼附近は葡萄を産す

圖解上 清水の茶積み出し

圖解下 東山の油井高槽と内地石油主産地方 (内地年産額 20 萬石)

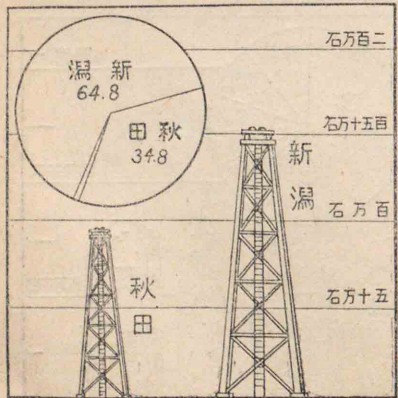
静岡・島田は製茶地



縣は茶・蜜柑の産多く、茶の輸出港に清水あり。木

×は栃尾浦瀨等は長嶺尼瀨等の總稱にして長岡によりて東西を區分す

曾・天・龍の上流は、美林相連り、名古屋市・天龍河口は、爲に木材堆積せり。
鑛業 東・山・西・山等には、油井の高槽、林の如くむらがり立ちて、新潟縣の石油産



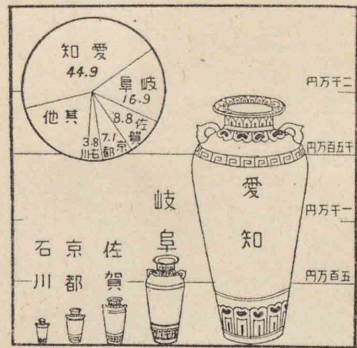
石川縣尾小屋に銅山梨縣金峯山に水晶を産す
濱名灣・三河灣には鱧の養殖長良川には鮎漁秋後の諸川には鮭漁行はる

圖下 内地繭主産地方(内地年産額2,300萬圓)
内地蠶絲主産地方(内地年産額5,500萬圓)

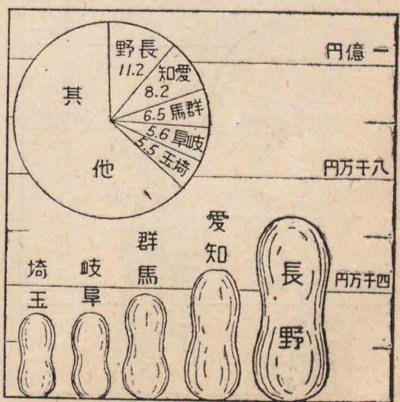
圖解上 内地陶磁器主産地方(内地年産額1,000萬圓)

知多木綿・三河木綿鳴海絞は人口に喰ふせらる

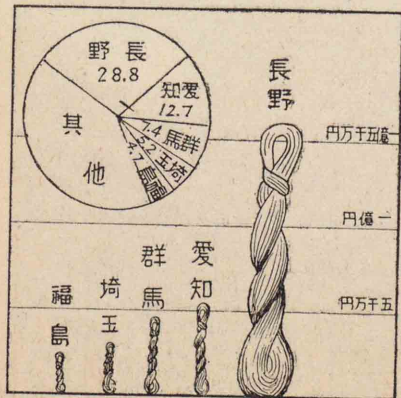
額の全國に比なきを偲ばしめ、柏崎・長岡・新津は、製油盛なり。相川(佐)に金、久根(江)に銅、神岡(飛)に銀、亞鉛を産す。
水産業 静岡縣伊豆半島沼津、燒津は、鱈の漁獲多く、富山灣も、亦好漁區なり。
工業 名古屋地方は、有數の工業地帯にして、綿絲織物、車輛、時計(以上名)陶磁器(名古屋瀬戸常滑)清酒、龜崎、麥酒、半田の産多し。濱松岡崎地方も綿織物、多治見(美)金澤等も陶磁器を産す。



愛知 44.9
岐阜 16.9
他 8.8



愛知 11.2
岐阜 8.2
他 6.5



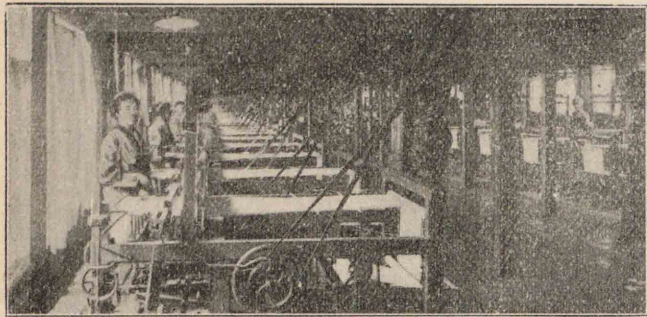
岐阜 28.8
愛知 12.7
他 7.4

*小松・大聖寺山代・九谷も陶磁器産地

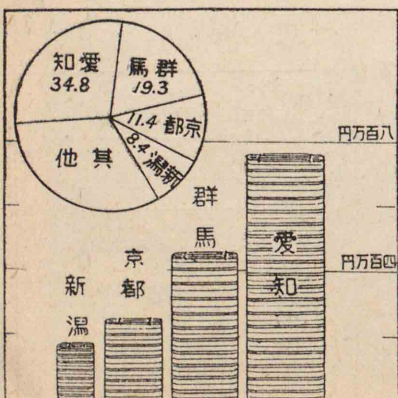
圖解下 内地絹織物主産地方(内地年産額3,800萬圓)
内地絹綿交織物主産地方(内地年産額1,000萬圓)
圖解上 金澤の羽二重工場

す。

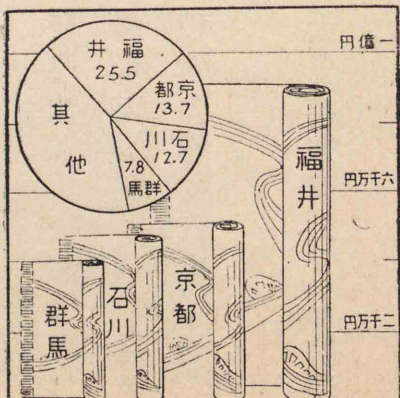
製絲は、特に長野・愛知・山梨三縣に榮え、諏訪湖畔の岡谷を主とし、須坂(信)・甲府・豊橋(中)津(濃)等之が中心たり。絹織物は北陸方面、絹綿交織物、毛織物は愛知縣を主とし、福井・金澤は、羽二重産の中心たり。小山(縣)阿(の)絹綿紡織大工場は、東海道線乗客の驚嘆



驚嘆 (キヤットン)



愛知 34.8
岐阜 19.3
他 11.4



愛知 25.5
岐阜 13.7
他 7.8

× 甲斐絹とも書く
△ 堅牢 ▲ 日用的を
特色とす 静岡・高
岡・金澤・山中も
漆器産地

圖解 内地洋紙
主産地方(内地
年産額一億圓)

尾張の一宮美濃の
大垣は市場賑はし

× 米原・直江津間
* 名古屋・大阪間

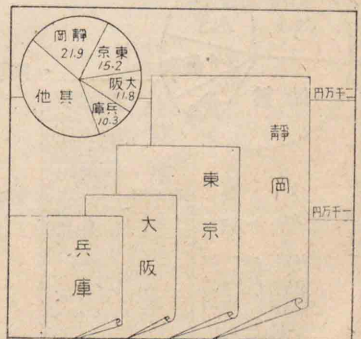
* 長さ約三哩汽車
の通過時間約十分

× 浦鹽斯德等に至
る航路多し

する所なり。郡内(山梨)の谷村は海氣の産多
し。洋紙は静岡縣(附近)和紙は静岡・岐阜・福井
三縣の産多く、輪島(能登)小濱(狭)に漆器を産す。
商業 名古屋は商業の大中心にして、新潟
伏木は北海道と商脈を通ず。以上は清水・武豊
夷・七尾・敦賀と共に開港なり。

第五節 交通

鐵道 名古屋を始め、東海道筋最も能く發達せり。全部複線た
る東海道線は、中央・北陸・關西の三線と共に略東西に馳せ、信越・磐越
二線は本州を横斷せり。日本海方面は、往々積雪の爲に汽車不通と
なり、中央線には、帝國最長の笹子隧道あり。
水運 日本海方面は、冬季の高浪等の爲、太平洋方面よりも航海
發達せず。名古屋・清水・敦賀は、船舶の出入多し。



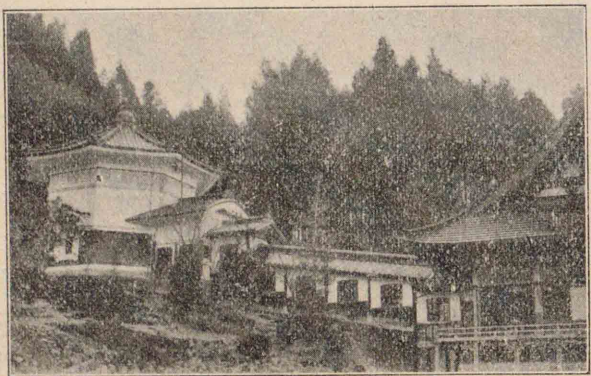
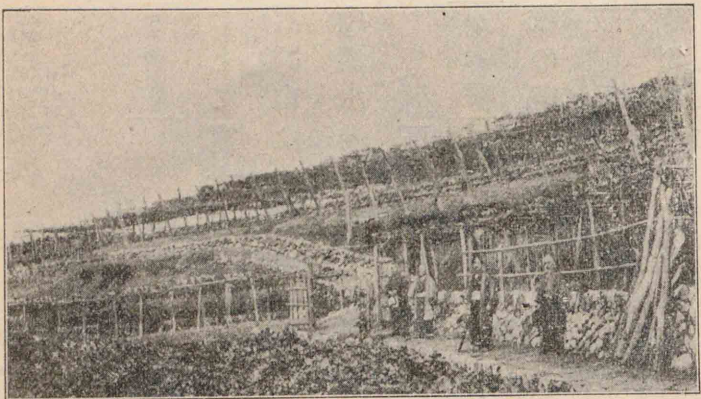
第六節 處誌

概観

産業・交通稍開け、都會は、海岸及び中部諸盆地に散在し、大
都名古屋の附近特に多し。

山梨縣 郡内の

桂川筋に、猿橋の
奇勝と發電所(大月)
とあり。甲府盆
地の勝沼は、葡萄
の栽培多く、甲府
市は、生絲・葡萄酒
水晶細工の産地、
中央線上の要都
にして、御嶽の絶



圖解上 勝沼の
葡萄園
圖解下 身延山
久遠寺
× 勝沼や馬子も葡
萄をくひながら
(馬琴)以て勝沼が
如何に葡萄の産の
多きかを知るべし
勝沼の東方に天目
山あり

* 日蓮宗の大本山たる久遠寺あり

* 附近の韭山に江川太郎左衛門築造の反射爐あり

* 東照宮あり

* 附近は綿織業盛なり又北方の三方原は今や茶園果樹園となれり

* 北東に豊川稻荷・鳳來寺山(塊狀火山)巨篠あり又師團司令部の實際上の所在地は高師なり

* 綿織物・味噌を産す

* 第八高等學校・高等工業學校・醫學專門學校(大正十一年度高等商業學校設立)

名古屋の發達は位置と共に中京の稱に背かず

勝に程遠からず。^{カシカザハ} 鯉澤は、富士川舟運の起點にして、川下に身延山あり。

静岡縣

伊豆に、三島と名港の下田とあり。駿河灣岸は、氣候温和にして富士の高嶺を仰ぎ、沼津・田子浦・興津・三保松原こゝにあり。

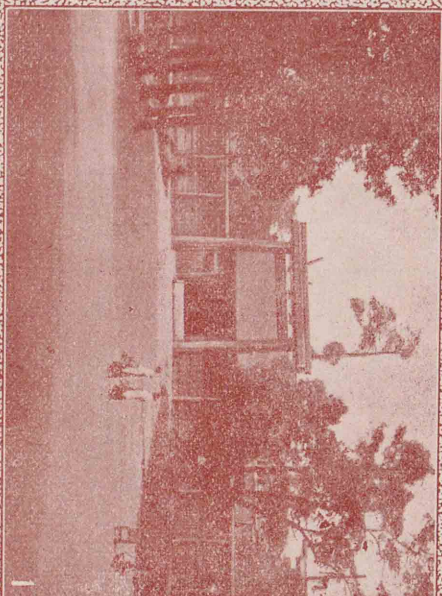
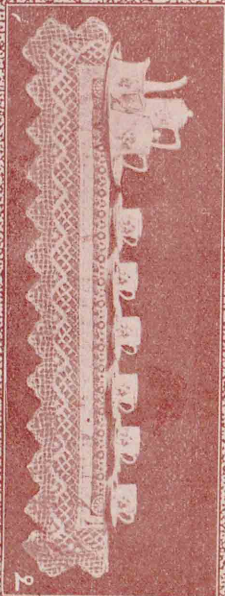
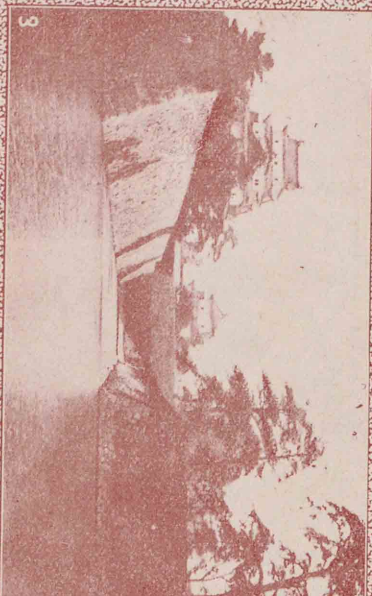
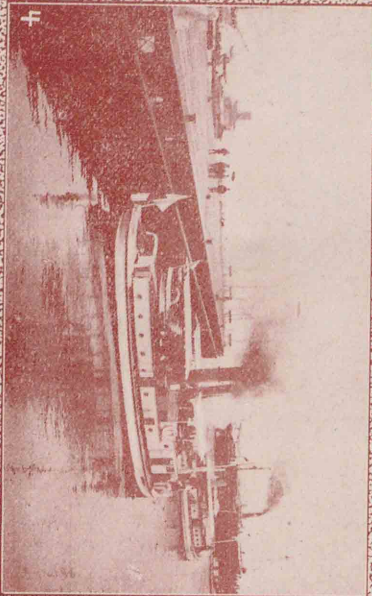
静岡市は、安倍川の下流に臨み、製茶・漆器・竹細工の市場にして、久能山清水港に程近し。

濱松市は、樂器・帽子・形染を産し、鐵道工場もありて、縣下第一の工業地なり。

愛知縣

豊橋市は、第十五師團司令部の所在地なり。尾參の地は、英雄の崛起せし處、中にも岡崎市は、徳川家康・清洲は、織田信長、中村は、豊臣秀吉の生地にして、長篠・桶狭間・長久手・小牧は、古戰場なり。

徳川親藩の城下たりし名古屋市は、高等諸學校・控訴院・熱田神宮の所在地にして、水陸交通の要地、新進の開港なり。舊城には、離宮・第三師團司令部設けられ、金鯨燦然たり。



橋・棧・港・屋・古・名・4 城・屋・古・名・3 品・製・社・會・式・株・器・陶・本・日・2 宮・神・田・熱・1

*岐阜縮緬・繭紬
をも産す
*陸軍の飛行練習
場所在地

圖解下 岐阜産
の提燈・傘・團扇
圖解上 鶴と鶴
飼

*石田三成・徳川
家康の陣場*大公
岡の中にあリ
*庄(射水)川の上
流に白川郷あり
縣内に砥捨山・寝
覺床・天龍峽等の
勝地あり

岐阜縣

*岐阜市

は、鶴飼に名高き長良川に臨み、紙製品(提燈・傘・ナ)を産

し各務原ツカガハに近し。

大垣市オオカキは、綿絲

毛織物を産し、揖

斐川によりて桑

名(三重縣)と南北相

應じ、米の取引多

く、附近に、關原養老瀧あり。高山は、飛驒の要都、春

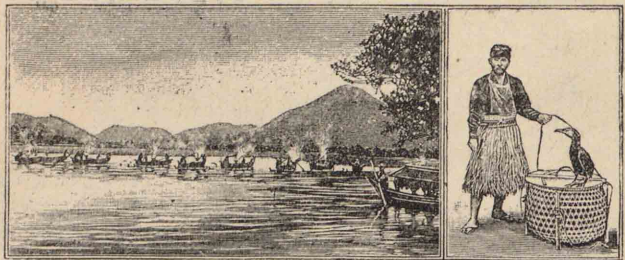
慶塗の産地なり。

長野縣 木曾谷は福島、松本平は松本、伊那谷は飯

田、諏訪平は上諏訪、佐久平は上田、善光寺平は長野

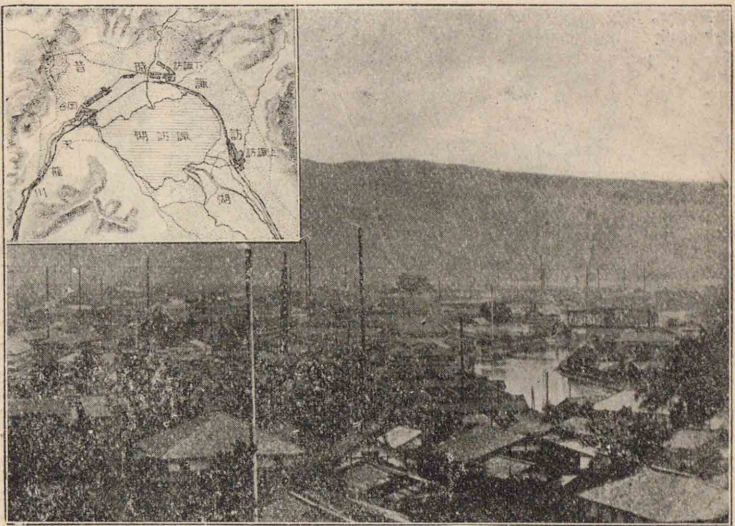
を中心とし、概ね養蠶製絲榮えて、上田市に蠶絲専門學校設けられ、

諏訪平に、製絲額無比の岡谷あり。松本市は、高等學校のある處、諏



圖解上 岡谷
圖解下 諏訪湖
のスケート

×南方に當り犀川・千曲川間に古戦場の川中島あり



寺あり。

訪湖は製氷スケート盛なり。淺間山南東の輕井澤は氣候清和風光佳良にして、内外人を招致す。長野市に善男善女の詣で多き善光



圖解上 輕井澤
(外國人の多きに注意せよ)
圖解下 善光寺

三條は刃物の産地小千谷・十日町は機業地なり

×滑川と共に近海に鯨島賊多し



學校醫學專門學校のある處信濃河口に土沙堆積して大船入り難く、又北西風吹き荒む際は、船舶、夷に避難す。
富山縣 漁港魚津の近海は、春夏の交、屢、蜃氣樓現はる。富山市は、

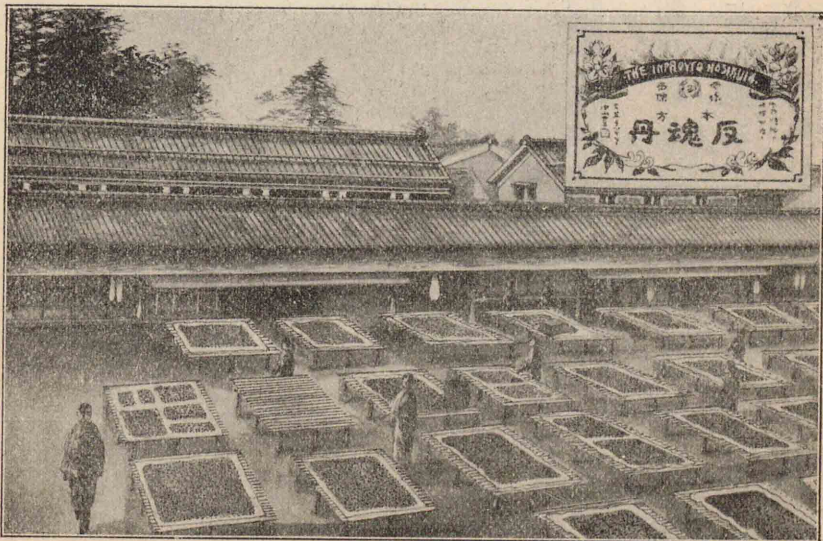
新潟縣 高田市は、第十三師團司令部の所在地にして、直江津を外港とし、スキー盛なり。長岡市は、新發田と共に、米の集散夥し。新潟市は、高等

圖解上 神通川
と神通橋(背景
は立山の群山)
圖解下 富山の
製薬所と薬袋

富山・石川の縣境
に木曾義仲が平軍
を破りし俱利伽羅
峠あり



神通川に跨り、薬
學専門學校あり。
市の賣薬行商は、
朝鮮・支那・南洋等
にも及べり。高
岡市は、伏木を外
港として越中米
の集散多く、漆器
銅器を産す。
石川縣 七尾灣
岸に開港七尾と
和倉温泉とあり。
金澤市は、前田侯

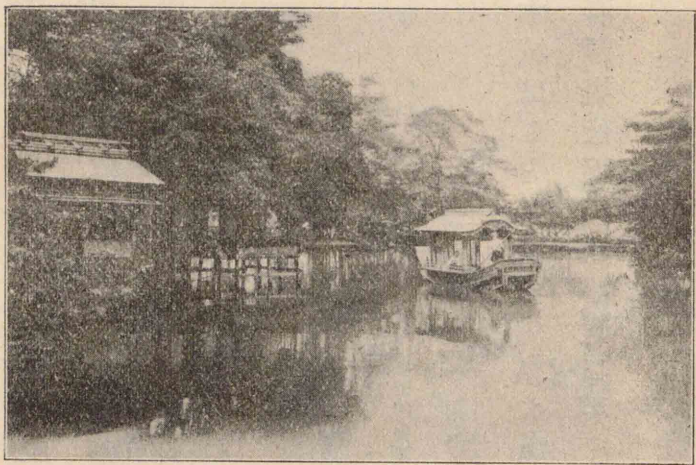


× 高等學校・醫學
専門學校・高等工
業學校(大正十年
度設立)

圖解上 兼六園
圖解下 藤島神
社と永平寺

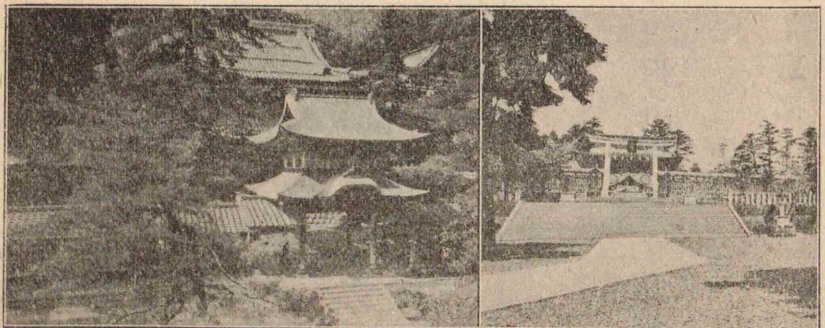
山代・九谷は九谷
地 燒山中は漆器の産

栗津にも温泉あり



百餘萬石の舊
城地、裏日本の
最大都、高等諸
學校第九師團
司令部兼六園
の所在地にし
て、羽二重陶磁
器漆器を産す。
小松・大聖寺は、
羽二重九谷燒
を産し、山代山

中に、温泉湧けり。
福井縣 福井市は、足羽川に跨り、三國を外港



△祭神は新田義貞
×曹洞宗の本山

若狭灣には鯛・鯉・蟹多し

圖解 航運上の敦賀

×金崎宮・氣比神宮あり

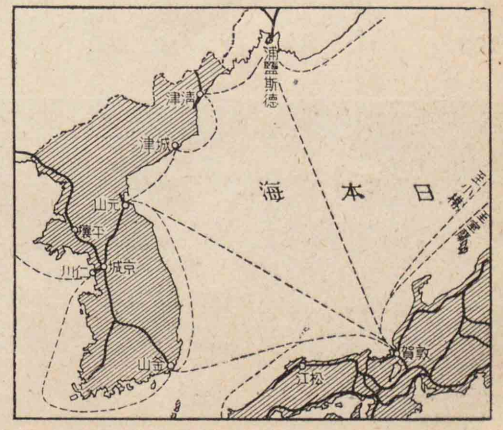
とす。市の南部に藤島神社、東方山地に永平寺あり。福井・大野を始めとして越前平野は、帝國無比の羽二重産地なり。武生は、和紙・蚊帳を産す。日本海屈指の良港なる敦賀は、北海道浦鹽斯徳と、交通・商業の關係深し。

第四章 近畿地方

面積 二三万平方里 人口 三〇〇萬人 一方里人口 四〇〇〇人
隣境 本州中部地方・日本海・中國地方・瀬戸内海・太平洋

第一節 地域

本域は、もと帝國の中樞たりし畿内地方にして、二府五縣に分る。各府縣概ね面積狭小、人口稠密なり。
滋賀 縣近江 大津市 京都府 山城 丹波 京都市



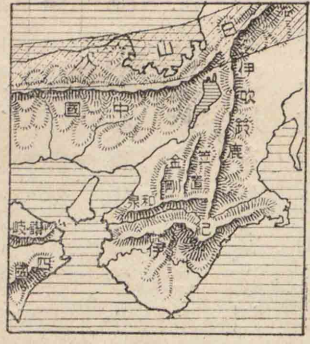
×日本武尊の功績地高山觀測所あり
△別に伊賀盆地あり

圖解上 近畿地方地勢

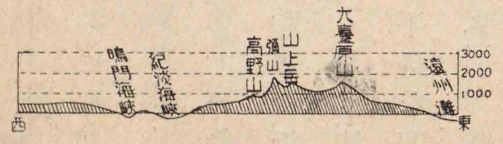
圖解下 紀伊山脈断面圖

×鞍馬山・愛宕山も本脈中にあり
*山上に僧最澄建

概観 南部山地と、丘陵性の北部山地と東西に並走し、其の中間に、伊吹(伊吹山)・鈴鹿(笠置山)・金剛(金剛山)・和泉の五小山脉と、近江山城・大和の三盆地と、伊勢・大阪・播磨の三平野と、交、散在せり。右の三盆地と大阪平野とは、峡谷を以て相連り、畿内平野と總稱せらるゝことあり。



山誌 北部山地は中國山脈(比良岳・比叡山・六甲山)大



立の延暦寺あり

× 僧空海の開基

× 賀茂川を合す

× 雲田・柳田・宮の諸川もあり
× 十津川・北山川の合流
△ 揖保川・千種川も流る

× 燈臺・無線電信局あり

江山・白山火山脈より成れり。南部山地は、則ち紀伊山脈にして、大臺原山・山上岳・彌山・那智山・高野山等の高山名峰あり。那智山中に那智瀧、高野山に金剛峯寺あり。

水誌

琵琶湖は、近江盆地に湛へ、帝國の最大湖にして、多くの急流を容れ、竹生等の小島を浮べて、舟運灌漑水産(源五郎)の利多く、近江八景、其の附近にあり。湖の末なる勢多川は、行、宇治川となり、桂川・木津川を併せ、淀川となりて大阪灣に入る。下流に、大阪平野を開き、奈良盆地を開ける大和川と共に、近畿地方に生氣を興ふ。

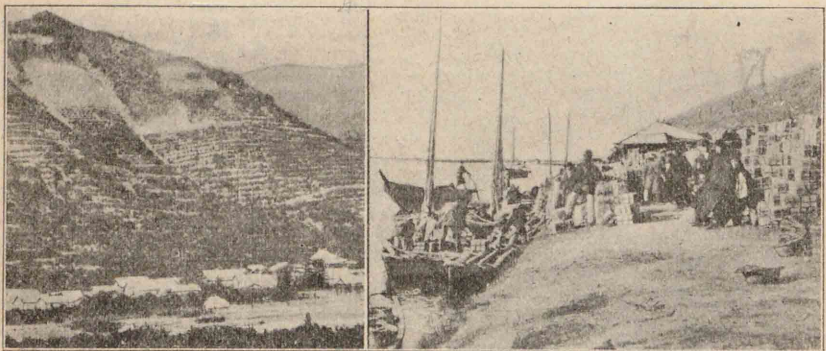
伊勢平野に揖斐川、紀伊半島に熊野川、紀伊(上流吉野川)播磨平野に加古川、市川、日本海方面に由良川、朝來川あり。

海岸

伊勢海、大阪灣は、中部を狹窄せり。熊野灘、紀伊水道間に紀伊半島出で、本州最南の潮岬、其の先端をなせり。熊野灘、志摩半島間は、海岸の出入多し。紀伊水道の北に、淡路島あり。其の東側の紀淡海

圖解 箕島の蜜柑の積出しと蜜柑畑

× 日蓋ひの下に栽培する茶樹の葉に



峽と西側の鳴門海峡とは、瀬戸内海の要門にして要塞設けられ、北側の明石海峡は、大阪灣播磨灘を連絡せり。日本海に、若狹灣ありて、舞鶴・宮津の二支灣を有せり。

第三節 氣候

南部は高温多雨にして、北部は冬季に雨雪多し。中部は、寒暑の差稍大なれども、瀬戸内海岸のみは、氣候溫和なり。

第四節 産業

農業・牧畜業

播磨・大阪・伊勢の三平野と近江盆地とは、よく米作行はれ、播磨平野は、麥、伊勢平野、近江盆地は、菜種の二毛作盛なり。伊勢平野、山城盆地(南東部)は、茶、有田河口の箕

て製する玉露茶を主に産す

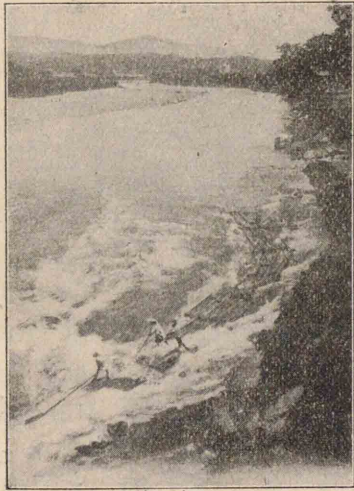
圖解下 内地蜜柑主産地方(内地年産額二〇〇萬圓)

島附近は蜜柑の産多し。滋賀・奈良二縣の外は、牧牛盛なり。美味なる神戸牛は、多く但馬にて牧養せらる。

林業水産業鑛業

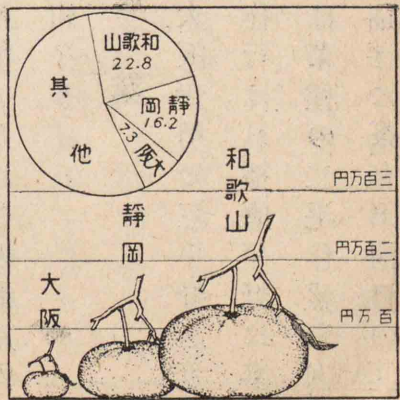
紀伊山脈殊に吉野・高野・熊野は、杉の産多く、紀川・熊野川は、之を運搬し、和歌山・新宮は、之を集散す。波浪荒き熊野灘は、漁獲(鮭・鱈)盛にして、尾鷲・新宮の漁港あり。志摩半島の英虞灣等は眞珠琵琶湖は鱒・鯉の養殖盛なり。兵庫縣は、水産に富み、赤穂は製鹽盛なり。鑛産は、生野の金・銀・銅のみ稍、著はる。

圖解上 熊野川の筏



工業

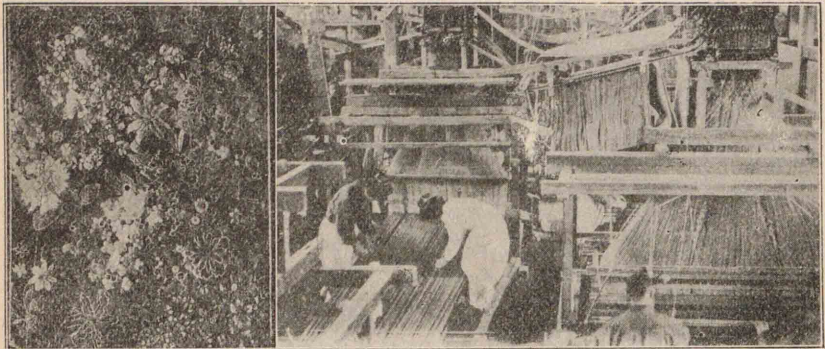
阪神地方は、帝國一の工業



圖解下 内地綿絲主産地方(年産額一億貫) 内地綿織物主産地方(年産額六〇〇萬圓)

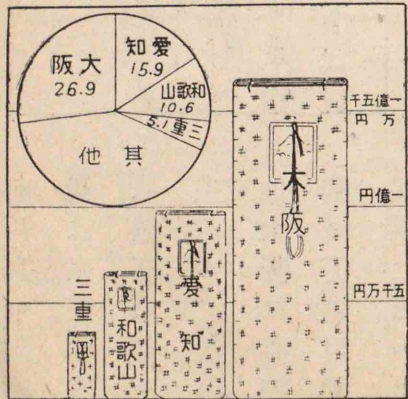
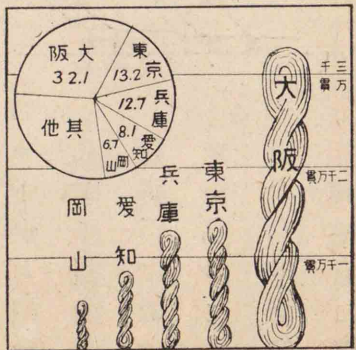
圖解上 西陣織工場と刺繍

紡織造船機械製造は鑛物製鍊等と相待ちて大工業國の特徴たるものとす
△▲今や多く京都にて産出せらる

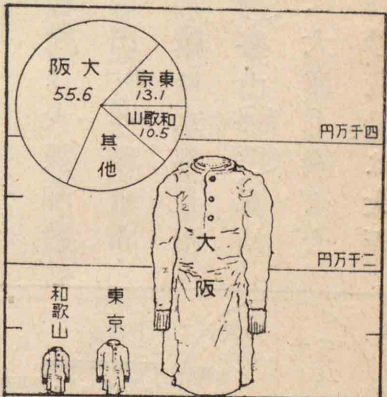
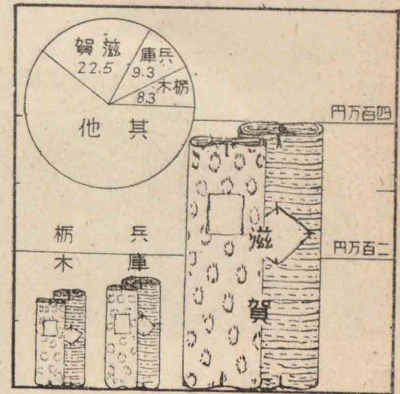


地帯にして、機械工業目覺ましく、殊に大阪市の内外は、煙の都と稱すべし。其の他、京都の美術工藝(西陣織・京染・漆器)を始め、一般に工業盛大なり。

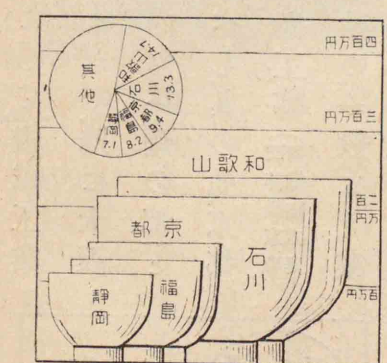
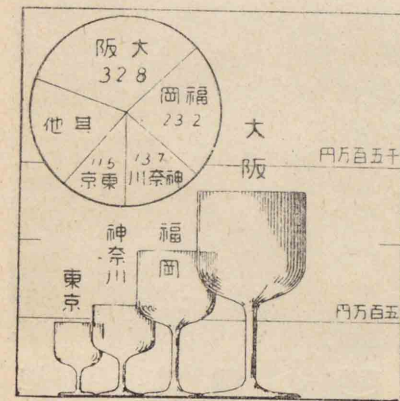
綿紡織は大阪・和歌山・高田(奈良)・四日市・津、絹織は京都・長濱(濱)・峯山(丹波)・麻紡織は大津、毛織は大坂・高砂、造船は大坂



圖解上 内地麻織物類主産地方(内地年産額二〇〇萬圓)
圖解下 内地莫大小主産地方(内地年産額七〇〇萬圓)



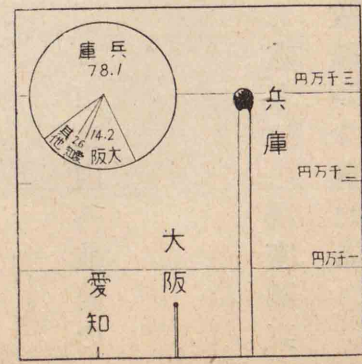
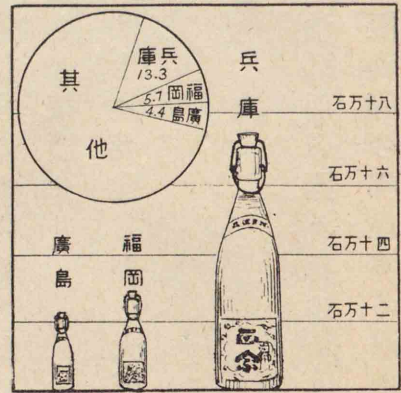
圖解上 内地硝子主産地方(内地年産額四〇〇萬圓)
圖解下 内地漆器主産地方(内地年産額一三〇萬圓)



神戸・鳥羽陶磁器は京都漆器は黒江・京都を主とす。其の他大阪に砂糖機械工業用藥品堺にセルロイド煉瓦、尼崎に硝子製錬、鉛神戶に燐寸、麥粉、高砂に洋紙、西宮御影、即ち灘地方に清

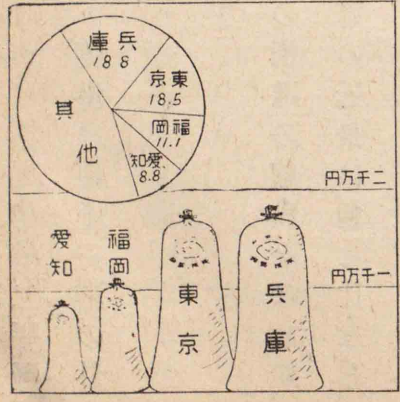
圖解上 灘の清酒産出
圖解中 内地清酒主産地方(内地年産額五〇萬石)

圖解下 内地燐寸主産地方(内地年産額四〇〇萬圓)
内地機械製麥粉主産地(内地年産額一億圓)



の如く、商業頗る盛なり。大阪は、東京と東西相對して、内地取引の中心をなし、北海道とも商脈を通じ、支那貿易急進せり。神戸は、横濱と東西相對して、貿易の中心

商業 關東地方



をなし、輸入特に多く、京阪の咽喉たり。四日市は濃尾伊勢二平野の門戸にして、今や帝國屈指の貿易港たり。開港は以上三港の外に宮津あり。

第五節 交通

道路

概ね能く整備し、殊に京都は多くの街道の起點をなせり。

鐵道

京阪神地方は發達著しく、殊に電車の延長は他に比なし。

東海道線は、神戸にて連絡する山陽線と共に、本域を東西に貫通し、

關西北陸・山陰の諸線とも接続せり。

水運

琵琶湖・淀川は、水運發達し、神戸・大阪・四日市は、内外航路の

汽船の發着忙はし。

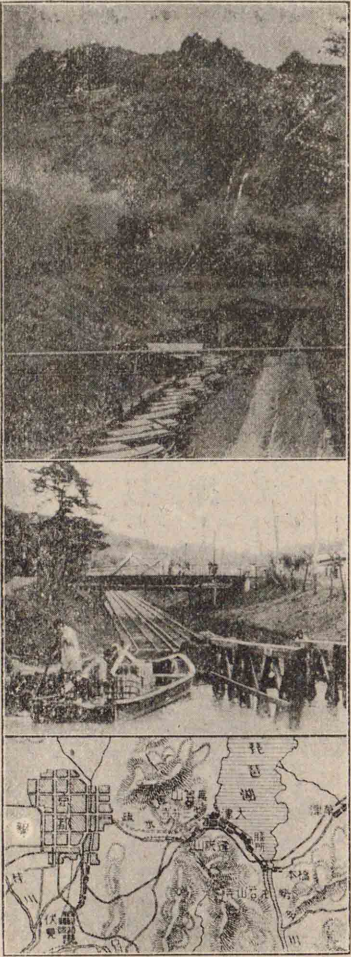
第六節 處誌

概観

本地方は、明治以前、帝國々都のありし處、人口の稠密、關東地方と優劣を競ひ、京阪神等の都邑多く、名所故蹟到る處にあり。

×滋賀縣石山より
大津・京都・大阪・神
戸を経て明石に至
る
1 神戸・下關間
2 京都・江川附近
間

圖解 疏水の入口と出口と其の關係地方圖



滋賀縣 東海道線は、米原(伊吹山の南西)にて北陸線、湖東の名都彦根にて近江鐵道、草津にて草津線に會す。日野八

×附近に石山寺
三井寺志賀郡址
延暦寺あり

幡は、近江商人の本據にして、麻蚊帳の行商、普く内地に及ぶ。大津市は、水陸交通の要地、製麻工場の所在地なり。彼の疏水は、市の北部に起りて京都に出で、以て産業交通の動力となれり。

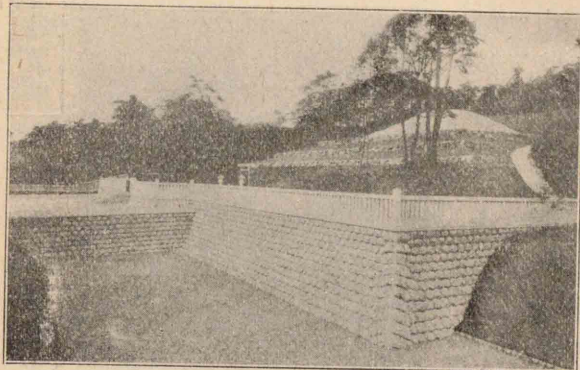
京都府

京都市は、帝國第三の大都、東海道・山陰・奈良三線の接續點にして、上京・下京の二區に分れ、街路井然たり。三方に丘陵を繞らし、

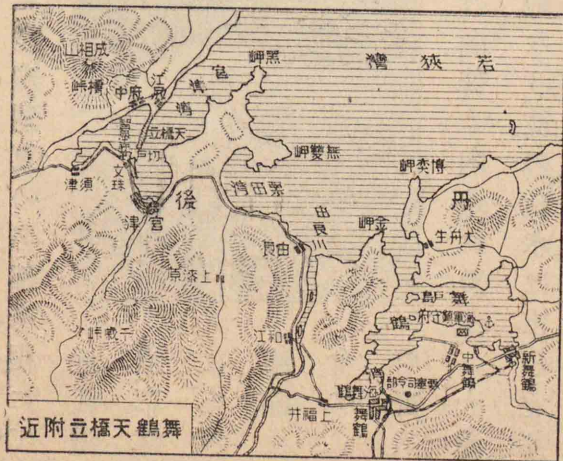
賀茂川に跨りて、山紫水明たる上に、實に政治的(府廳第十六)・歴史的(千

× 皇室博物館・京都帝國大學・第三高等學校・高等工藝學校・繪畫專門學校・醫學專門學校・同志社大學
 × 通稱の舞鶴は舞鶴西灣(商港)に臨める舞鶴と舞鶴東灣(軍港)に臨める新舞鶴と其の中間にて鎮守府のある中舞鶴とを總稱す

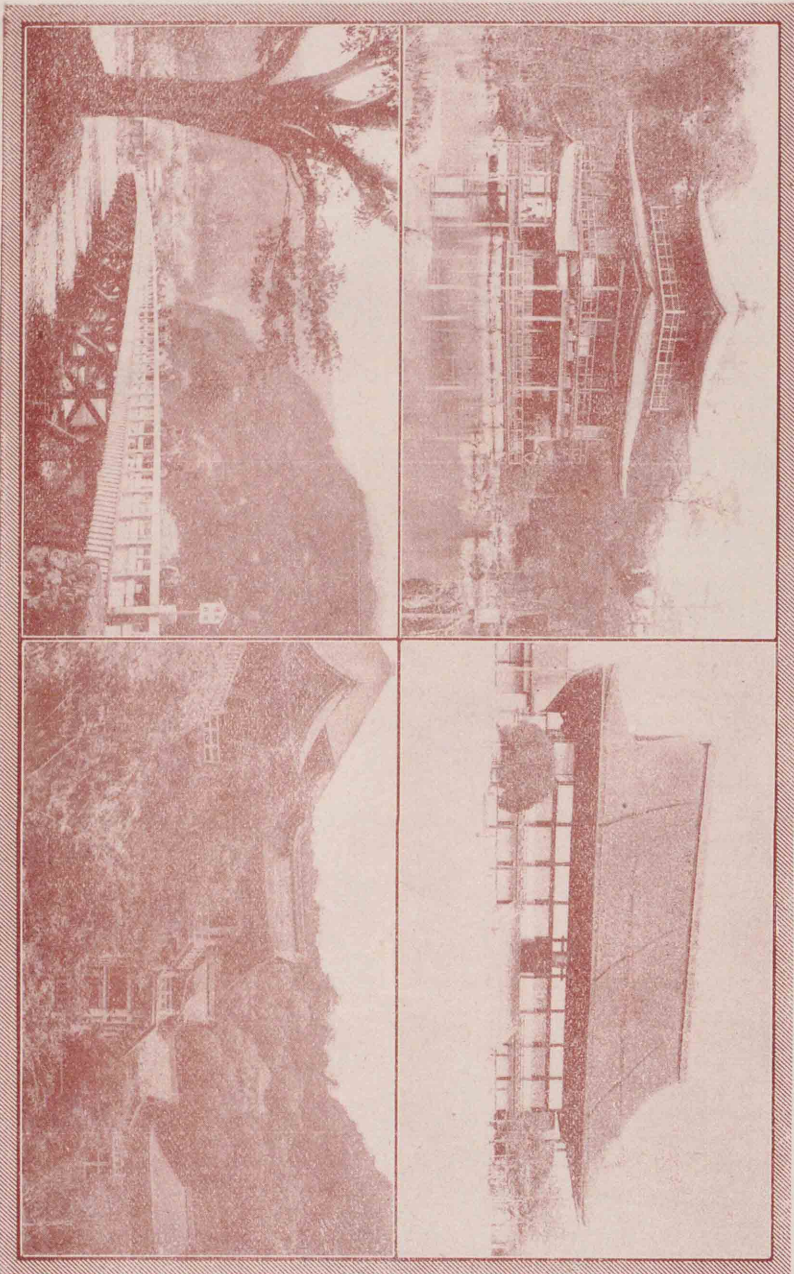
圖解上 桃山の明治天皇御陵



津の北に天橋立あり約一里の沙嘴に翠松生ひて一大長橋に似たり。奈良線上の伏見は淀川の水運を有し東郊の桃山に明治



餘年問) 宗教的・教育的・技術的の都府たり。京都御所二條離宮を始め、名勝社寺多くして、そを訪ふに忙はし。山陰線は、綾部にて舞鶴線・福知山にて福知山線に接續せり。舞鶴は、第四海軍區の軍港を控へ、鎮守府海軍工廠の所在地たり。開港宮



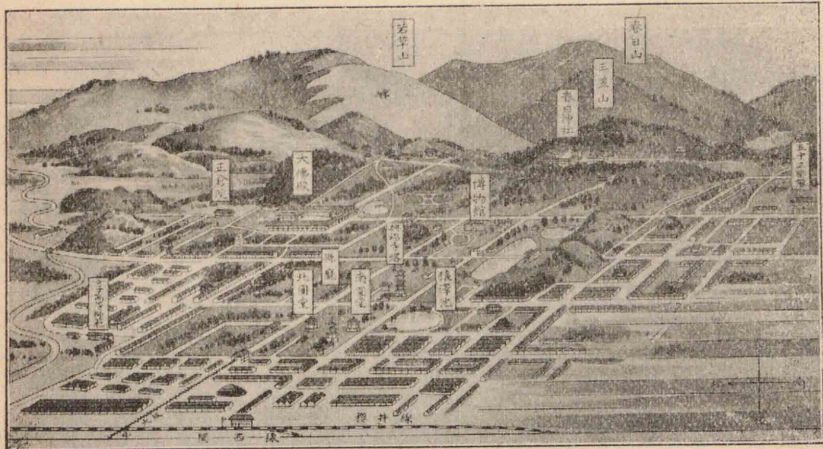
橋月渡山嵐と寺水清 圖下

寺閣金と殿宸紫 圖上

南部に奈良 關西・片町三線の會點たる木津あり

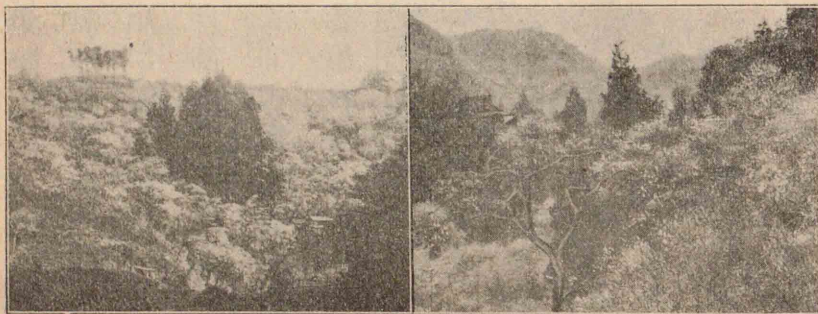
圖解上 奈良鳥瞰圖
圖解下 月瀬の梅と吉野の櫻

×筆墨根來塗鹿角細工奈良漬を産す
奈良・大阪間の電鐵は長さ帝國第二の生駒隧道を通じ生駒山腹の寶山寺に鐵索鐵道を通ず
猿澤池畔の興福寺は五重塔などに其の址を止む



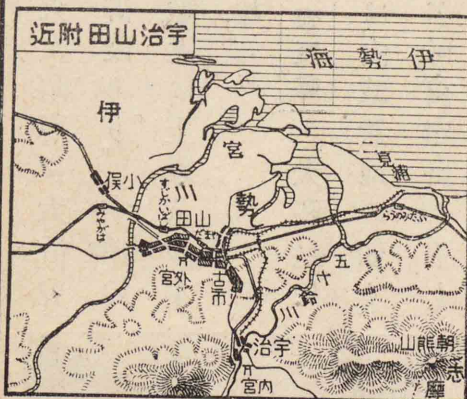
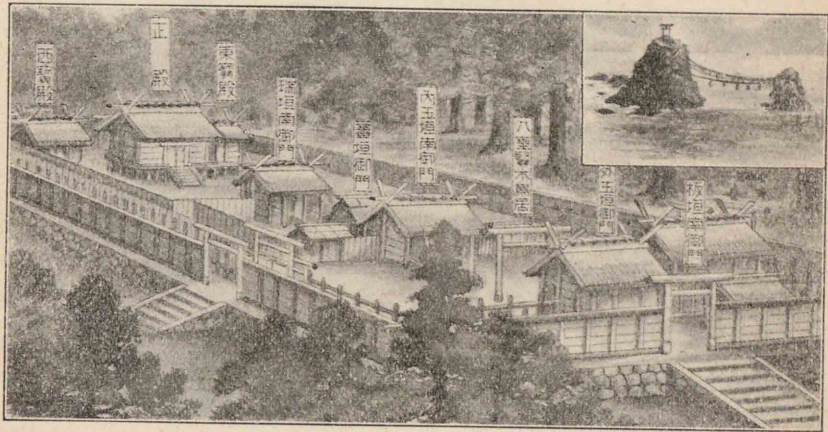
天皇昭憲皇太后の御陵あり。宇治の附近は、玉露茶の本場なり。

奈良縣 大和盆地は、山城盆地の如く、名所舊蹟社寺多し。奈良市は、舊都の東部に位し、廣大なる公園には、春日山・三笠山等峙ち、其の西麓に、春日神社・東大寺(大佛)・正倉院・帝室



×關西の日光と稱せらる
吉野より紀伊高野山に至る山地にては凍豆腐を産す

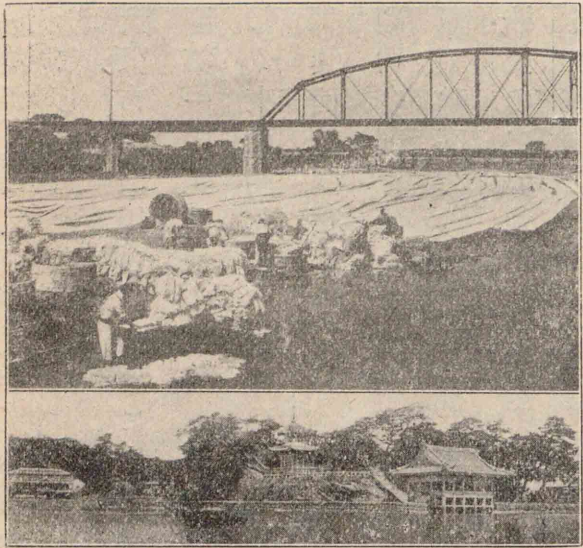
圖解 伊勢神宮
×縣の北東隅



行宮のありし處、月瀬と共に、何れ、男らぬ花の名所なり。
三重縣 上野は伊賀盆

×駄瑯鐵器・時雨蛤を産す
×宇治にありて天照大神を祭る×山田にありて豊受大神を祭る

*瀑布の後退して成りし崖岸と深淵
圖解 紀川原の綿フランネル晒しと和歌浦
とにして水流よどめり



地の中心、龜山は二鐵道線の會點なり。四日市市は津市と共に、綿糸を産し、洋紙、萬古焼をも出だす。桑名は米の市場、松阪は松阪縞の産地なり。宇治、山田市に、伊勢神宮(内宮、外宮)あり、神威いと尊く、參拜者常に絶えず。附近に、二見浦の勝あり。鳥羽は、遠州灘、熊野灘、航通船の避難によし。

和歌山縣 新宮は、熊野川下しの木材を集散す。北山川に、瀨八丁の勝あり。和歌山市は、徳川親藩の舊城下、水陸交通の要地、紀川下しの木材の集散地にして、大阪と共に、綿フランネルの産多く、和歌浦、紀三井寺に程近し。

*セルロイド・煉瓦・瓦物・段通・清酒
*難波の故都

*高等工業學校・大阪醫科大學・高等商業學校

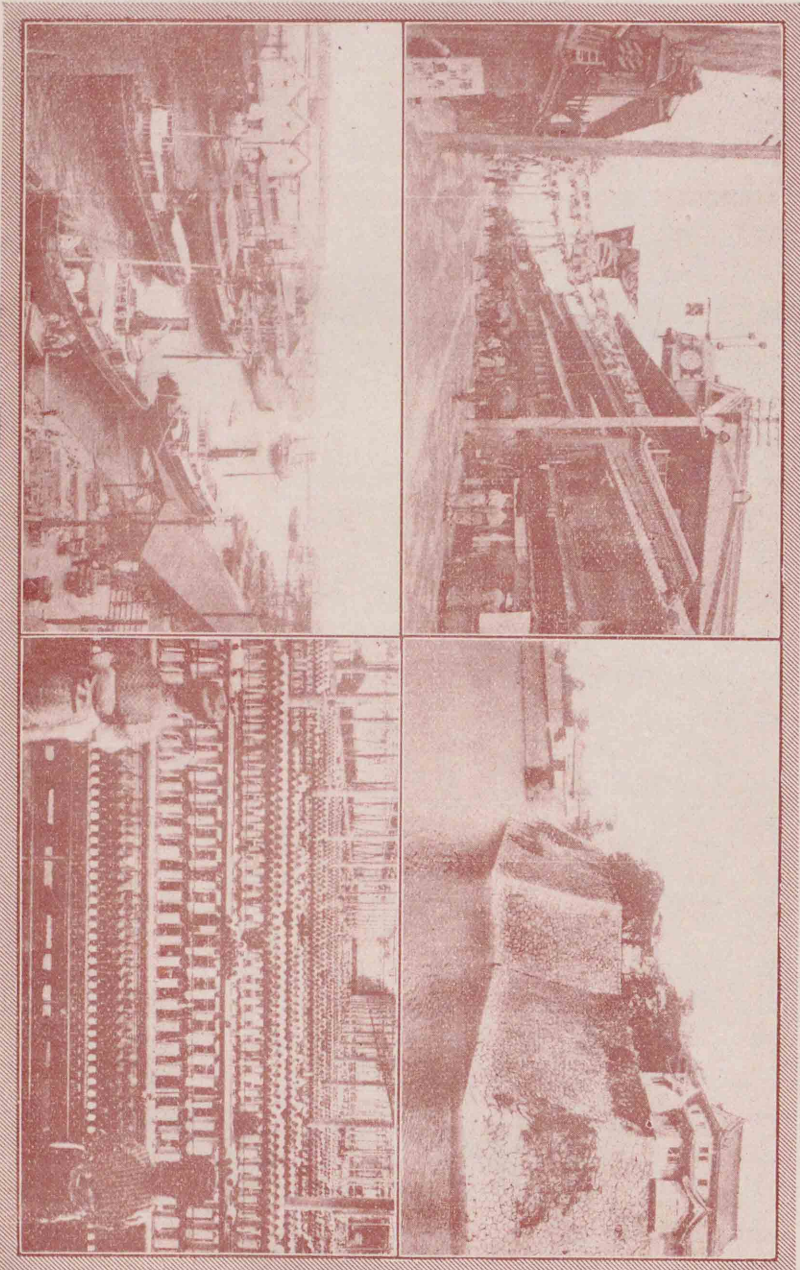
*平野水の源泉地
*綿を輸入し綿絲・綿布を輸出するが故に大阪をマンチエスターとせ

大阪府 岸和田地方は、綿紡織盛なり。堺市は、大阪工業地帯の一部をなして工業多し。

大阪市は、淀川の三角洲に位し、溝渠・橋梁多くして水都の稱あり。帝國第一の工業地、第二の商業地、第三の開港にして、水陸の交通よろしく、東西南北の四區に分る。繁華、東京に及ばんとして、濱寺海水浴場、箕面公園、寶塚温泉(兵庫縣)、市民の爲に賑へり。大阪城内なる第四師團司令部を始め、控訴院、砲兵工廠、造幣局、大阪鐵工所、高等諸學校、天満天神、高津神社、四天王寺散在せり。四條畷(ナハレ)は、金剛山、櫻井と共に、楠氏の史蹟地にして、池田は、清酒を産す。

兵庫縣 尼崎市は、大阪工業地帯の一部にして、急速の發達をなせり。伊丹は、清酒を産し、平野寶塚有馬(六甲山)に、炭酸泉湧出す。

神戸市は、神戸兵庫須磨等より成り、高等商業學校、湊川神社の所在地、帝國最盛の開港、内外航路の大中心にして、船舶綿絲麥粉燐寸精



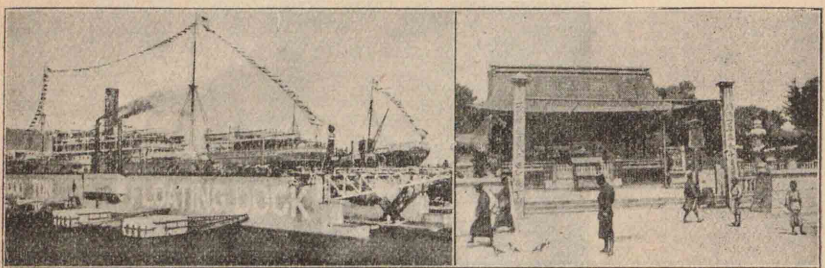
船舶の口川治安と部内綿工社會新紡一阪大 圖下

堺 頓道阪大と城阪大 圖上

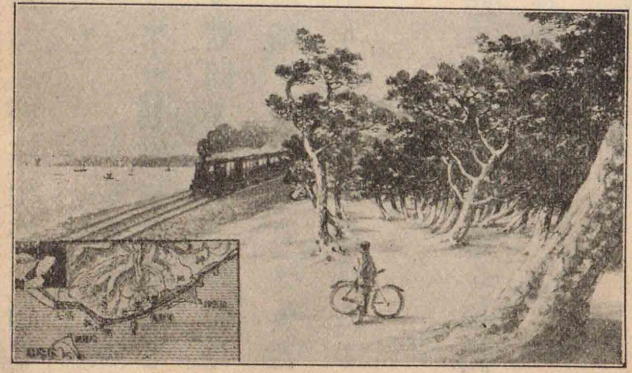
ば神戸はリバー
ルなり
× 明石縮の原産地

圖解上 湊川神
社と浮船渠（川
崎造船所）
圖解下 舞子濱
（老松と山陽線
列車と淡路島）

* 淡路焼・綿絲を
産す



製樟腦等の工業盛なり。
須磨・舞子・明石市の地方は、氣候良好、白沙青松の
外に、白帆東西に行きかひ、淡路島さへ浮びて、風
光繪の如し。市川下流
の姫路市は、第十師團司
令部の所在地、革細工米
の市場なり。山陽線は、こ
れ等の地方より、龍野（醬油）
赤穂（アサギ）の附近を通ず。
人口稠密なる淡路島は、
* 洲本（スモト）由良・福良の名邑を
控へ、島内農耕よく開け
たり。

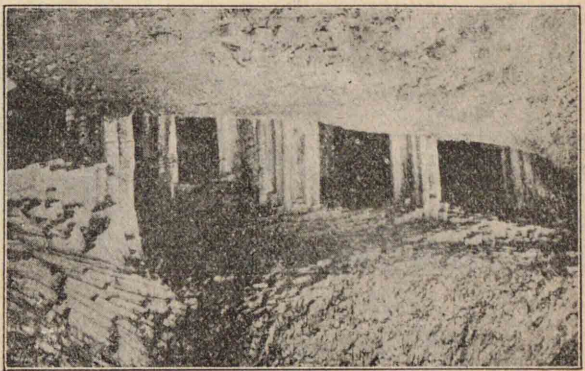


地方誌 近畿地方

五

×連絡點は和田山

圖解 玄武洞



播但線は市川と並走して姫路生野を過ぎ、以て山陰線に連絡せり。山陰線は京都府より來り、朝來川と並走して、柳行李の産地なる豊岡と、玄武洞の勝地とを過ぎ、温泉地の城崎に至り、それより西走す。豊岡の南東に當り、出石燒の産地なる出石あり。餘部は、山陰線の經路に當り、兩隧道を連絡する陸橋を以て著はる。

×竹島も之に屬す

第五章

第一節 地域

二地方とも、近畿九州間に位し、瀬戸内海を隔てて南北相對す。中國地方は五縣四國地方は四縣に分れ、香川縣のみは、面積狹小、人口稠密なれども、其の他は、概ね中庸を得たり。

鳥取縣	因幡	鳥取市	島根縣	出雲	松江	岡山縣	美作	岡山市
廣島縣	備後	廣島市	山口縣	周防	山口町			
德島縣	阿波	德島市	香川縣	讃岐	高松市	愛媛縣	伊豫	松山市
高知縣	土佐	高知市						

第二節 地勢

地形上略々東西の方向に流るゝ河川は比較的に大なり

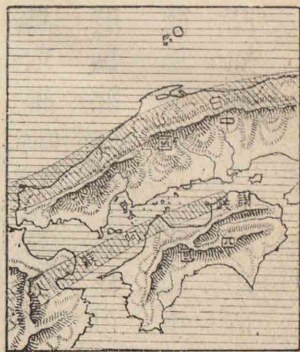
圖解上 中國及び四國地方地勢

×老年期に屬して高原性なり四國山脈は壯年期に屬す

圖解下 中國四國二山脈斷面圖

*大山の寄生火山 ▲實彈射撃演習場あり△春秋の牛馬市賑ふ

×四國の最高山



概観

横走せる山地により、さなきだに東西に細長き兩地方は、何れも南北に兩分せられたり。従つて平野も河川も、大なるものなし。

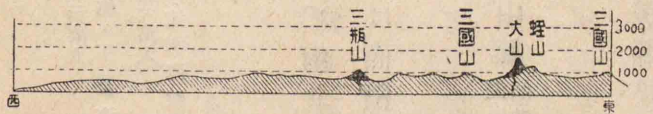
山誌

中國地方に

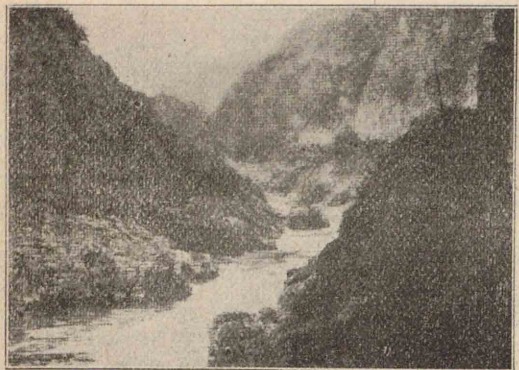
は、中國山脈、白山火山脈(大山船上山三瓶山)、稍北部に偏して並走せり。大山(伯耆富士又は出雲富士)は、中國の最高峯にして、其の裾野は、牛馬の牧養盛なり。四國の四國山脈は、夏季に登山者多き、山石鎚山を起し、讃岐山脈を分てり。四國の北邊には、阿蘇火山脈通ぜり。

水誌

日本海斜面(陰山)には、千代日野斐伊江、



圖解 大崩壊



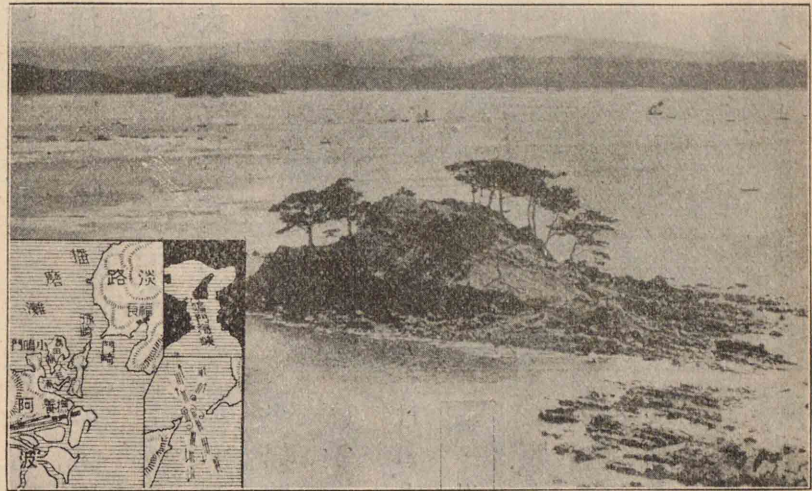
瀬戸内海斜面には、中國に吉井旭高梁大田錦(國)四國に重信(肱)太平洋斜面には、仁淀(渡)の諸川あり。就中江川は、中國山脈を横過せる中國の最大河なれども、亦一の峽流たるのみ。吉野川は、四國の最大河にして、四國三郎と稱せられ、四國山脈を横過せる處に、大崩壊小崩壊の峽谷を作り、下流に徳島平野を開けり。湖沼は、日本海方面の矢道湖、中海著はれ、共に風光美はし。

海岸

日本海太平洋兩方面の單調なるに反し、瀬戸内海方面は、海灣岬崎半島多く、無數の島嶼星散して、錯雜を極めたり。日本海方面には、島根夜見濱の二半島と隠岐群島とあり。太平洋方面には、室戸蹠二岬出でて、土佐灣、其の間に入れり。四國の東に、

紀伊水道は紀伊・四國二山脈を、豊後水道は四國・九州二山脈を斷てり

×大阪灣を包含せしむる者は紀伊水道を東の限界とす
*備後灘・播磨伊豫(硫黄)灘・安藝灘・周防灘
圖解 鳴門海峡と其の附近圖

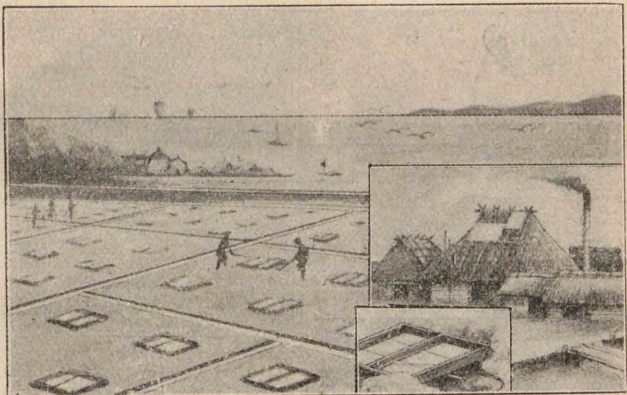


潮流急激なる鳴門海峡と紀伊水道とあるは、西に速明海峡豊後水道ありと相似たり。速明海峡は、佐田岬と地藏崎(後豊)との間に在り。
瀬戸内海は、近畿・中國・四國・九州に圍まれ、水面は、播磨灘・水島灘等に分る。兒島半島出でて兒島灣を抱き、讃岐高繩二半島出でて燧灘を挟み、又廣島灣深く灣入せり。瀬戸即ち海峡多く、従つて潮流急激なる處多きも、概ね天氣晴朗、風波靜穩なり。鯛・鱒の珍味に富み、鹽田亦能く開けたり。數多の島嶼、白帆と相映じ、白沙青松到る

圖解上 瀬戸内海の鹽田

圖解下 内地麥稈眞田主産地方(内地年産額五〇萬圓)

×水蜜桃の名産あり

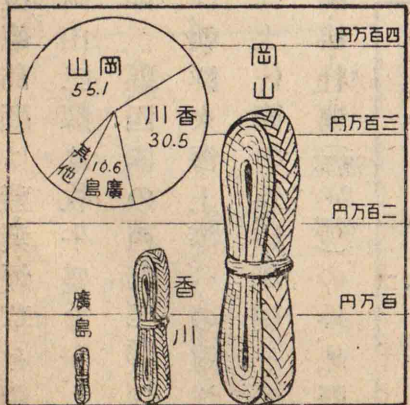


處にありて、海上の公園の稱あり。附近は、産業交通の發達著しく、人口稠密なり。
第三節 氣候
山陰は、冬季に雨雪多く、瀬戸内海は、溫和にして少雨、太平洋方面は、高温多雨なり。

第四節 産業

農業・牧畜業 瀬戸内海に面する地方は、農耕發達して概ね

米・麥に富み、ことに備前米・防長米は、良質の譽高く、岡山・香川二縣は、麥稈をとりて眞田を編製す。岡山縣は、蘭・薄荷、廣島縣

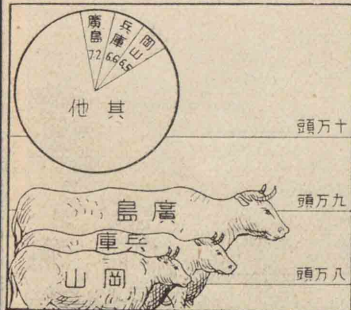
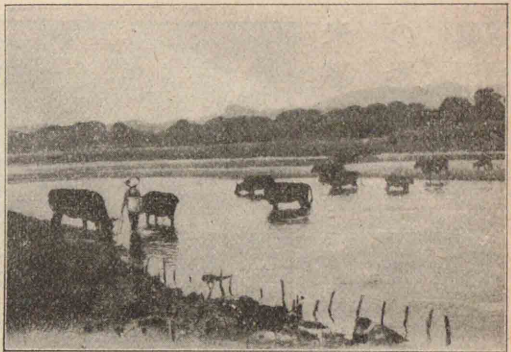


△愛媛縣の西部にも産す

圖解上 中國地方の牧牛と内地牛主牧地方(内地牛頭數二三萬頭)

圖解下 内地鹽主産地方(内地年産額二億斤)

長門南東部なる宇部附近の石炭の産は名高し

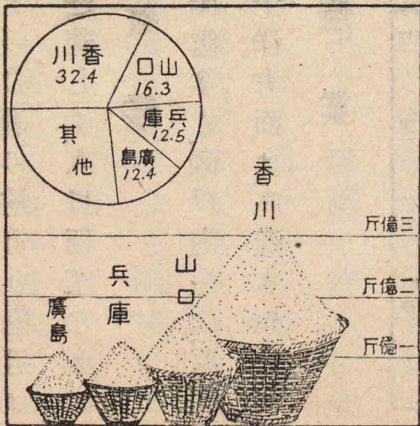


は大麻、山口縣は夏橙、徳島縣は藍葉煙草を産す。中國殊に廣島、岡山二縣は、牧牛盛なり。

水産業 中國の西部三縣、四國の西部二縣、稍著はれ、殊に山口縣は、朝鮮東海上等への遠洋漁業も榮え、高知縣は、土佐節の外、鯨、珊瑚をも産す。瀬戸内海は、鯛、鱒、牡蠣(兒島灣)の外、味野松永、三田尻、撫養、坂出、波止濱の附近に、鹽の産多し。

鑛業 日野、斐伊

二川上流の砂鐵、大森(島根)の銀、岡山縣(帶江)と伊豫別子と



圖解上 徳山の海軍煉炭所

圖解下 内地和紙主産地方(年産額五〇萬圓)

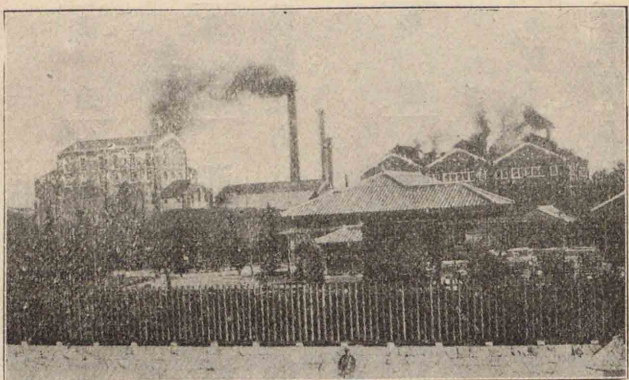
(内地、蘭織物主産地方)年産額二〇〇萬圓

三石の耐火煉瓦

吳・因島の船舶小野田のセメント

工業用品神島彦島の製煉金屬も著はる

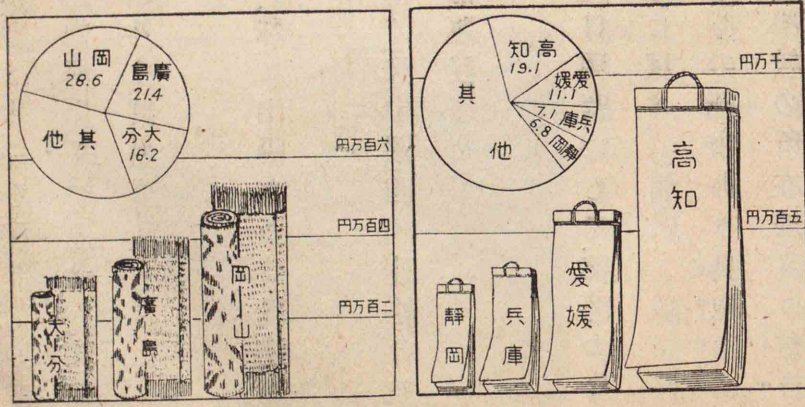
▲古より石見半紙、岩國半紙、伊豫半紙



の銅、大嶺(山口)の無烟炭、市川(愛媛)の安質母泥、世に著はる。就中大嶺炭は、徳山煉炭所(山口)の原料に供せらる。

工業 綿紡織

し、徳島の綿フランネル、松山の伊豫絨著はれ、島根綿フランネル、山口愛媛、高知の四縣は、和紙の産多し。



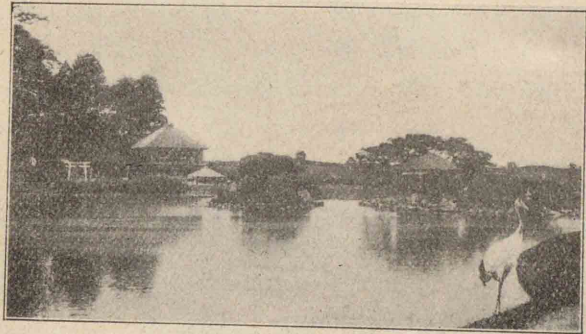
△後鳥羽上皇 ▲後醍醐天皇の遺址あり

*今や築港成り造船所も起りて發展著し

圖解 後樂園

*西大寺と共に板紙を産す

△花筵 ▲麥程真田の集散地
「深霧の義



田は、石見の要市なり。隱岐は、島前島後に分れ、島後の漁港西郷は、良質の鰯を集散す。竹島の近海は、日本海々戰の激戦地なり。
岡山縣 兒島半島は、小倉織・足袋・鹽の産多く、其の南東岸の宇野は、

中國・四國連絡の要點なり。水淺き兒島灣には、埋立工事行はる。三石は、蠟石・耐火煉瓦・伊部は、備前焼を産す。

岡山市は、旭川の下流に跨り、第十七師團司令部高等學校、醫學專門學校、後樂園のある處工業（綿紡織）盛なり。山陽線は、市にて宇野線を分ち、又中國鐵道を津山と高梁の方向とに行り、綿絲紡績地の倉敷・玉島・笠岡を過ぐ。

廣島縣 三次盆地は、「霧の海」もて著はれ、牧牛・大麻作榮え、三次を中心とす。蘆田川下流の

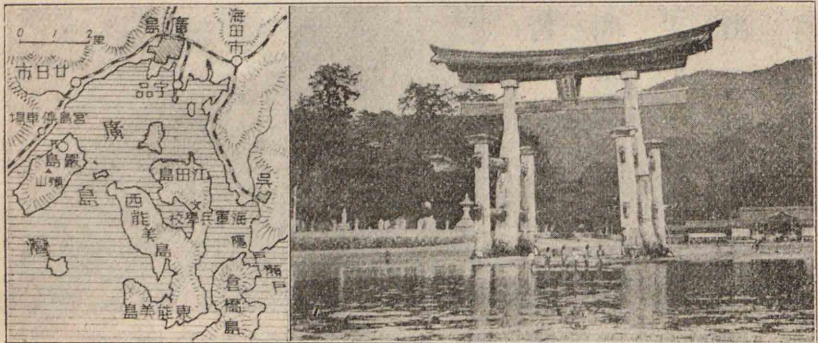
*保命酒（味蘇）の名産地

*廣村に支廠あり

圖解 嚴島と其の附近圖

江田島は倉橋島等と相待ちて吳を天然の良港たらしむ

可部は廣島の北東方に在りて山繭を産す

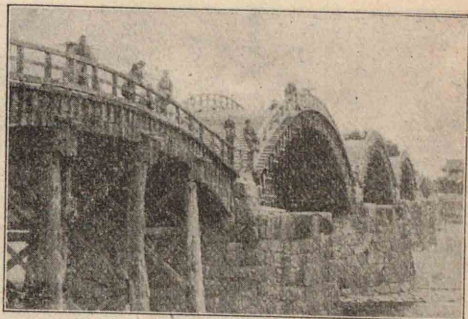


福山市は、綿紡織行はれ、鞆尾道市と共に、疊表を集散す。忠海の附近は、要塞地帯にして、瀬戸内海の中部を守れり。
山陽線は、福山・松永・尾道・絲崎・三原を通じ、海田市にて吳線を分ち、廣島を過ぎれり。吳市は、第二海軍區の軍港を控へ、鎮守府と、造船・造兵・製鋼の盛なる海軍工廠とあり。前面の江田島は、海軍兵學校の所在地なり。
廣島市は、大田川の三角洲に位し、中國の最大都、第五師團司令部、控訴院、高等師範學校、高等工業學校のある處、牛肉罐詰を名産とす。南端に宇品を控へて、日清戰役以來、軍事輸送の要地となり、今や陸軍運輸本部設けらる。嚴島

圖解上 錦帶橋

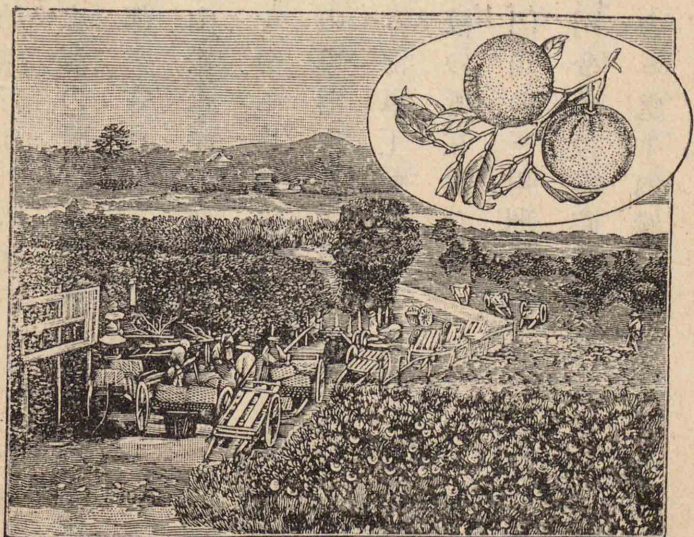
×岩國半紙、岩國縮の市場

圖解下 夏橙畑



著はる。山口は、高等學校、高等商業學校の所在地なり。萩は、毛利公の舊城下、明治功臣の輩出せし處、附近に、夏橙、萩焼を産す。小野田は、セメントの産地

の嚴島神社は、社殿樓閣の人工美、翠葉碧波の天然美と相俟ちて、日本三景の一とたたへらる。山口縣 岩國は、錦川の錦帶橋もて



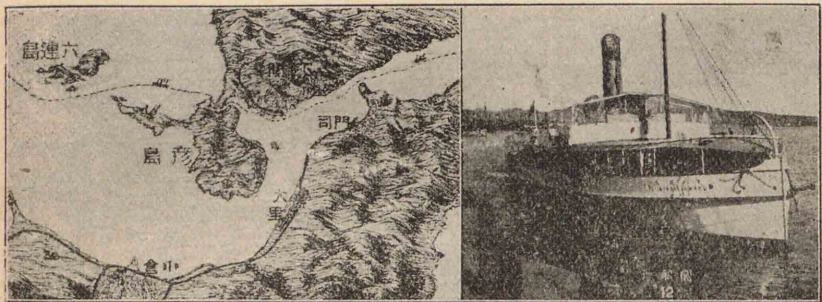
スキヘキ

圖解 關門連絡船と門司の位置

×馬關海峽又は關門海峽と云ひ海底鐵道又は架橋の計畫あり 下關市附近に境浦の古戰場あり

吉野川の支流祖谷川に蔓橋の奇橋あり

引田は甘蔗糖産地 ×神懸とも書す



に近し 山陽線は、岩國、徳山、防府（三田尻を含む）、小野田を通じて下關に終り、中途、山口線、大嶺線に分てり。開港下關市は、下關海峽に臨み、瀬戸内海西門の要塞地帯にあり。對岸の門司に、貨車積載船さへ通じ、約半日航程の關釜連絡航路を有し、米、肥料を集散す。

徳島縣 四國の最大部、徳島市は、徳島平野の門戸にして、大阪との取引多く、織織藍を集散す。徳島線、外港の小松島より來りて西に折れ、脇町の附近を過ぎて池田に終る。池田の附近は、葉煙草の産多し。

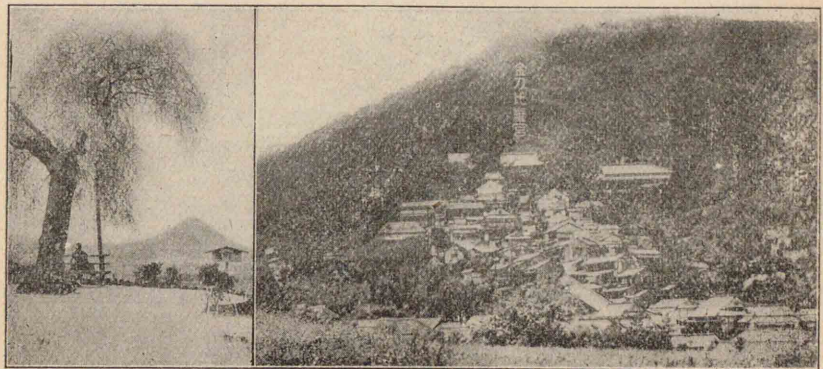
香川縣 屬島甚だ多く、就中小豆島は寒霞溪と

×讃岐富士と稱せられ塊状火山たり

圖解 金比羅宮と飯野山

△▲共に瀬戸内海の要津

×三島附近



醬油の産とを以て著はる。高松市は瀬戸内海の要津にして、宇野と連絡船を相通じ、讃岐塗保多織を産す。南郊に栗林公園、東方に五劔山、屋島の勝あり。屋島(半)は、熔岩より成れる臺地にして、眺望よろしく、源平の古戰場なり。

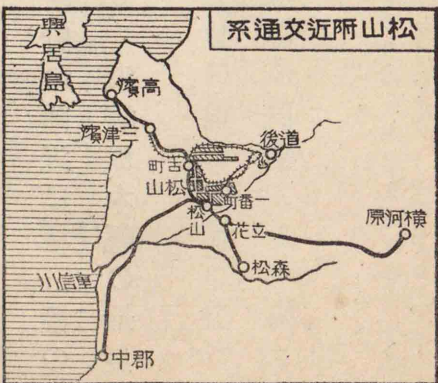
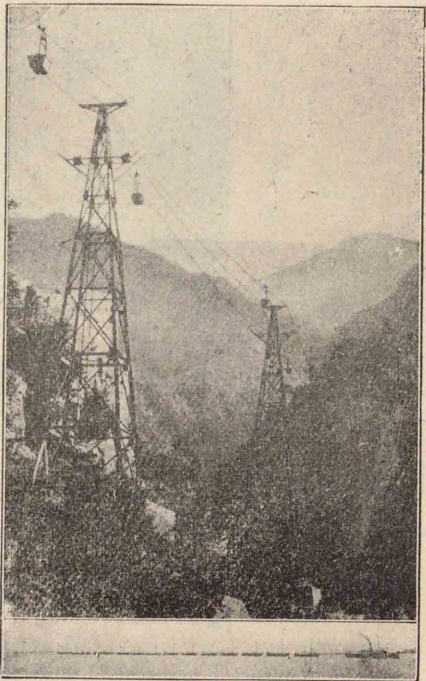
讃岐線は、高松に起り、飯野山を左手にし、阪出・丸龜市・多度津善通寺を経て琴平に達す。善通寺は、第十一師團司令部の所在地なり。琴平の象頭山腹なる金刀比羅宮は、特に海員の崇敬厚くして、四方よりの賽客、絶ゆるひまなし。

愛媛縣

東豫は、和紙の産多く、讃岐線別子

圖解上 別子の運鐵索と新居濱・四阪島間の運鐵船

*砥部焼も集散す
×火山たらざるも伊豫富士と稱せらる



鐵道將に連絡せんとす。別子は鐵道鐵索によりて、新居濱に銅鑛を送り、遂に四阪島にて精鍊す。

西豫の松山市は、綿絲伊豫緋の市場にして、道後温泉に程近く、高濱三津濱を外港とす。高濱は、興居島を前にして、自然の良港をなし、瀬戸内海の要津たり。

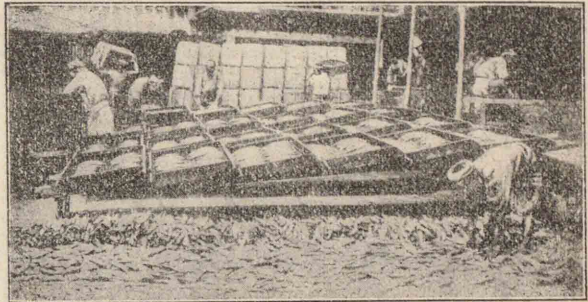
△捕鯨會社・セメント工場あり

圖解 鯨節製造

*港口淺く大船の出入不便なり

*木材・和紙・珊瑚細工

東部に安藝南西部に中村あり



南豫の大洲附近は、櫛の栽培多くして、木蠟の産に富めり。八幡濱・宇和島は、豊後水道岸の良港なり。

高知縣 高知市は、山内氏の舊城地、明治功臣の輩出せし處、浦戸を外港とし、鯨節等の市場たり。

仁淀川の左岸なる伊野の附近は、楮・三楮の栽培榮えて、製紙行はる。須崎は、本縣の最良港なり。

第六章 九州地方

面積 〓 六五方里 人口 〓 八七〇萬人 一方里人口 〓 一三三〇人
隣境 〓 瀬戸内海・朝鮮海峡・日本海・東支那海・太平洋

第一節 地域

本地方は、本州・四國の南西なる九州島と、數多の島嶼とより成り、行政上八縣に分る。北西の三縣と、沖繩縣とは、其の他の四縣に比して、概ね面積狭小、人口稠密なり。

福岡 縣豊前(北西半)・筑後 〓 福岡市 佐賀縣肥前(北東部) 〓 佐賀市

長崎 縣肥前(南西部)・對馬 〓 長崎市 熊本縣肥後 〓 熊本市

大分 縣豊前(南東半)・豊後 〓 大分市 宮崎縣日向 〓 宮崎市

鹿兒島縣薩摩 〓 鹿兒島市 沖繩縣琉球 〓 那覇區

第二節 地勢

概観 山脈・火山脈、各二條あり。略北東より南西に斜走して、山地多く、別府(大分縣)・武雄(佐賀縣)等に温泉あり。平野は、有明海岸及び北部に

*壹岐・對馬・薩南諸島・琉球列島等

別に白山・火山脈北西部を通ぜり

圖解 九州地方地勢



圖解下 九州南北斷面圖

圖解上 阿蘇山の噴火

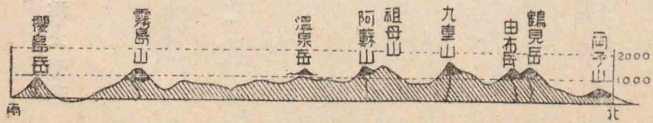
*通常は高千穂峰(東霧島山)を指稱すれども韓國岳(西霧島山)を始め火山多し

山誌

九州北部(筑紫山脈)は、低夷にして斷續し、九州南部(九州山脈)は、山勢雄偉にして、祖母山市房山を起せり。阿蘇火山脈は、鶴見由布九重阿蘇温泉の諸山を起し、霧島火山脈は霧能く開けたり。



表九州裏九州 表九州北西方面は、平地、海岸線の發達、裏九州(南東方面)に勝り、人口稠密にして都會多く、産業交通亦能く發達せり。



*外輪山の直徑南北六里東西四里中に高岳中岳等の五岳あり△大正三年

*東松浦北松浦、彼杵、島原

△不知火の奇象あり *一名志布志灣

島山・櫻島岳・開聞岳(薩摩)を起せり。就中阿蘇山は、規模世界第一の複式火山なり。櫻島岳は、近年噴出して、熔岩大隅櫻島間の海峡を埋め、以て地峽を形成せり。

水誌 瀬戸内海斜面に大野山國、朝鮮海峡斜面に遠賀、東支那海斜面に筑後、菊池、白球、磨川内、太平洋斜面に大淀、五箇瀬の諸川あり。就中筑後川は、最も長大にして、筑紫二郎と稱せられ、下流は福岡、佐賀の縣境となり、筑紫平野を開きて有明海に入る。

海岸 南東こそ出入少なければ、一般に屈曲島嶼港灣多し。殊に北西には、肥前、半島斗出し、四分五裂の狀を呈して、數個の半島を生み、唐津、伊萬里、大村の三灣と有明海とを保てり。宇土半島は、有明海と八代海との間に斗出せり。南部の大隅半島は、薩摩半島との間に鹿兒島灣を入れ、東に有明灣を抱けり。北東部には、佐賀關國、東二半島、別府灣を擁し、北部の海中道は、博多灣を抱けり。

島嶼中、壹岐對馬は、朝鮮に渡る飛石の如く、薩南諸島・琉球列島は、臺灣を繋ぐ鎖に似たり。東支那海方面に、平戸・五島・天草・甌の島々あり。

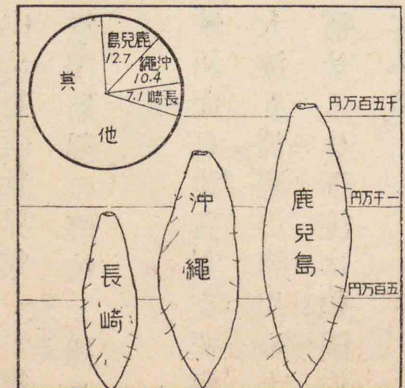
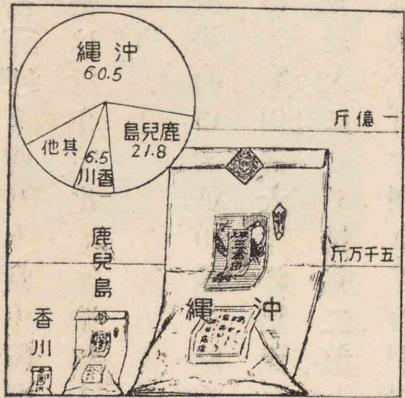
第三節 氣候

北部は、山陰北陸と氣候相似たり。南部は、溫暖にして雨量多く、殊に沖繩縣は、亞熱帶性にして、殆ど霜雪を知らず。

第四節 産業

農業・牧畜業

筑紫平野は米菜種、肥後平野は米、麥粟の産多く、筑後米、肥後米の名世に高し。鹿兒島・沖繩の二縣は



圖解上 内地砂糖主産地方(内地年産額、200萬圓)
圖解下 内地甘藷主産地方(總産額三億貫)
阿蘇山地も粟の産多し

* 近來は黒糖の外、精糖をも産するに至れり

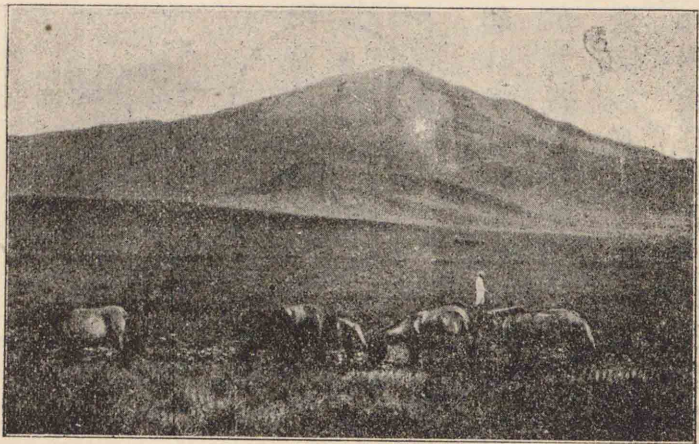
圖解下 内地豚主産地方(内地豚頭數四萬頭)

* 鹿兒島縣指宿も葉煙草を産す

圖解上 阿蘇火口原の牧馬

五島鯨・五島鰯は其の名世に高し

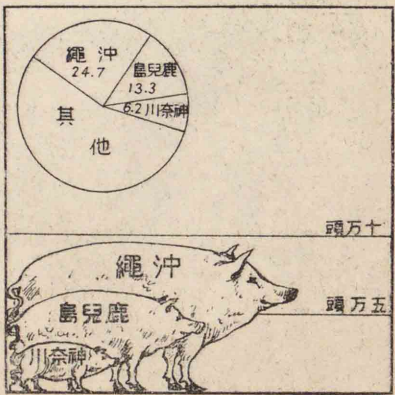
* 薩摩節又は屋久節の名世に高し



向灘にかけて、鯉、鰯の漁獲多し。甌島近海の珊瑚採收には、五島の漁

* 甘蔗、甘藷、鹿兒島縣の國分、加治木附近は葉煙草の産多し。阿蘇山地は牧馬、鹿兒島、沖繩二縣は養豚盛なり。

林業・水産業 大分・宮崎の二縣は、林業



島原半島の有明海濱にては鱈を養殖す

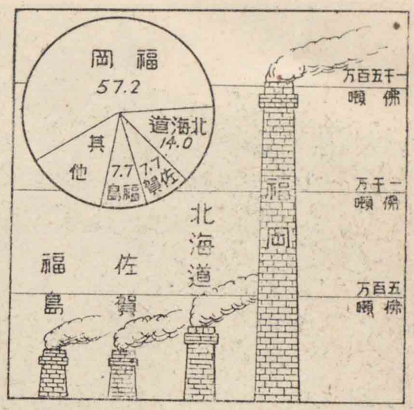
夫之に當り、佐賀縣有明海濱にては、牡蠣を養殖す。

鑛業 三池炭田の外、遠賀川の流域に、帝國最大の筑豊炭田あり

て福岡縣は、産炭額最も多く、佐賀・長崎の二縣亦多し。之が爲門司・若松

三池・唐津・長崎の埠頭賑ひ、福岡縣北東部に

一大工業地帯



圖解上 内地石炭主産地地方(内地年産額三〇〇萬佛噸)
三池港と戸畑とは新式の載炭機備へらる

下天草島に無煙炭陶土の産あり

起れり。鹿兒島縣は、朝鮮、臺灣と共に、我が金鑛主産地にして、山野、牛尾、芹野等に金坑あり。宮崎縣(日平山)に銅、鹿兒島縣谷山に錫、大分縣(九重山)に硫黃を産す。



* 彦島をも含む

- 1 小倉・神原間
 - 2 若松・筑豊間
 - 3 鳥栖・長崎間
 - 4 吉松・高鍋間
 - 5 久保田・西津間
 - 6 有田・伊萬里間
 - 7 早岐・佐世保間
- 浦鹽、斯德、朝鮮、大連、上海、臺灣に海底電線を通ず。大瀬崎・ラサ島に無線電信局あり

工業 福岡縣北東部の工業地帯は、鐵硝子(大里)、精糖(大里)、洋紙(小倉)セメント(門司)等の工場あり。煙突林立して煤煙天を掩ひ、殊に八幡製鐵所は、規模、東洋第一なり。長崎造船所、佐賀關製煉所も、壯大驚くべく、大牟田の新式工業品(亞鉛、染料)有田、鹿兒島、那覇、嚴原、鹿見、佐須奈、長崎、口津、住江、三池、三角、鹿兒島、那覇、嚴原、鹿見、佐須奈、司は、今や古港の長崎をも、遙に凌げり。

商業 福岡縣は、特に商業盛なり。開港は、門司、若松、福岡、唐津

長崎、口津、住江、三池、三角、鹿兒島、那覇、嚴原、鹿見、佐須奈、司は、今や古港の長崎をも、遙に凌げり。

第五節 交通

鐵道 鹿兒島線即ち門司、鹿兒島間の縱貫線は、豊州、筑豊、長崎、宮崎の諸線と連絡し、大畑(熊本)にてループ式をなせり。豊州、宮崎二線は、將に南北相連らんとし、筑豊線は、他線と共に、筑豊炭田にて樹枝狀的に發達せり。又長崎線は、唐津、伊萬里、佐世保の諸線を分岐せり。

水運 裏九州は、海運發達せず。門司・長崎は、内外航路の要港にして、筑後・遠賀・二川は、船舶の上下盛なり。

第六節 處誌

概観

表九州は、人口密度・都會・産業・交通など、大に裏九州と趣を異にし、筑豊炭田の諸都邑と、門司・八幡・若松・福岡・大牟田とは、發達急速なり。

福岡縣

本縣は、産業發達して人口集中し、七市・四開港、二個の師團司令部所在地ありて、其の繁榮、九州を代表するに似たり。

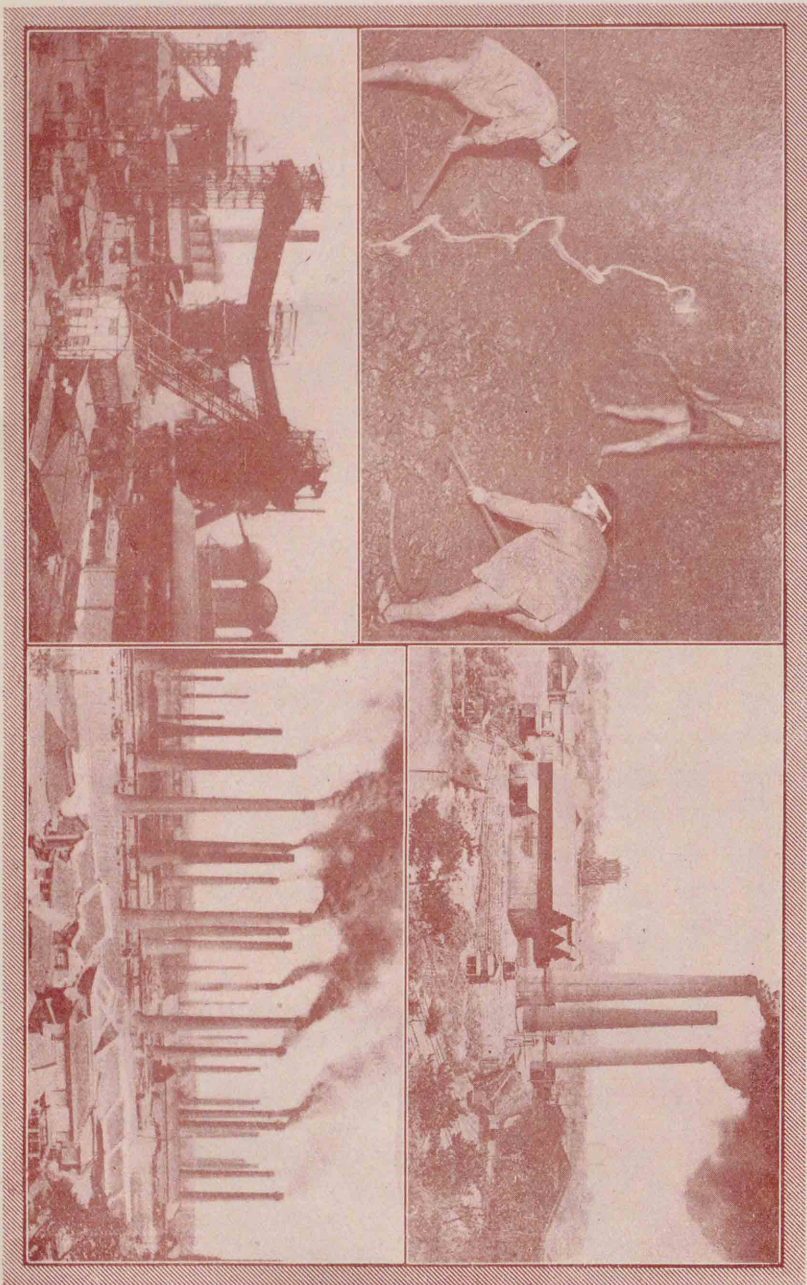
門司市は、下關と相對して、瀬戸内海の西門(下關海峽)を扼し、海陸交通の

要地、九州の北門、帝國第四の開港にして、砂糖・石炭等の輸出多し。

小倉市は、第十二師團司令部の所在地、交通の要地にして、戸畑は、明治専門學校の所在地なり。

若松市は、洞海(クイーンズ・ドレイク)によりて、八幡市と相對し、多く石炭を輸出し、朝鮮・支那等より鐵鑛を輸入す。

筑豊炭田地方には、香月・伊田・後藤寺・添田・飯塚・直方等の中市多し。
* 潮流急にして暗礁散在し、且つ市街擴張の餘地少なき缺點あれど、近時築港に着手せられ、將來益々發展せん。
* セメント・硝子



煉鐵塔と立林突煙の所、鐵製橋八 圖下

業作内坑と坑炭一の池三 圖上

* 千代松原にあり
* 宮崎宮・香椎宮・
水城

* 亞鉛染料・炭炭・
綿絲の生産

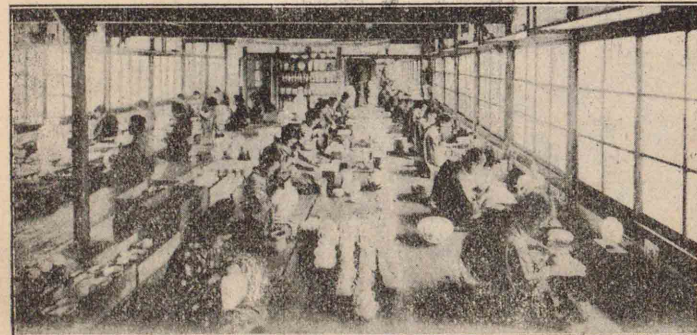
圖解 有田燒製
造
* 附近に虹松原の
勝地あり

* 朝鮮鎮海の鎮守
府を兼ね

福岡市は、福岡博多の二部より成り、九州帝國大學の所在地、博多織綿絲の産地にて、附近に、太宰府等の史蹟多し。筑後川下流の久留米市は、第十八師團司令部の所在地、久留米緋綿絲、米、清酒の市場なり。大牟田市は、三池炭坑の要門にして、工業も榮え、又東洋一の築港たる三池港より、多く石炭を積出す。

佐賀縣 佐賀市は、高等學校の所在地、米、セメントの市場なり。唐津は、石炭を輸出し、名古屋の史蹟に程近し。有田は、有田燒を産し、伊萬里は、今も多少之を積出す。

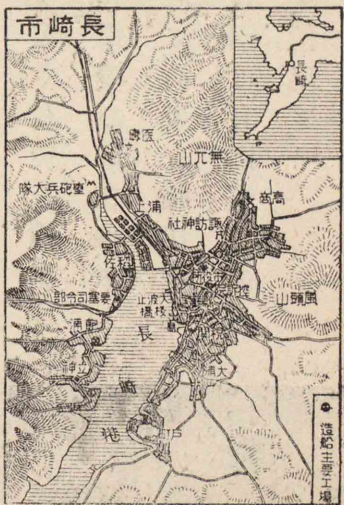
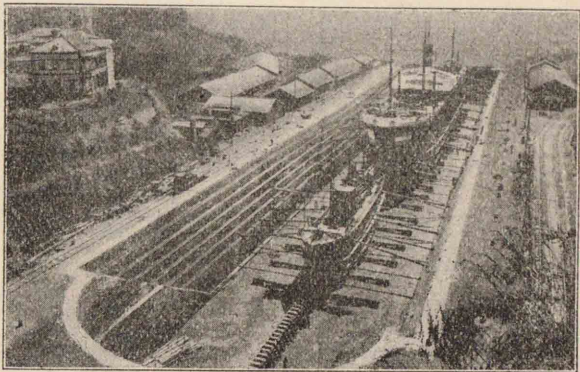
長崎縣 佐世保市は、第三海軍區の軍港を控へ、鎮守府大船渠あり。長崎線は、鹿兒島線の鳥栖驛(佐賀縣)に起り、佐賀縣にて唐津伊



*名産に籠甲細工あり。長崎は古港なる上に港灣良好にして内外航路の一要津なれども貿易の急進せざるは土地の偏在とそが支配する商業範圍狭小なるによる

圖解 長崎造船所の船渠と長崎附近圖

壹岐に勝本の要津あり
*近年要港司令部は廢せらる



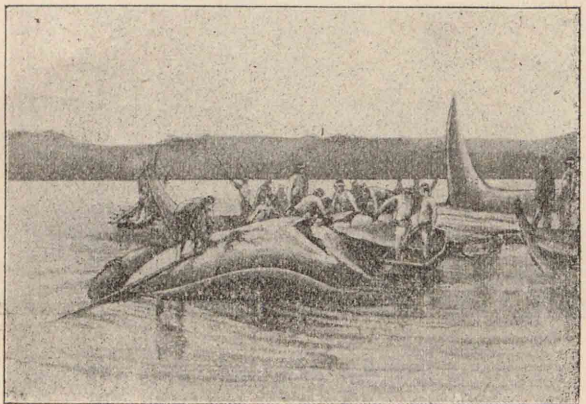
萬里二線、本縣にて佐世保線を分ち、大村を経て長崎に終る。
長崎市は鎖國時代にも支那・朝鮮は勿論和蘭と貿易して、西洋文物の入りし古港なれども、今や貿易額遠く門司に及ばず。控訴院・高等商業學校・醫學專門學校・長崎造船所あり。市の盛衰は一に長崎造船所に係る。
島原半島に島原口津あり、五島中の福江島の福江、平戸島の平戸は、捕鯨等の漁港にして、對馬の竹敷は、海軍の

*附近には西南役の戰場多し

*第五高等學校・高等工業學校・醫學專門學校・藥學專門學校

圖解 捕獲したる鯨(平戸) 圖解下 熊本市(遙に見ゆる阿蘇山)と水前寺

*加藤清正築造
*一名成趣園

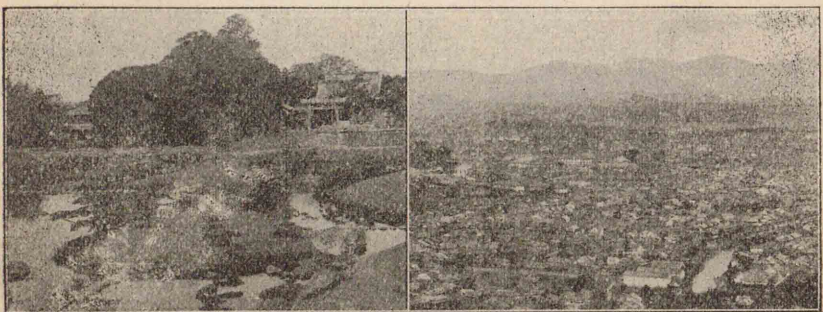


要港なり。

熊本縣

隈府は、菊池氏の故地なり。熊本市は、肥後平野の中央、白川の下流に

位して、高等諸學校あり、谷干城の死守したる熊本城の殘壘に、第六師團司令部あり。東郊の水前寺は、九州第一の名園なり。八代は、セメント紙の産地なり。こゝより流勢、凄じき球磨川を遡れば、人吉・五箇莊

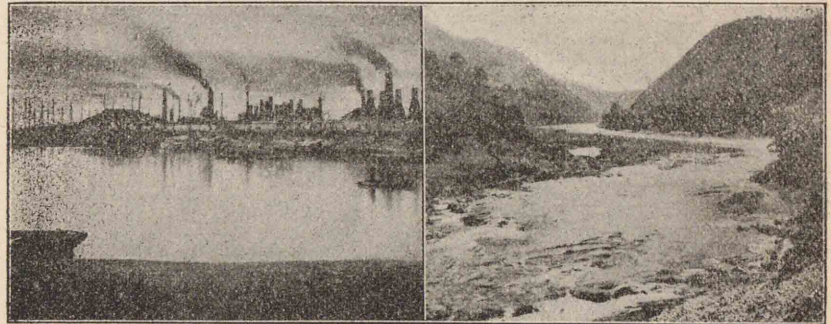


* 平家の落人の子孫の部落と傳へらる

圖解上 球磨川の急流と八代のセメント工場
圖解下 耶馬溪と別府海岸砂風呂

* 輸出向花筵の外に内地向きの七島表即ち琉球表あり

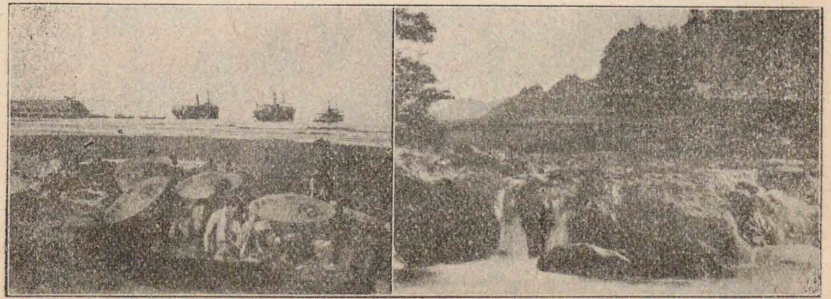
山間に竹田と日田との二名邑あり



あり。

大分縣 綿絲紡績地の中。

津より山國川を遡れば、岩骨天を摩し、奔流矢の如き耶馬溪あり。宇佐に和氣清鷹の神勅を承りし宇佐神宮あり。杵築日出大分市は、國東半島産の蘭織物を集散す。別府は、山地海岸の別なく温泉湧出し、四時浴客多し。臼杵佐伯は、出入繁き豊後水道岸にあ



* 神武天皇を祭る
* 附近は蠶絲・茶
圖解 鹿兒島市と櫻島と櫻島大根

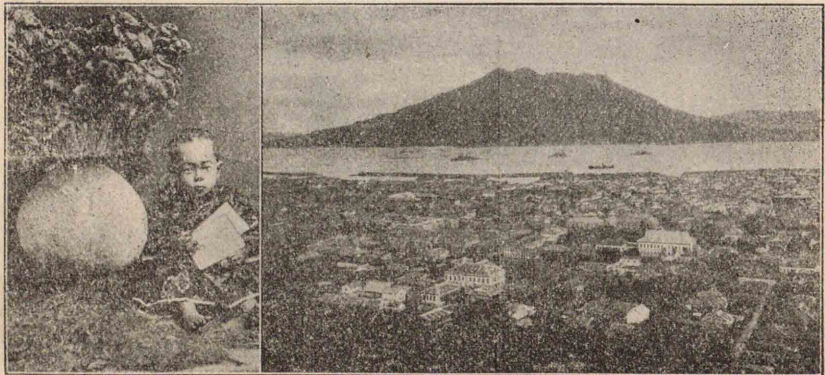
萬年青を産し北西に小林の大邑あり
山川・坊津・志布志は縣の名邑なり

宮崎縣

本縣は發達遅々たりしが、今や山林原野の開墾進み、豊州宮崎二線の連絡近づきたれば、皇基發祥地の實に副ふに至らん。延岡は、五箇瀬川下流の名邑なり。土土呂細島油津は、本縣の門戸なり。宮崎市は、大淀川の下流に沿ひ、宮崎神宮あり。都城は、本縣の最大都なり。

鹿兒島縣

開港鹿兒島市は、第七高等學校造士館高等農林學校のある處、島津公の舊城地にして、明治功臣の輩出したる處なり。南洲翁の最期を遂げし城山を負ひ、大根の産地櫻島を前にして、稍碇泊に適し、眺望もよろし。薩摩緋薩摩上布薩摩燒薩摩節錫器

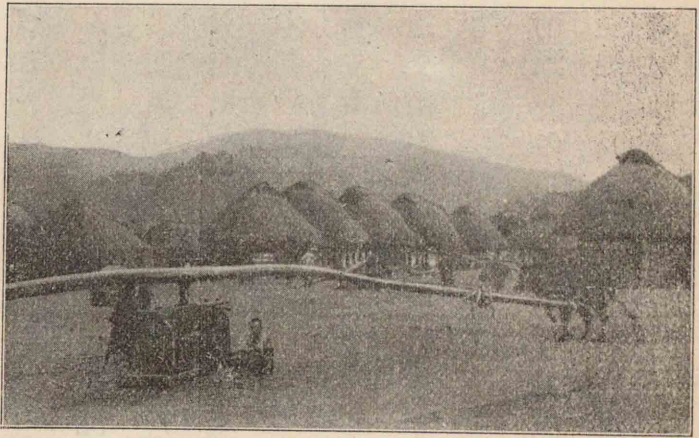


× 北方に焼酎の産地なる阿久根あり

× 鐵砲初傳の地
× 屋久杉・薩摩節の本場

汁
圖解上 甘蔗搾
圖解下 南支那の風俗に似たる崇宏なる墓地

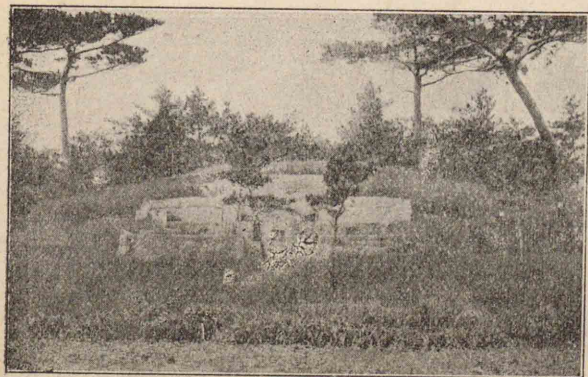
琉球諸島
沖繩諸島
先宮古諸島
島八重山諸島



島沖繩は、支那に似たる風物多し。那覇區は砂糖・琉球塗・琉球緋芭蕉布を集散す。首里

を集散す。川内ミナトは、縣下第二の都會にして、北薩の中心なり。薩南諸島とは、種子島・屋久島・寶七島・大島諸島を云ふ。大島は雨量頗る多く、風物多く琉球に似たり。名瀬より、黒砂糖・大島紬を積出す。

沖繩縣 最大



× 一名沖大東島

七星岩は帝國の極南花嶼は極西なり

* 舊名打狗

× 一名臺灣東岸山脈

* 北部に臺北平野 東部に臺東平野あり

區は琉球王の舊城地、泡盛の産地なり。中城灣・運天港は、船舶を入るべし。ラサ島は、磷礦の産多く、無線電信局あり。

第七章 臺灣地方

面積 三三万平方里 人口 三〇〇萬人 一方里人口 一五〇人
隣境 太平洋 東支那海 臺灣海峡 巴士海峡

第一節 地域

我が國の南西端を占め、南はフリピン諸島領米に、西は福建省那支に近し。五州二廳に分れ、州に知事、廳に廳長あり。

臺北州 臺北市 新竹州 新竹 臺中州 臺中市 臺南州 臺南市
高雄州 高雄 臺東廳 臺東 花蓮港廳 花蓮港

第二節 地勢

概観

山地は、臺灣山脈を主とし、其の西の蕃界嶺、東の臺東山脈を含みて、本島の約三分二を占め、且つ稍、東に偏して縦走せるが故に、平地は、西部なる臺灣平野、廣大なるのみ。河流も、西部にあるもの

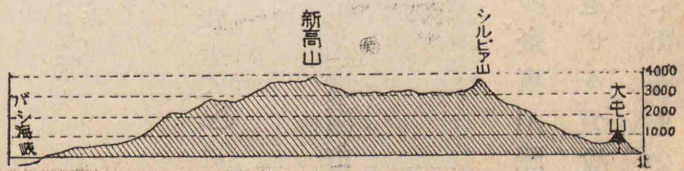
高さ一、三〇〇尺
圖解上 臺灣島の地勢



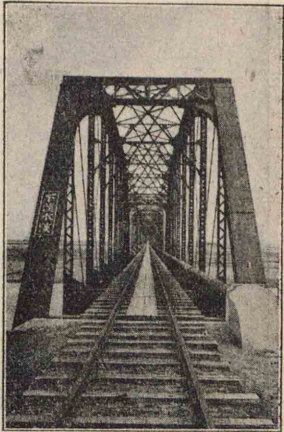
圖解下 臺灣山脈断面圖
霧島火山脈の南端

をも凌ぎ、主たる分水界をなせり。大屯火山脈北部を掠めて、そこに大屯火山彙と北投温泉とあり。

水誌 西部に、稍、舟運の便ある淡水河を始め、大甲溪、濁水溪、下淡水溪等あり。概ね其の上流は、谷深くして蕃界に至る天險の要路となり、山地より平地に出づる處にて、忽ち數條に分派す。此の分流は、平素は、礫原廣く露出し、一朝豪雨あらんか、濁水漲りて交通を妨げ、架橋困難なり。是れ縦貫鐵道が、概ね分派點より稍、上流を通ずる所以なり。但し諸分流



臺東平野は細長くして卑南溪・秀姑巒溪・荖萊溪流る
圖解上 規模東洋第一の稱ある濁水溪の鐵橋



にして、舟を寄すに由なし。屬島は、臺灣海峽中の澎湖諸島のみ著し。

第三節 氣候

北回歸線に跨りて高温多雨なり。従つて植物よく生育し、榕樹・檳榔樹・杪羅木・竹深く繁れり。夏秋の交には、暴風屢襲來す。季節風の影響著しくして、北部と南部とは、乾季雨季相反す。

第四節 産業



は、廣大なる臺灣平野を合成し、農耕こゝに盛なり。東側は、斷崖多く、宜蘭・臺東の二小平野あるのみ。
海岸 屈曲・港灣少なく、殊に東岸は崖濱、西岸は沙濱

圖解下 杪羅の密林

× 中春より南西季節風吹きて南部は雨季北部は乾季となり
× 晩秋より北東季節風吹きて北部は雨季南部は乾季となる

農牧業

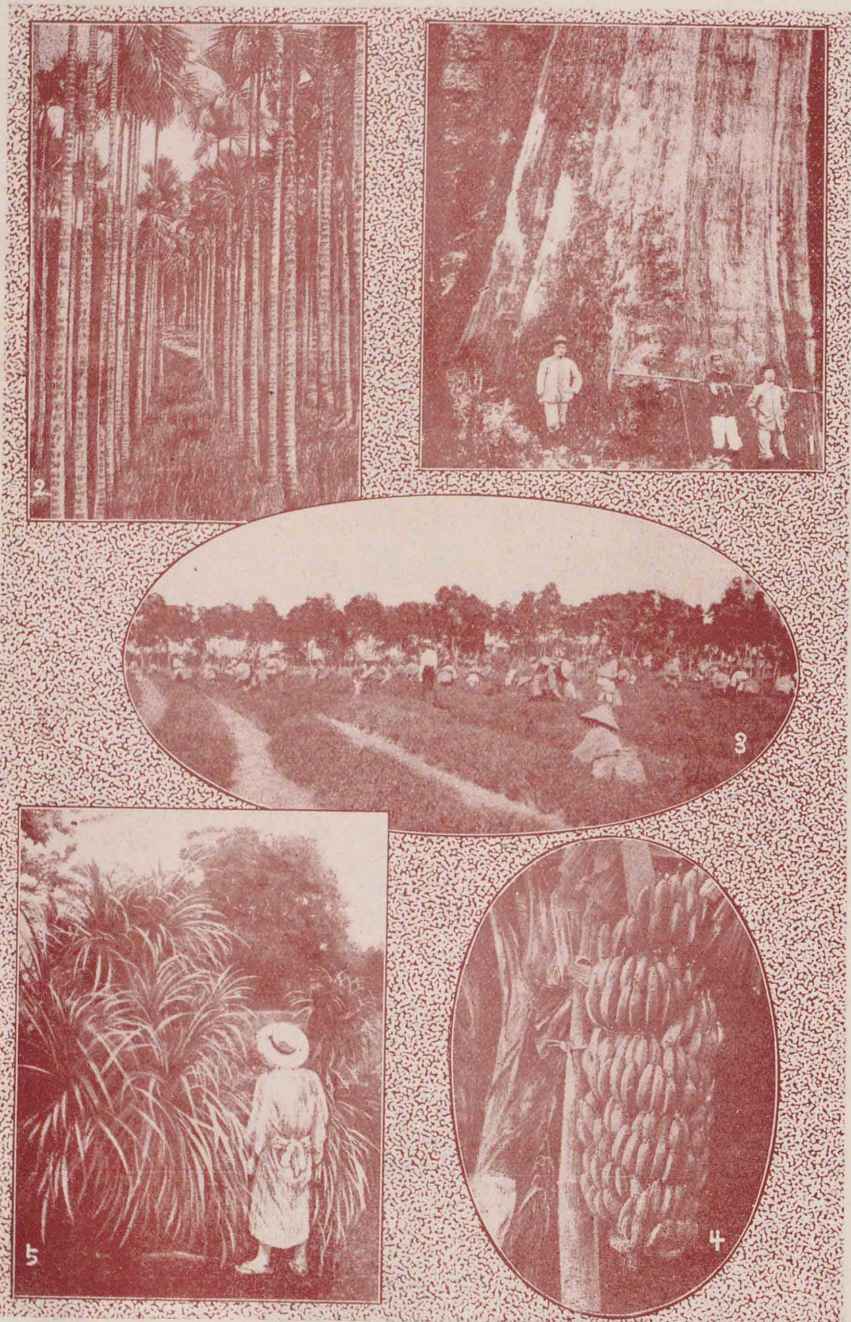
近年、埤圳(溜池)の改修、増設につれて、農産増加せり。



圖解 甘蔗畑と甘蔗運搬列車

× 舊名阿緞

年にも二回登り、臺灣平野の中部に主産し、多く内地に移出せらる。中にも葫蘆墩米、良質の譽あり。甘蔗は、臺灣平野の中部以南に主産し、概ね粗糖の儘、高雄より内地に送られて精糖となる。臺中、他里霧(近附)、嘉義(近附)、鹽水港、屏東等の各地に、新式宏大なる工場起り、製糖會社特設の鐵道、總延長一千哩、甘蔗畑工場間に通ぜり。茶は、北部の丘陵地に主産し、大稻埕(臺北)等にて製せ



1 阿里山の檜 2 檳榔樹林 3 北部丘陵地の茶園 4 蕉 5 甘蔗畑と投樹林

圖解 黄牛

耕大山・八仙山・濁水溪上流(臺北州)も扁柏の密林あり
×精製は臺北城外の艋舺

牡蠣の養殖盛に行はる
布袋嘴・北門嶼には大鹽田あり

られ、本島第一の輸出品たり。以上三大農産

物の外、甘藷、麻類、鳳梨、甘蔗、龍眼肉の産多し。

牧畜は、黄牛、水牛、豚、稍多きのみ。

林業 蕃界中、數千尺の高地には扁柏、少高地には樟の天然林多く、臺灣平野と蕃界との

接近地方には、樟の造林行はる。阿里山にて

は、機械によりて扁柏を伐採し、鐵道にて嘉義

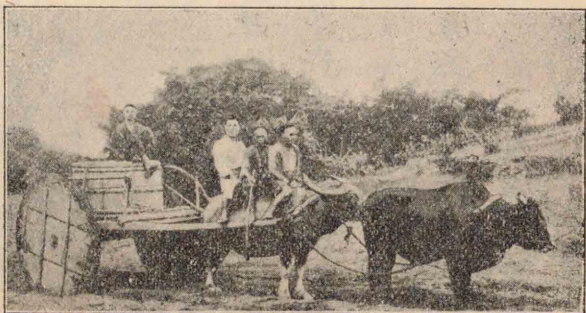
の製材所に送る。樟腦は、淡水、濁水、淡水の上

流等にて粗製せられ、茶に次ぐべき本島の輸

出品たり。

水産業 近海は、魚族に富みて、漁業の前途有望なり。天日製鹽、西

岸の諸地に行はれ、内地及び海外に輸さる。**鑛業** 北部は、金、銅、石炭、硫黄を産し、金、瓜、石、瑞芳は、帝國有數の金



山なり。臺灣平野に油田分布し、出礦坑有名なり。

× 蓮草又は竹を原料とするものあり

工業 製糖の榮ゆるに從ひ、糖蜜を原料とする酒精醸造も起り、又製腦、製麻、製紙行はる。新竹、鹿港間にては、林投帽を編製す。

× 支那形船に限り出入を許されたる舊港後壩、梧棲鹿港、東石、東港、馬公の七特別開港あり

商業 内地との取引年々急増し、爲に外國貿易振はず。開港に、基隆、淡水、安平、高雄等あり。

× 臺北淡水間

第五節 交通

× 花蓮港・玉里間既成

鐵道 縦貫線、基隆に起り、淡水線を分ち、南して高雄に終る。之と

接續し、屏東を経て潮州に至る線あり。臺灣平野の中部以南には、製糖會社經營の輕便線、蛛網狀に發達せり。臺東平野にも、一の縦貫線完成せんとす。

海運電信

沿岸航路又は内地、南支、南洋に至る航路開け、九州地方、福建省に海底電線を通じ、富基角に無線電信局あり。轎竹筏は、臺灣の特種交通機關なり。

内地人十五萬人
本地人三百五十萬人

第六節 住民

内地人は、僅に十五萬人に止れるに反し、漢族は、住民の殆ど全部を

× 生蕃、化蕃、熟蕃に分る。熟蕃は漢人と雜居して殆ど同化せられたり



圖解 蕃人の盛装

占めて、經濟上の勢力強く、漸次阿片吸飲、女子纏足の弊風を改め、内地人に同化しつゝあり。蕃人は、馬來族にして、就中生蕃は、蕃界嶺以東の深山幽谷に據り、兇暴を逞しうせしが、今は殆ど服従せり。

第七節 處誌

概観

本地方の都邑は、人口の多き臺灣平野に多し。其の中には、我が領臺

以來面目を一新したるものあり。

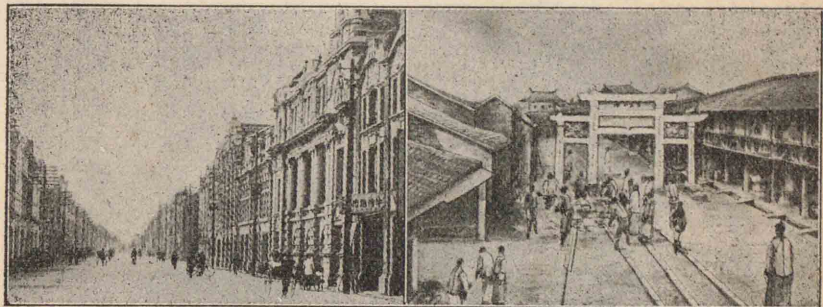
臺北州

基隆は、本島の北門にして、築港殆ど成り、内地との取引盛

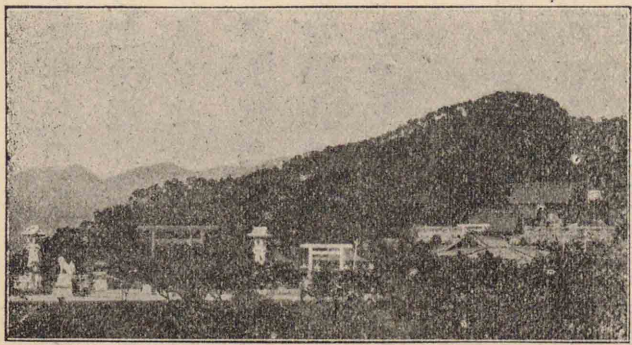
*高等商業學校・醫學專門學校・農林專門學校

圖解上 我が領
臺前と現今との
臺北
圖解下 臺灣神
社

*舊名大料坎



なり。本島の最大都臺北市は、城内城外大稻埕カ艋舺より成る。城内は、建築物壯麗にして街衢整然たり。總督府、覆審法院、第一守備隊司令部、諸學校など相望み、臺灣神社、其の近郊にあり。淡水は、淡水河口に位して、臺北に汽車汽船の便を有し、茶の輸出多く、對支貿易盛なり。宜蘭は、宜蘭平野の中心なり。
新竹州 大溪街は、蕃



*市内に赤崁樓・開山神社・孔子廟
南東郊外に關帝廟あり

族に對する要地にして、新竹は、氣候良好なり。

臺中州 臺中市、彰化は、農業最盛地方の中心市場なり。埔里社は、蕃地に對する要地にして、日月潭に程近し。

臺南州 嘉義は、製材製糖盛なり。臺南市は、本島中最も早く開け、臺北と南北相對する大市場にして、第二守備隊司令部商業專門學校あり。市の外港たる安平は、支那船を入るゝに足るのみ。

高雄州 高雄は、築港進み、基隆と共に、南北の二大門戸をなし、米砂糖の積出特に多く、前途有望なり。屏東は、下淡水溪の流域に位し、最大規模の製糖工場あり。恒春は、帝國最南の都邑なり。

澎湖諸島中の澎湖、白沙、漁翁三島は、相よりて天然の良港灣を形成し、海軍要港の馬公、ここにあり。

臺東廳・花蓮港廳 臺東平野は、近年、開墾大に進み、植民も稍多し。其の南門戸を卑南、北門戸を花蓮港となす。

第八章 北海道地方

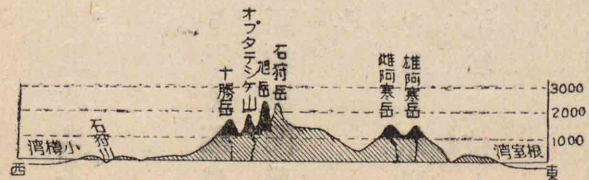
面積 〇五七方里 人口 〇三九萬人 一方里人口 〇三〇人
隣境 太平洋 千島海峡・オホーツク海 宗谷海峡 日本海 津軽海峡

第一節 地域

本地方は、北海道本島と千島列島等の屬島とより成り、十一國あり。行政上之を六區十四支廳に分つ。

第二節 地勢

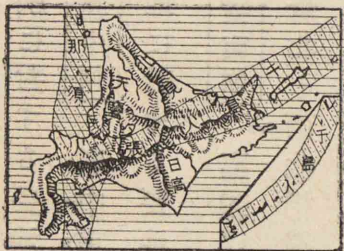
概観 本島の中央部は、縦走せる諸山脈と、横走せる千島火山脈との接合點にして、高山名嶽多く、重要な河川、こゝに發源す。面積廣き上に、主山地、中央部に局限せらるゝが故に、四邊には、廣大なる平地・原野開けたり。但し南西の半島部には、那須火山



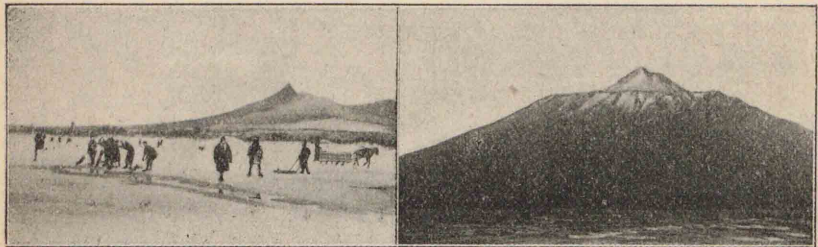
圖解下 千島火山脈断面圖

圖解上 北海道の地勢

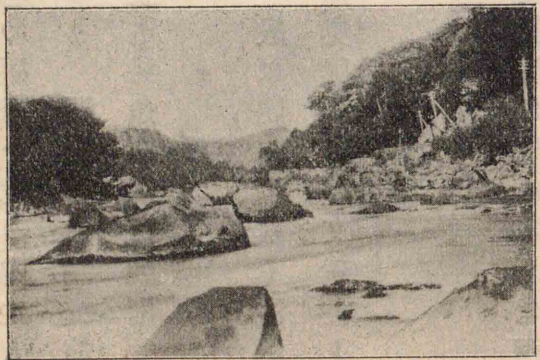
△函館・小樽・札幌
旭川・室蘭・釧路
▲函館・檜山・後志
室蘭・札幌・空知
上川・留萌・宗谷
網走・根室・釧路
河西・浦河



圖解上 擇捉島の爺岳と駒岳と大沼の採水
圖解下 神居古潭
△本地域の最高峰にてもとの名はヌタクカムウシユ
×蝦夷富士又は後羊蹄山等の別稱あり
*雨龍空知・江別の支流を合す



脈通じて、平地少なく、特に内浦灣岸には、火山群立して、噴火灣の別名を起さしめたり。
山誌 左に山脈・火山脈及び顯著なる山名を示すこと、せん。
北見山脈(石狩岳) 日高山脈
天鹽山脈 夕張山脈
千島火山脈(千島列島) 雄阿寒岳 雌阿寒岳 旭岳 オブタテシケ山 十勝岳
那須火山脈 樽前岳 マッカリ岳 有珠岳 駒岳
水誌 石狩川は、帝國屈指の大河にして、上川盆地・石狩平野間に、神居古潭



西別川東流せり

脚崎 宗谷 知床
納沙布 恵山 白神

圖解 氷柱とス
キ

灣 根室 内浦 函
館 小樽



の峽流をなし、下流は、舟運の便多し。之と天鹽、十勝、釧路の三川とは、各同名の平野を開き、内地人の移住開拓を待つや切なり。湖沼は、猿瀨、支笏、洞爺を始め、其の數多く、發電、養魚、製氷に利用せらるゝものあり。

海岸

南西部以外は、一般に屈曲少なく、沙濱遠く亘れる處あり。屬島は、奥尻、利尻、禮文、三島と千島列島著はる。

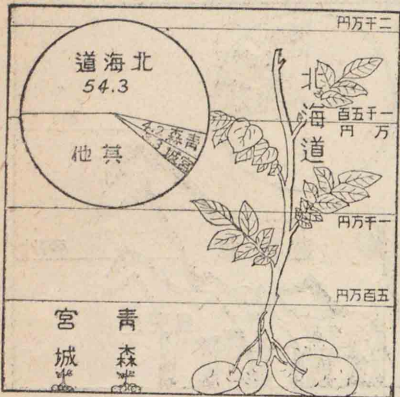
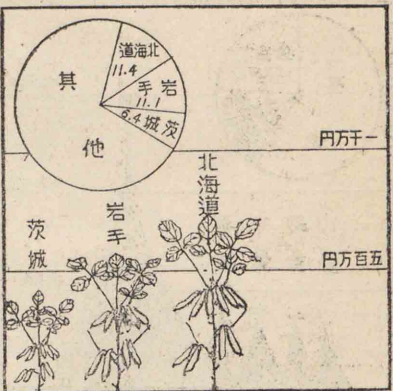
第三節 氣候

一般に低溫少雨なり。對馬海流に洗はるゝ、北西岸地方よりも、千島海流に洗はるゝ、南東岸地方特に然り。而して内地は、夏熱冬寒著し。南海上には、初夏に往々深霧發生し、北東海上の春季の

圖解 内地大豆
主産地方(内地
年産額約20萬担)

玉葱、玉葱、ホップ
の産も多く甜菜栽培
も興隆せんとす
*主産地は野付牛
地方

圖解 内地馬鈴
薯主産地方(内地
年産額約30萬
貫)



流水と共に、航海を妨ぐ。

第四節 産業

農業

大農法能く行はれ、農業は、今や水産業を凌ぎ、本道の主業となれり。

石狩河域最も榮

え、後志地方、十勝

平野之に次ぐ。

主要農産に、豆、麥

玉蜀黍、馬鈴薯、苧

果、亞麻、薄荷、牧草

あり。米は、多く上

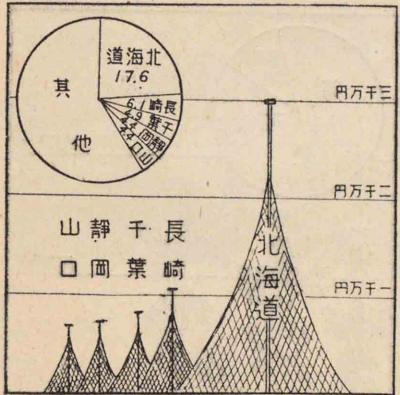
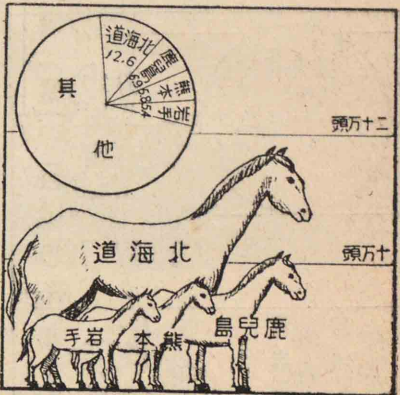
川平野に産する

に至れり。

豆	大豆、小豆は東京、大阪を始め内地一般に需用せられ、豌豆、菜豆は輸出せらる。
麥	大麥は麥酒醸造、小麥は機械製粉の原料となり、燕麥は、大戦前はシベリアに輸出せられたり
玉蜀黍	食料たる外、酒精の原料となり、其の糟は飼畜料となる
馬鈴薯	食料、カタクリとなる外酒精の原料となり其の糟は以て豚を養ふべし
亞麻	リンネルの原料として最も尊重せらる

×用材・鐵道枕木
 製紙原料を採取す
 小樽・砂川に製材
 所・釧路・金山等に
 パルプ製造所あり
 *野付牛・釧路等
 にあり

圖解上 内地馬
 主牧地方(内地馬
 馬頭數五萬頭)
 内地漁獲物主産
 地方(内地年産
 額一七〇〇萬圓)
 圖解下 根松の
 密林

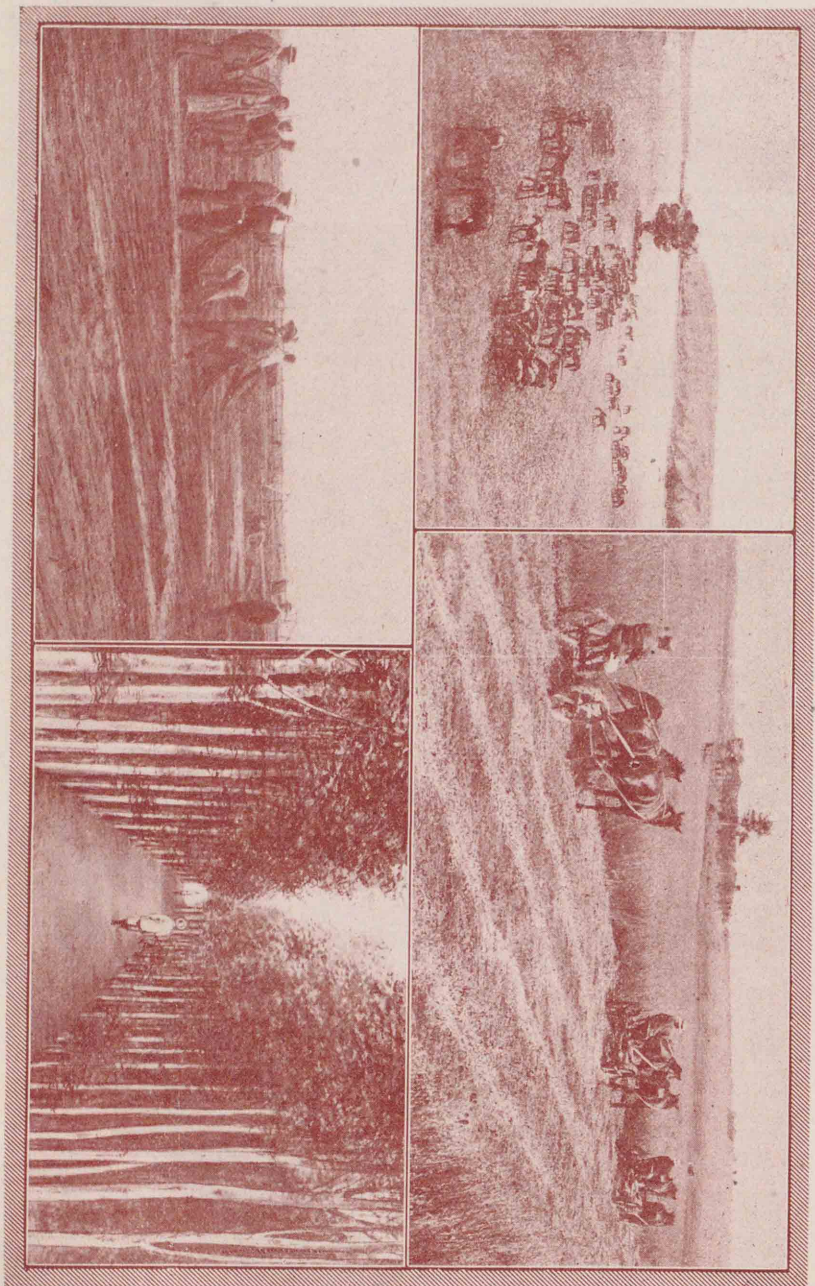
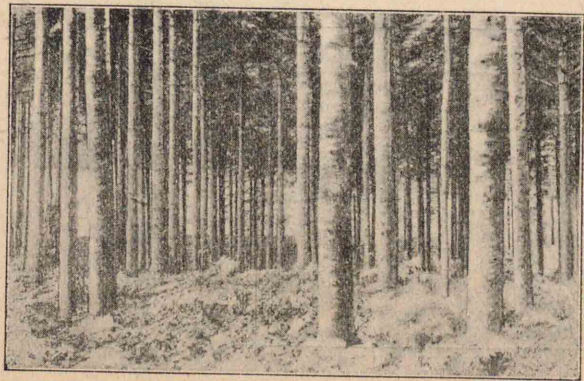


牧畜業 石狩平野は牛馬、新冠の御料牧
 場等は馬の飼養甚だ盛なり。

林業 蝦夷松・椴松の美林多し。燐寸軸

木の原料たる白楊の多産地は、今や本島の東北部山地に限らるゝに至れり。

水産業 本地方は、世界屈指の漁區、帝國主要の水産業地なり。産額の大半を占むる



燐寸の布足と林密揚白 圖下

馬牧と取刈草牧 圖上

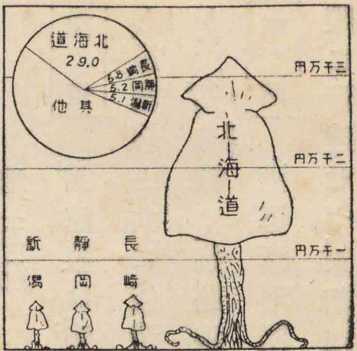
江差・壽都・天賣島
焼尻島も鯨漁の一
中心たり

圖解上 内地水
産製造物主産地
方(内地年産額
一、100萬圓)

圖解下 札幌の
製麻工場と江別
の製紙工場

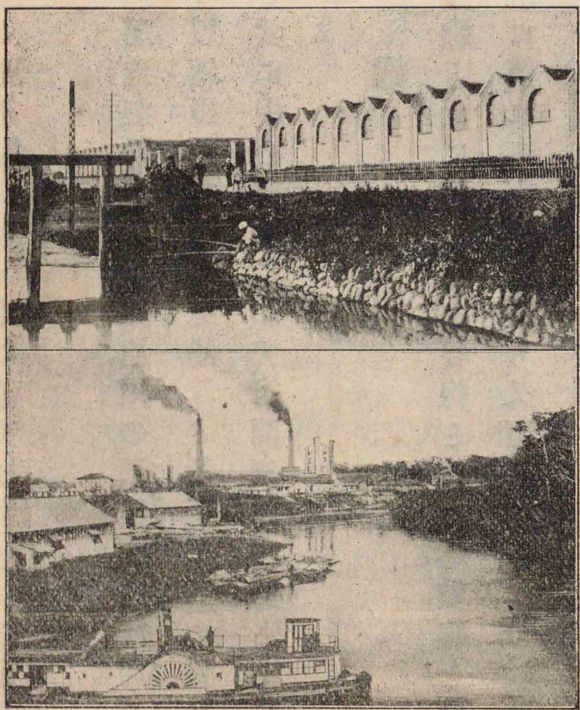
九州の諸炭坑の命
脈近く盡きんとす
る今日本島の炭坑
は三菱・三井等の
尊重する所となれ
り

鯨は岩内・余市・増毛・留萌・稚内と利尻・禮文二島との近海に産す。昆布・
烏賊・鮭・鱈の産亦多く、石狩川・西別川は、鮭漁
を以て著る。



鑛業 石炭の産、九

州地方に次ぎ、室蘭埠
頭之が爲に賑ふ。石
狩炭田は夕張・幌内・幾
春別・歌志内等の諸炭
坑を含み、筑豊炭田に



セメント・沃度等の製造も起れり

- 落石岬に無線電信局あり 僻地には驛選所あり
- 1 函館旭川間
- 2 室蘭・留萌間
- 3 旭川・浅野間
- 4 岩見澤・室蘭間
- 5 深川・留萌間
- 6 池田・網走間

次ぐべき大炭田たり。奥尻島等の火山地に硫黄、枝幸(北)に沙金を産す。

工業商業

札幌の麥酒醸造製粉麻類紡織旭川の酒精醸造江別アルコール苦小牧の洋紙製抄室蘭の製鋼製鐵函館の造船など新工業日に盛なり。小樽函館は札幌と共に中心市場にして室蘭釧路根室と共に開港なり。

第五節 交通

鐵道

函館線は釧路線と共に横貫線、宗谷線と共に縦貫線をなし、室蘭線と共に諸炭坑に至れる支線を分ち、又留萌線等を分岐せり。網走線は釧路線と分れ、別に支線を分てり。

水運

沿海諸港間航路又は本州樺太等に至る航路あれども、一般に發達せず、東部地方特に然り。

第六節 住民

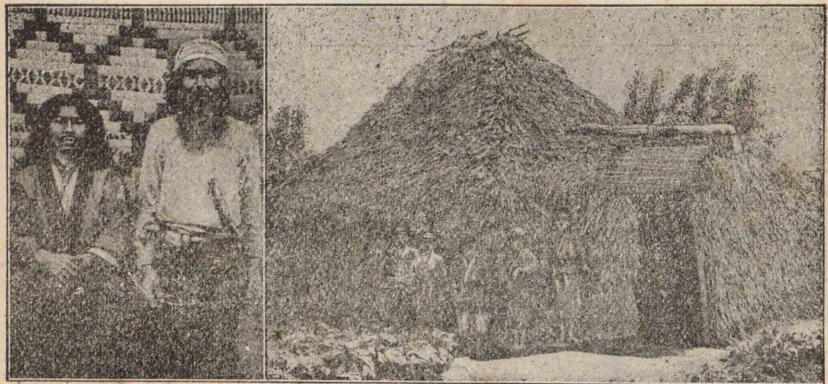
明治初年以來、政府は、本道の植民、開拓に努め、今や住民の殆ど全部は、移住内地人にして、土人即ちアイヌ族は、僅に一萬八千に止り、沙流川沿岸の平取に、最も多く住居す。楡カハの一種の樹皮にて織りしアツシを着、粗造なる掘立小屋に住み、粗食に甘んじ、天性鈍直、農漁ホウダテに従事せり。

第七節 處誌

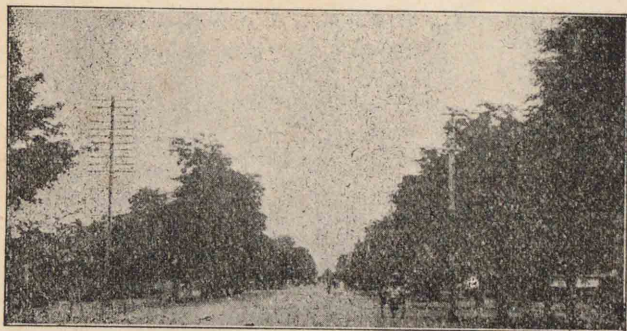
西半は、割合に人口多く、都市少なからざるも、東半は之に反す。

函館區は、青函連絡線を通じて、本島の南門をなし、水産物の輸出多く、控訴院造船所あり、大湊と共に、日本海東門(津輕海峡)の鎮

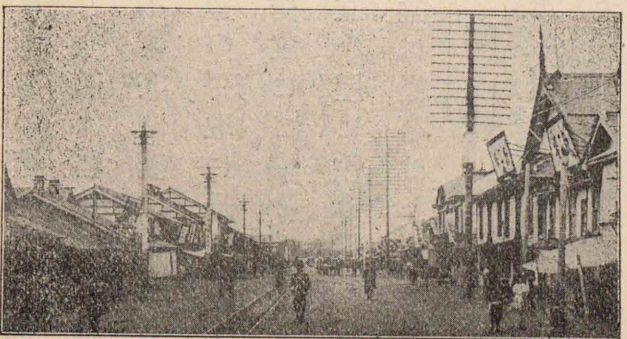
圖解 アイヌ人



たり。大沼は駒岳を負ひて風光美はしく、五稜廓の外濠と共に、採氷行はる。福山(古の松前)は、烏賊の集散多し。小樽オホソラ區は、石狩川流域の門戸にして、築港完成し、農林産物の取引などの商業榮え、高等商業



學校あり。札幌區は、豊平河岸に立ち、新市街の事として、街衢廣潤井然たり。政治教育、拓殖工業の大中心にして、北海道廳北海道帝國大學札幌神社諸工場あり。岩見澤は、四鐵道線の會點に位し、鐵道工場あり。



圖解上 札幌の市街(並木は白楊)
圖解下 旭川の市街

* 郊外にあり

* 函館線、宗谷線、富良野線

* 鮭、鱒、蟹の罐詰、
* 罽舘、鯉、昆布

* 郡司大尉の率ゆる報効義會の本據地

* 狭き所は幅四海里に止まり、冬季氷結の際は穩にて渡り得べし

上川盆地の新市街たる旭川區は、三鐵道線の會點に位して、第七師團司令部あり。室蘭區は、石炭の輸出多く、製鋼製鐵盛なり。十勝平野の帶廣は、大豆、釧路河口の釧路區は、林産物、厚岸は、牡蠣、昆布の集散もて賑ふ。根室は、千島に對する要地にして、水産物の製造、取引行はる。冬季に、港灣氷結せんか、花咲を補港となす。
千島列島は、國後色丹、擇捉、得撫等大小三十有餘の島嶼より成り、鮭、鱒、鱈の漁利多く、擇捉島に、紗那の漁港あり。幅七海里の千島海峽附近に、帝國東端の占守島と、北端の阿頼度島とあり。

第九章 樺太地方

面積 三三九方里 人口 平均五萬人 一方里人口 三三八
隣境 オホーツク海 釧路領間宮海峽・宗谷海峽

第一節 地域沿革

樺太は、古の奥蝦夷の地、大陸との間に、間宮海峽あるのみ。幕末に及び、日露間に境界問題起り、我が國は、明治八年、得撫以北の千島列島

×豊原大泊真岡
泊居麝香

圖解 樺太の地勢

×卑濕にして蘚苔
の下に泥炭層あり
森林少なく地味農
耕に適せず盛夏に
も數尺の地下は凍
結せり

と交換せしが、日露戦争の結果、北緯五十度以南の地、再び我が領土となり、今は五支廳に分れ、樺太廳之を統轄す。近時、我が勢力地となりしサガレン州は、實に樺太の北半をも含めり。

第二節 地勢

概観

二條の丘陵性山地、南北に並走して、其の間に、大小の平野を挾めり。



山誌

西部山地即ち西樺

太山脈は、主要分水界をなし、多數の火山を伴へり。東部山

地は、多來加灣に中斷せられて、東樺太(北)鈴谷の二山脈となる。

水誌

幌内河(國際)は、露領より來れる最大河なり。本地方最大の

幌内平野は、此の流域に開け、俗にツンドラと稱せられ、夏季、馴鹿を放牧するに足るのみ。南部に、内淵、鈴谷の二河あり、其の流域の鈴

谷平野は、樺太唯一の農耕地たり。

海岸

概ね單調にして、澤湖に富める沙濱多し。屬島は、海豹島、海馬島著しきのみ。

第三節 氣候

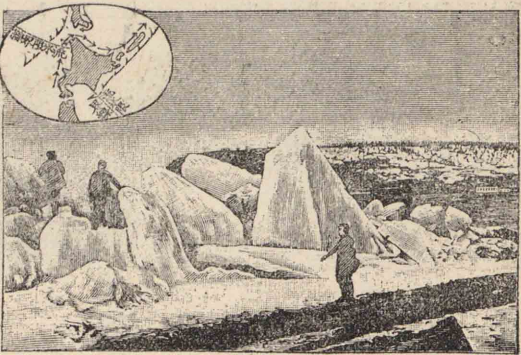
低溫少雨にして、不凍港の如き、西岸に一二あるのみ。殊に東海上は、春夏に流水多し。

第四節 産業

農業は、辛うじて鈴谷平野に行ふのみ。

林業は、前途有望にして、落葉松、蝦夷松、

榎松の原生林多く、木材乾溜行はれ、製紙



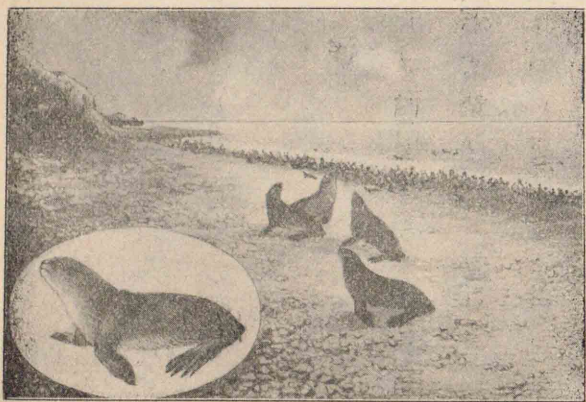
圖解下 海豹島の臙歌

×本斗・真岡

圖解上 吹き寄せられたる流水

御北知床・中知床・西能登呂・灣・多來加灣・亞庭灣
△臘虎・臙歌・海鹽の棲息地

森林中には狐・貂等の毛皮獸多し



圖解 馴鹿と犬

×大樺 馴鹿 樺馬



原料を供給す。石炭・石油に富めども、未だ鑛業振はず。世界屈指の好漁區の事として、水産は、本區の主業にして、海岸の都邑は、概ね漁港たらざるはなし。西岸の鯨を主とし、鮭・鱒・鱈の産も多く、海獸の繁殖亦多し。

第五節 交通

鐵道は、鈴谷平野を縦貫し、又西岸なる本斗・眞岡間にも通じたり。道路、漸次整ひ、驛遞ハトビ設けられ、樺使用せらる。海運は、十分に發達せず、殊に結氷・流水の妨げ多し。

第六節 住民

政府は、只管内地人の移住を奨勵し、住民の大部は、内地人たり。但し冬季には激減す。土人は北

×東郊外

部にギリアーク・オロコ、南部にアイヌ住み、總數二千餘人あるのみ。

第七節 處誌

人口頗る稀少にして、都邑は、小なるもの、鈴谷平野及び海岸にあるのみ。

大泊は、本域の南門、唯一の開港にして、冬季には、碎氷船もて交通す。豊原は、鈴谷平野に立ち、樺太廳・樺太神社のある處、街衢井然たり。敷香は、幌内平野の南門なり。本斗・眞岡・久春内は、西岸の要津たり。

第十章 朝鮮地方

面積一四三万里 人口一七〇〇萬人 一方里人口一三〇〇人
隣境日本海露領滿洲黃海朝鮮海峽

第一節 地域

亞細亞大陸の東部、日本海、黃海間の半島にして、北は鴨綠江、白頭山、豆滿江によりて滿洲、亞細亞露西亞と境し、南は朝鮮海峽を隔てて對馬と相望む。日清日露兩戰役を経て我が國に歸し、行政上三道に分れ、朝鮮總督、其の各道知事を總統す。

道の下なる府に府尹郡に郡守あり内地の町村の如きを面と云ひ、面長あり

- 全羅南道 光州 全羅北道 全州 慶尙南道 晉州
- 慶尙北道 大邱 忠清南道 公州 忠清北道 清州
- 京畿道 京城 江原道 春川 黃海道 海州
- 平安南道 平壤 平安北道 義州 咸鏡南道 咸興
- 咸鏡北道 鏡城

第二節 地勢

概観

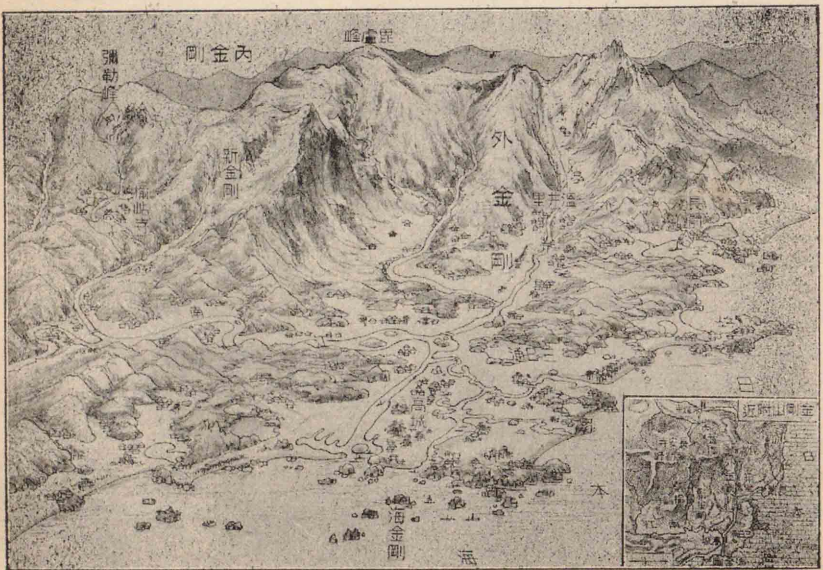
平地は、日本海斜面に殆どなく、朝鮮海峽斜面及び黃海斜面に散在せり、其の他は一般に山地なり。

山誌

南部と北部とは、其の地勢大に相異れり。北部は、長白、妙香などの數山脈、何れも北東より南西に斜走し、且つ蓋馬



高臺もありて、土地、稍高



圖解下 金剛山

圖解上 朝鮮の地勢

×長さ百四十里

峻なり。長白山脈中の白頭山は、半島の最高山にして、火口湖を戴けり。南部は、大白山脈と、其の支脈の小白山脈などありて、略南北に走れり。大白山脈中の金剛山は、風光絶美、半島第一の靈峰たり。

水誌

分水嶺東に偏せるが故に、日本海斜面には、豆満江の外、長大なる河流なし。黄海斜面には、帝國最長の鴨綠江を始め、清川大

海岸

東岸は、單調にして、東朝鮮灣入り、屬島は、鬱陵島あるのみ。

朝鮮海峽、黄海の方面は、屈曲島嶼多く、殊に鎮海湾は、巨濟島を前にして、世界有数の良軍港たり。濟州島は、朝鮮の最大島、航海者の好目標にして、近海に漁利多し。南西海上には、朝鮮多島海と稱せらるゝ所あり。仁川附近は、潮汐千滿の差三十餘尺に達するも、東岸は、約一尺に止まる。

朝鮮の家屋には、温突の設けあり、即ち座の下に煙道を作り、焚火の煙を通ぜしめて暖氣を取る。

米は南部大豆は北部に主産し、主産農産にして内地に移出す。

圖解 人参加と風よけ

×朝鮮人支那人は萬病に特效あるものと信ず

鶴の天に舞ひ虎・豹の深山にあるは内地にて見ること能はざる所なり

第三節 氣候

南半は、殆ど内地の同緯度地と大差なく、北半は大陸性なり。一般に雨雪少なく、又氣温激變して三寒四暖の語あり。南西海上は、春夏に濃霧屢起る。

第四節 産業

農業

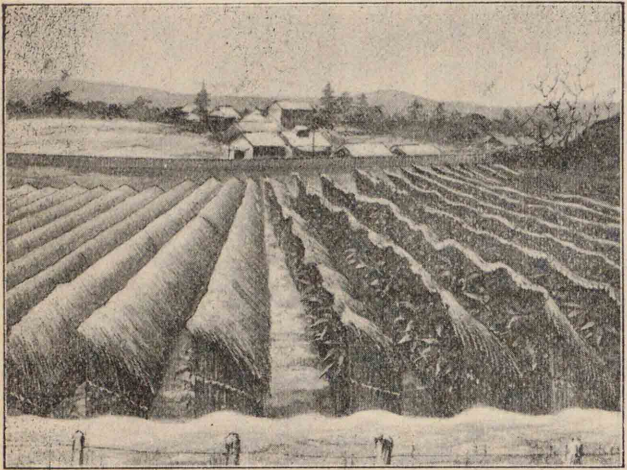
農は、朝鮮の主業なれども、

今尙ほ未墾地多くして、内地人の移住開拓を待つや切なり。米・麥・大豆・葉煙草の産多く、開城附近に人参、木浦附近に綿を産す。

牧畜業

牧牛、特に北部に榮え、生牛、

牛皮、牛骨、多く内地に來り、製革工場、永登浦にあり。



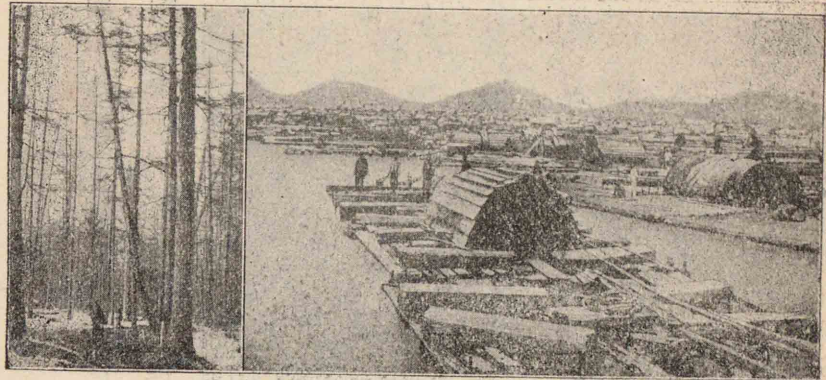
朝鮮種は朝鮮松朝鮮樺朝鮮落葉松

*内地人よりも朝鮮人多く漁獲す

圖解上 鴨綠江の袋と鴨綠江上流の林相

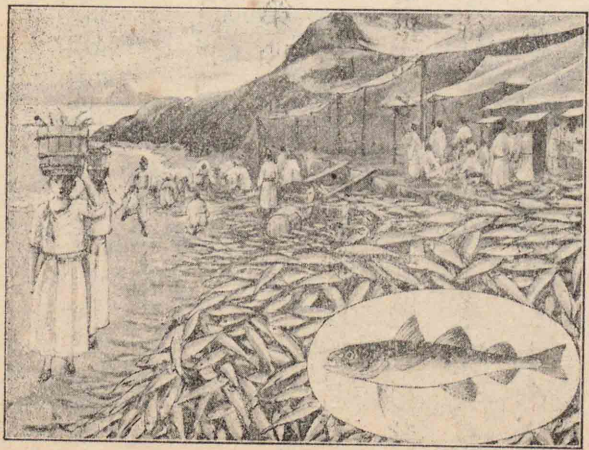
圖解下 明太魚の大漁

永興灣に牡蠣の養殖行はる
*主に中國人：九州人



林業 北部山地殊に豆滿鴨綠二江の流域のみは美林栢直りて伐採盛なれども、其の他は濫伐の爲緒禿たりしが、今や盛に植林せらる。

水産業 日本海は明太魚、鯨、朝鮮海峽は鯛、鱈、烏賊、黄海は石首魚多く、内地の遠洋漁業者來り漁

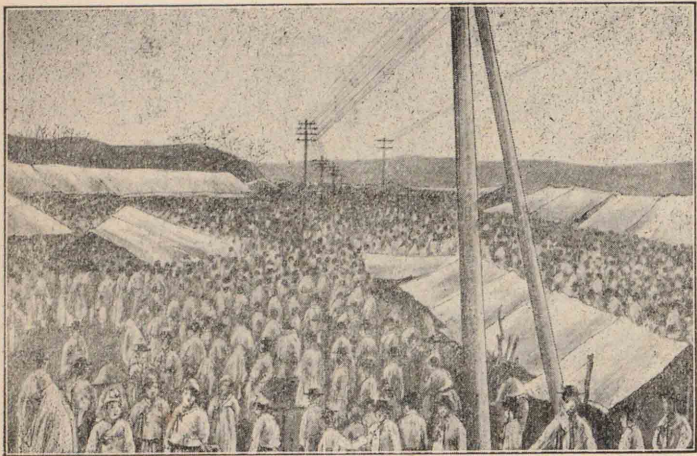


仁川附近の朱安も著名の製鹽地

*鑛業の爲北鎮發達せり
雲山は米入途安は英人の經營

*安岳

圖解 大邱の大市



獲す。西岸は、廣梁灣を始め、各地に天日製鹽盛なり。鑛業工業 鑛物は、朝鮮の一大富源なり。金は雲山(平安北道)順安(平安南道)遂安(黄海道)稷山(南道)に産し、鎮南浦に、鑛製鍊所起れり。鐵は、黄海道の載寧、殷栗等に産し、多く八幡製鐵所に送られ、又兼二浦に製鐵所起れり。平壤附近の無煙炭は、多く徳山煉炭所に來る。工業は、内地人の新に起ししもののみ著し。

商業 定設店舗少なく、従つて大邱等の定期市盛なり。内地との取引發達し、十個の開港(釜山、木浦、群山、仁川、鎮南浦、龍巖浦、義州、元山、城津、清津、三個の

開市(京城・平壤大邱)あり中にも釜山・仁川著はる。

第五節 交通

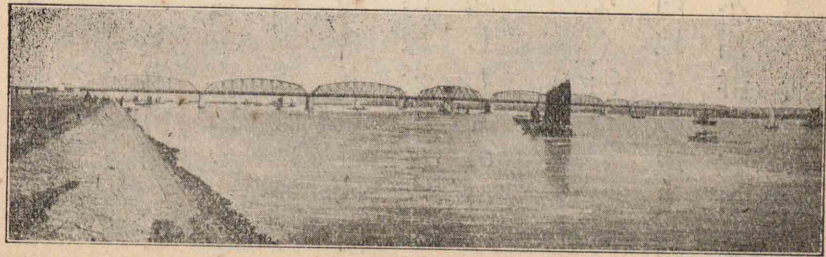
道路鐵道

道路は、不備なれども、鐵道は、概ね廣軌にして發達著し。京釜・京義二線は、相連りて縦貫線をなし、鴨綠江の大鐵橋によりて安奉線に連り、以て歐羅巴に至る一要路となれり。馬山・湖南・京仁・京元・平南の諸線縦貫線に連れり。元山・會寧間の咸鏡線は、遠からず全通せん。

水運

鴨綠・大同・漢洛東四江の下流は、水運稍大なり。沿岸航路又は内地北支等に至る航路漸次發達し、殊に關釜(海里)間に、航程約半日間の連絡航路あり。

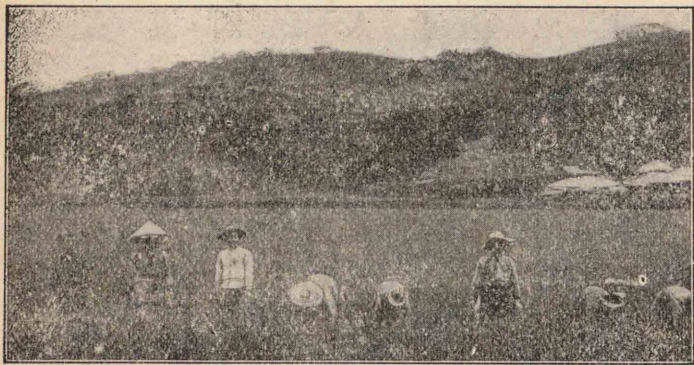
第六節 住民



- 港門島・木浦附近
- 月尾島・小青島に
- 無線電信局あり
- 1釜山・京城間
- 2京城・新義州間
- 3三浪津・馬山間
- 4大邱・木浦間
- 5永登浦・仁川間
- 6京城・元山間
- 7平壤・鎮南浦間

鴨綠江の廻轉閉式鐵橋(人道車道もあり安東より橋柱四脚目の處廻轉閉す)

圖解上 移住内地人の農業
圖解下 朝鮮の擔夫と面吊婦人



富源多き等の理由により、今や移住内地人約四十萬

に達して、重要都市、概ね内地と同様の觀を呈し、其の



× 藁葺の陋屋に住み遊惰安逸にして四時白色の綿服を着け女子は白衣の洗濯に忙殺せらる

釜山の築港は殆ど完成せり

× 鎮守府は佐世保にあるもの兼管す長箭も捕鯨の根據地

成歡・牙山・豊島沖は戦蹟地
江景・全州は米作地にあり

子弟の爲の學校各處に起れり。
朝鮮族は、住民の殆ど全部を占め、内地人に能く似たり。中流以上は漢文、一般人民は諺文ハングルを用ひしが、内地的教育の普及につれて、國文、國語の普及著し。

第七節 處 誌

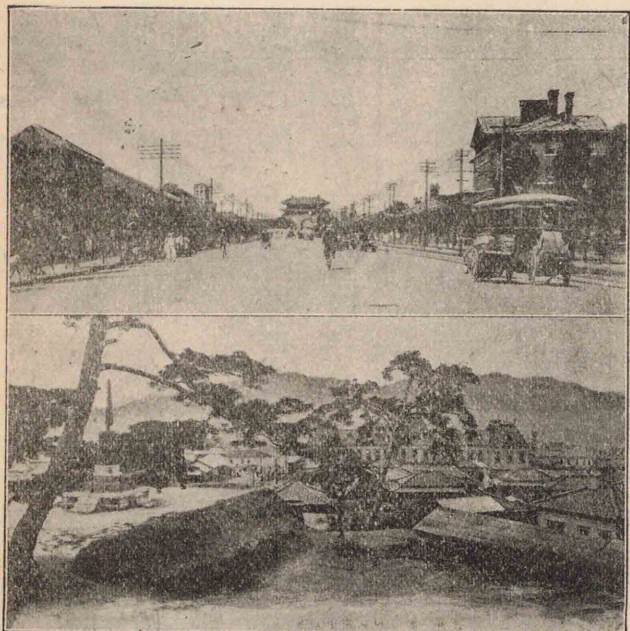
人口の密度内地のその半ばに止まり、商工未だ振はず、従つて都會少なく、主に南部西部の海岸平野に分布せり。

釜山は、船車の連絡點半島の南門にして、絶影島前面にあり。古來、内地との關係深し。軍港鎮海灣に臨める。鎮海は、海軍要港部の所在地にして、馬山に近し。蔚山は捕鯨の根據地、慶州は新羅の舊都なり。洛東江平野の大邱は、覆審法院のある處、春市、秋市盛なり。

大田は、米作地方の新市街にして、木浦は綿水産物、群山は米の積出地なり。水原に、模範農場あり。仁川は、月尾島を前にして、京城の外

× 龍山を含む

港たれども、水淺き爲、大船は、港外に寄泊せざるを得ず。斯くて築港行はれつゝあり。
京城は、漢江に臨み、丘陵、四邊を繞り、城壁シヤッヘキ之に築かる。李朝五百年の



圖解 南大門外の京城市街と倭城臺より見たる朝鮮總督府

舊都、今や街衢建築物面目を改め、電燈、電車、水道能く備はり、李王宮、總督府、高等法院、覆審法院あり。南西部なる龍山は、三鐵道線の會點、第二十師團司令部の所在地なり。
開城は、高麗の舊都、人參の集散地なり。黃州は、大豆を集散し、兼二浦に鐵道を通

ず。平壤は、大同江岸の要害地にして、屢戰場となれり。覆審法院のある處附近に、無煙炭の産多し。鎮南浦は、大同江口に臨み、築港成り、市街内地式なり。新義州龍巖浦は、鴨綠江口にあり。元山は、東面の最良港、漁業の一中心にして、鎮海灣地方と共に、要塞地帯に屬す。羅南は、第十九師團司令部の所在地なり。清津は、間島(海州)に入るの要門にして、其の前途有望なり。

北東部に咸鏡・城津・鏡城・會寧あり

本編は主に前編地方誌にての既習事項を總括す

山系とは山脈の集合なり

第二編 總括

第一章 自然地理

第一節 地勢

概観 我が國は、山地に富み、大なる河湖平野少なく、海岸の屈曲及び島嶼多し。而して火山地震温泉の多きこと、世界に稀なり。

山脈 列島部の山地は、北東派樺太山系と、南西派山系とに分屬す。右二山系の接合地方は、本州中、幅最も廣し。富士火山脈、こゝを縦走して遠く南洋に赴けり。之を南日本(朝鮮を)北日本(除く)の分け目となす者あり。南北兩日本を合せんか、略、一大弓形を呈し、其の太平洋方面を表日本、日本海方面を裏日本と呼ぶことあり。北日本と南日本、又裏日本と表日本とは、地文上、人文上、相異なること多し。

阿武隈山脈より筑波山脈を別する時は筑波山は筑波山脈に屬することとなる

立山の一部は火山

白頭山は朝鮮の最高山にして火口湖を有す

北東派山系は、樺太に起りて北海道本島・奥羽地方を過ぎ、本州中部地方の略中部に達せり。之に屬する山脈と名山とは左の如し。
西樺太 東樺太(東北山脈・鈴谷山脈) 北見天鹽岳・右狩岳 日高 天鹽 夕張
奥羽 北上 阿武隈筑波 房總連丘 三浦(連丘)
出羽(羽黒山) 越後 三國 關東妙義山
南西派山系は、南北の二列に分る。北列のものは九州の北西部に、南列のものは臺灣に起り、二者概ね竝走せり。

北列の山 飛騨大連華・白馬岳・立山・鎗岳 木曾 伊吹 鈴鹿 笠置(笠置山・春日山・三笠山) 脈と名山 金剛(金剛山) 和泉 中國(比良岳・比叡山・大江山・六甲山・船通山) 九州北部 南列の山 赤石(赤石山) 紀伊(天臺原山・山上岳・那智山・高野山) 讃岐 四國(釧山・石鎚山) 脈と名山 九州南部(祖母山・市房山) 臺灣(新高山・シルビア山) 蕃界嶺 臺東山脈

朝鮮の北部には、南西より北東に竝走する長白・妙香等の數山脈あり。又南部には、略南北に走れる大白・小白の二山脈あり。

火山脈 列島部には、多くの火山脈互りて、世界稀有の火山國をなし、火山の數約二百を算し、山容秀麗なるもの多し。

立山の一部は乗鞍火山脈に屬す

千島火山脈 爺岳・雄阿寒岳・雌阿寒岳・旭岳・十勝岳

那須火山脈 梅前岳・有珠岳・マッカーリ岳・駒岳・八甲田山・岩手山・藏王山・吾妻山

磐梯山・那須岳・男體山・赤城山・榛名山・白根山・淺間山

鳥海火山脈 岩木山・鳥海山・月山・湯殿山

富士火山脈 妙高山・戸隠山・八岳・富士山・箱根山・大城山・三原山

乗鞍火山脈 乗鞍岳・御嶽

白山火山脈 白山・船上山・大山・三瓶山 阿蘇火山脈 鶴見山・由布岳・九重山・阿蘇山・温泉岳

霧島火山脈 霧島山・櫻島岳・開聞岳 大屯火山脈 大屯火山・壱

温泉 火山地方に多く、中には、健康の保持に適し、清涼水の原料を供するものあり。

鬼首 鹽原 伊香保 草津 箱根 熱海 修善寺 和倉
山中 山代 寶塚 有馬 城崎 道後 武雄 北投

河川 我が國の河川は、舟運・灌漑の利の大なる者少きも、其の數、其の水量、割合に多く、又流勢急激にして動力を供するもの多し。今八斜面と各斜面の河川とを、著しき湖沼及び海峽と共に、圖示すること、せり。

湖沼 大なるもの少なきも、或は舟運灌漑に、或は工業養魚に用ひられ、或は風光の美を備ふるもの多し。

平野

- 幌内平野 鈴谷平野 天鹽平野 上川盆地 石狩平野 十勝平野 釧路平野
- 津輕平野 庄内平野 仙臺平野 關東平野 甲府盆地 濃尾平野 佐久平
- 諏訪平 善光寺平 松本平 越後平野 越中平野 福井平野 近江盆地
- 山城盆地 伊勢平野 大和盆地 大阪平野 播磨平野 徳島平野 筑紫平野
- 熊本平野 臺灣平野 臺東平野 宜蘭平野

海岸

我が國は、太平洋岸を始め、一般に出入多し。一局部にては、瀬戸内海岸、九州の北西岸、朝鮮の南西岸特に著し。

- 下北半島 津輕半島 牡鹿半島 男鹿半島 房總半島 三浦半島 伊豆半島
- 半島 渥美半島 知多半島 能登半島 志摩半島 紀伊半島 夜見濱 島根半島
- 島 兒島半島 讃岐半島 高繩半島 海 中道 肥前半島(東松浦・北松浦・彼杵・島原の四半島を含む) 宇土半島 國東半島 佐賀半島 大隅半島 薩摩半島 朝鮮半島
- 嶺 犬吠岬 觀音崎 富津洲 潮岬 佐田岬 室戸崎 蹠岬
- 地 藏崎 富基角



千島列島中にも國
後、擇捉、得撫等の
大島あり

臺灣の東海上も
風浪荒し

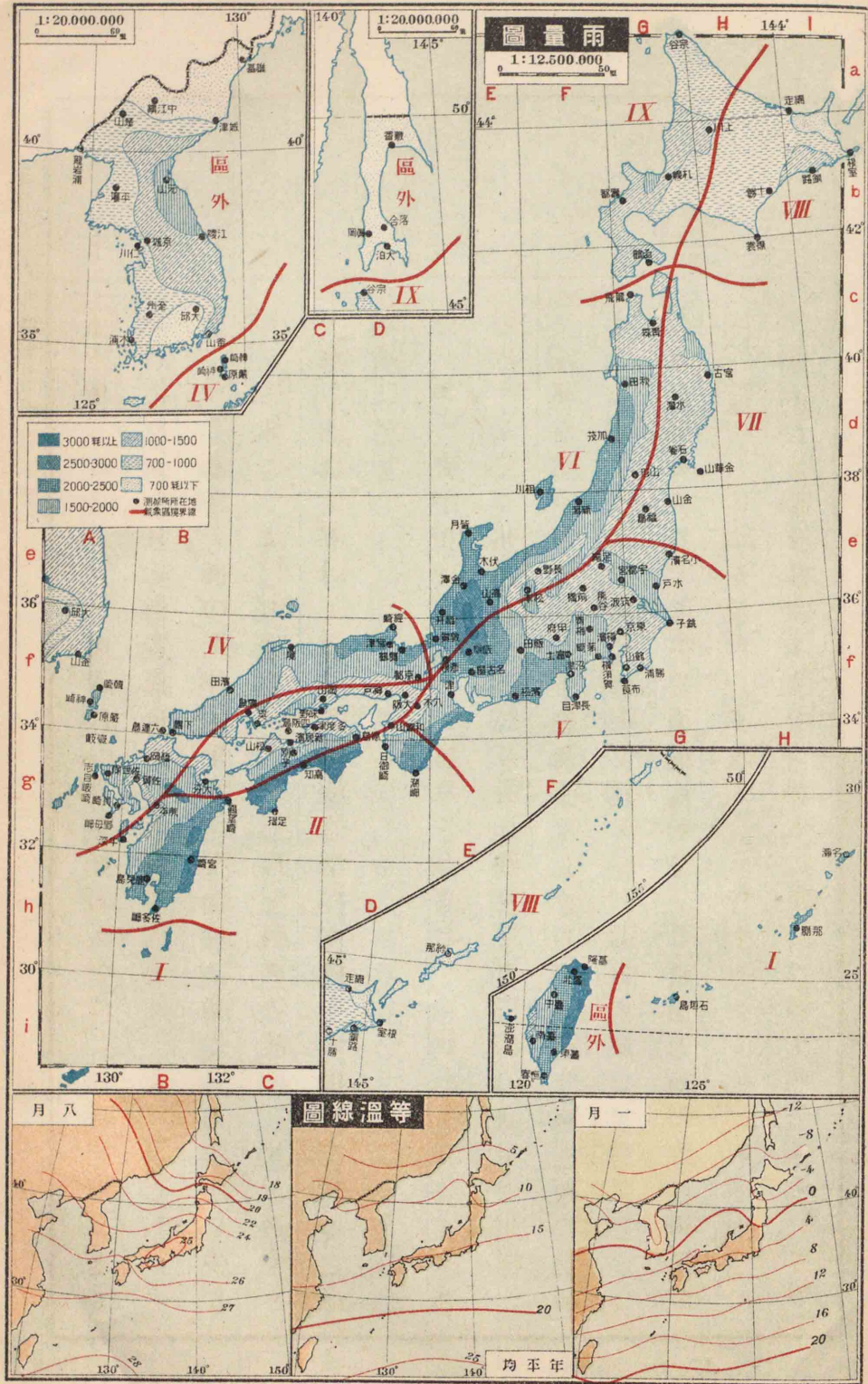
有明海	博多海	富山海	陸奥海	多來加海
鹿兒島海	唐津海	七尾海	仙臺海	亞庭海
中城海	伊萬里海	若狹海	東京海	根室海
鎮海	大村海	大阪海	相模海	厚岸海
永興海	有明海	兒島海	駿河海	内浦海
	八代海	廣島海	三河海	函館海
	別府海	土佐海	伊勢海	小樽海

島嶼 我が國には、六個の大島あり。此の外、列狀をなすものに、千島、薩南、琉球、豆南の四列島あり。又集團をなすものは、瀬戸内海と、九州、臺灣の西部と、朝鮮の南西部とにあり。瀬戸内海の淡路島と、琉球列島中の沖繩島と、朝鮮海峡なる壹岐對馬、濟州三島と、日本海中の佐渡、隱岐(稍、集團をなす)二島とは、何れも稍、大なり。

第二節 海洋

航海の適否

我が北邊の海上は、冬季に氷結し、春季に流水漂ひ、又日本海面は、冬季に波濤高々、瀬戸内海は、潮流矢の如き處多し。されど我が國の近海は、概して航海安全(夏季)なり。



*二見海

深淺

タスカロラ海床(千尺八)を始め、太平洋には深き處多きも、オホーツク海、日本海、黄海、東支那海、瀬戸内海は、一般に淺し。

潮汐

潮汐干満の差は、太平洋岸、黄海岸に多く、日本海岸に少ない。一局部にては、仁川附近の三十三尺を最多、佐渡の一尺を最少とす。瀬戸内海は、潮汐干満の際、潮流急激なる處多く、鳴門、下關の二海峡殊に然り。

海流

太平洋には、日本、千島の二海流あり。日本海流(潮黒)は、赤道附近より來り、略北東に向ひて流れ、關東地方以南の我が太平洋岸に雨量を多からしむ。千島海流は、北東方より來り、略南西に進めり。之が爲に、北海道、奥羽の太平洋岸は、低溫少雨なり。日本海流の分派なる對馬海流は、琉球より東支那海に入り、對馬海峡を経て日本海を流れ、以て九州より樺太に至る列島の西岸をして、割合に高溫多雨ならしむ。樺太の東方に樺太海流、西方にリマ

ン海流南下せり。共に寒流なり。

第三節 氣候

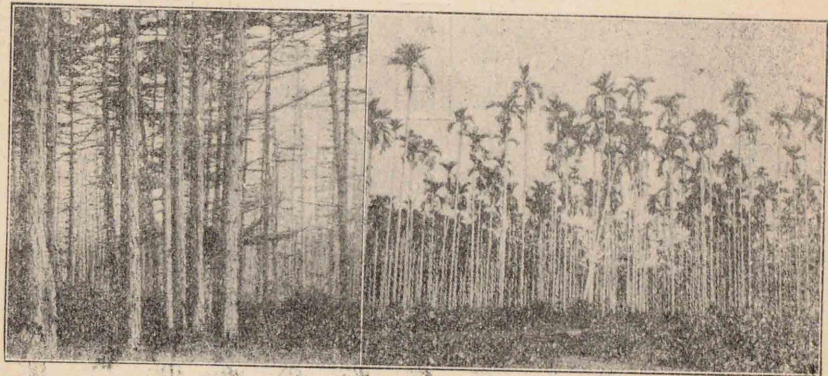
氣温 我が國は、緯度三十度間に亙りて、特に臺灣は高温、奥羽以北は低温なり。又亞細亞大陸の極寒、極熱、土地の高低、寒暖、二海流等の影響あれども、國土の大部、北温帶に位し、且つ四面、殆ど海を環らして、寒暑の中和は、風光の明媚と共に、普く世界に知らる。

風・雨 列島部は、夏季に南東季節風、冬季に北西季節風多し。是れ表日本と裏日本とが、多雨期を異にする主原因なり。此の兩季節風の交代期は、風雨多きを常とし、殊に八九月頃は、暴風豪雨襲來して、米産を減じ、洪水を起すこと稀ならず。また初夏は、梅雨連日に亙り、盛夏は、雷雨屢去來す。半島部は、夏季に南西季節風、冬季に北又は西の季節風多く、一般に少雨なり。

第四節 天産物

*臺灣にては夏季に南西季節風、冬季に北東季節風多し

圖解 暖地の林相と寒地の林相



動物植物

氣温・雨量・地味、共に植物の生育に適し、且つ各地の氣候區々にして、生物の種類多し。南部に榕樹、椰子樹、檳榔樹、水牛、北部に蝦夷松、馴鹿等分布し、中部は松、杉、檜の良材に富み、牛、馬等の家畜多し。暖流は、鱈、鯉、鮪等を誘ひ、寒流は、鯨、昆布、海獸を生育せしむ。

鑛物

我が國は、世界屈指の鑛業國にして、鑛物の種類に富み、銅、石炭、硫黃の埋藏量多き上に、今や鑛物に富める朝鮮、臺灣を領せり。但し、鐵、石油の産少なき憾みあり。

第二章 人文地理

第一節 産業

農業

農業は、國民の大半の従事する所、其の年産額、内地のみにも、無慮二十億圓を超ゆ。されど、人口の増加等につれて、米、麥、大豆等を輸入せざるべからず。是れ土地開拓、耕地整理、移民植民の急務なると同時に、農業振起の必要ある所になり。但し、養蠶業は、益盛況を呈し、生絲の輸出額、世界の第一位を占む。而して朝鮮、臺灣の農業も、今や急發展の途にあり。

牧畜業

今や獸肉、獸毛、獸皮の需用急増し、馬匹の増殖改良に逼られて、牧畜隆盛の機運に向へり。牛は中國、九州、朝鮮に、馬は北海道、奥羽、九州に、豚は鹿兒島縣以南に多し。樺太、北海道には、蝦夷松、椴松、落葉松、白楊、臺灣には樟、檜、津輕半島には羅漢柏、秋田、吉野には杉、本曾には檜の美林あり。又北朝鮮の山地には、松樅繁殖せり。

林業

樺太、北海道には、蝦夷松、椴松、落葉松、白楊、臺灣には樟、檜、津輕半島には羅漢柏、秋田、吉野には杉、本曾には檜の美林あり。又北朝鮮の山地には、松樅繁殖せり。

*北海道にては概ね植林に之を見るのみ

水産業

我が國は、殆ど海を環らし、且つ寒暖二流に洗はれて、世界有數の漁業國たり。殊に北海道以北は、世界三大漁場の一と稱せらる。製鹽は、主に瀬戸内海岸、臺灣の南西岸、朝鮮の西岸に行はる。

鑛業

我が國は、鑛物の種類多く、又産額に於ても、銅、硫黄は世界屈指、石炭は東洋第一なり。又臺灣の金と、朝鮮の金、鐵、石炭と、樺太の石炭、石油とは、何れも前途有望なり。斯くて我が國は、世界屈指の鑛業國たり。

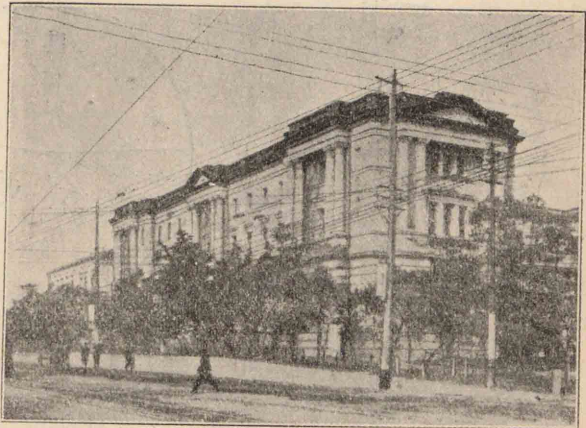
工業

工業の發展驚くべく、大阪、東京、北九州殊に然り。主要工業品は、船艦、兵器、火藥、製鐵、紙造、幣、綿織物、燐寸、陶磁器等にして、中には、先進國に學びて、先進國の産と競争するものあり。斯くて我が小工業は、今や大規模の工場制工業となるもの多くして、工業の狀態、將に一變せんとし、前途益、有望なり。

商業

東京は、商業最も盛にして、古來の大商業地たる大阪と共

圖解 日本銀行



に、帝國商業の二大中心たり。各地の市場に於て、取引の最も多きは米穀にして、麥、清酒、綿絲、綿織物、絹織物などに次ぐ。

商業機關たる銀行は、現時二千餘あり。日本銀行（京東）は、全國の金融を調和し、横濱正金銀行は、主として外國貿易を圓滿ならしむ。此の他、日本勸業銀行、日本興業銀行は東京に、臺灣銀行は臺北に、北海道拓殖銀行は札幌に、朝鮮銀行は京城にあり。

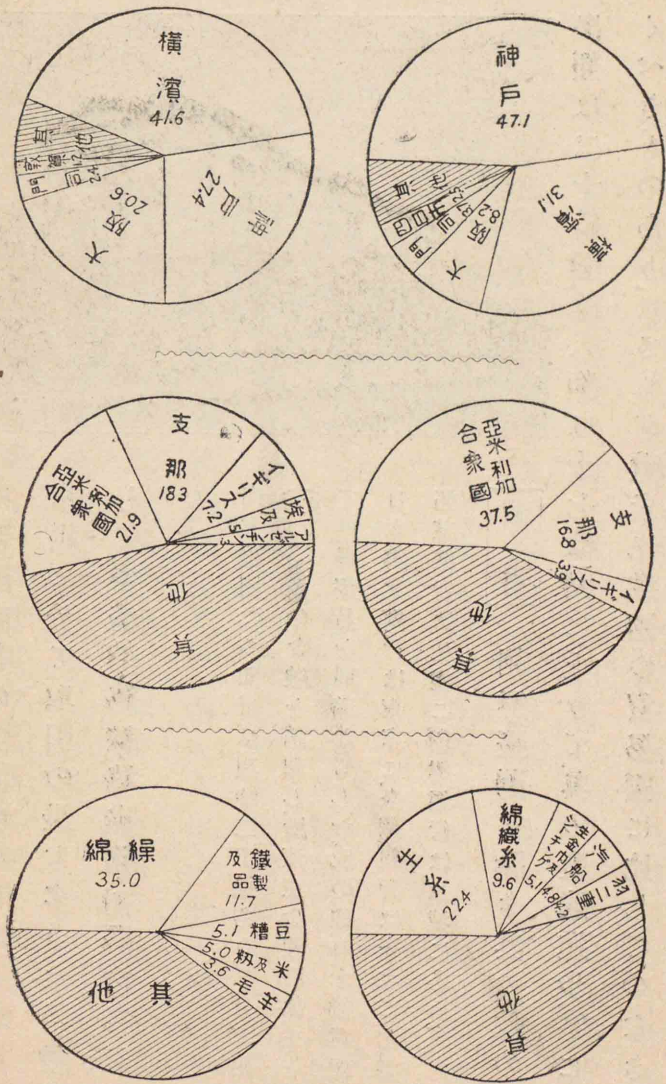
貿易

朝鮮、臺灣を除き、其の他の輸

出額は二十億圓、輸入額は十七億圓に上りて、其の發達進歩、寔に驚くべきものあり。されど歐米先進國の貿易額に比して、少なき上に、輸出品には、加工せざるもの、手先仕事に成りしもの、奢侈に關するもの多き缺點あり。

三十八箇(朝鮮、臺灣以外)の開港中、神戸、横濱は貿易の七割を營み、大阪、門司之に次ぐ。而して神戸は輸入、横濱は輸出多し。我が重要仕向地と重

圖解 上段 重要輸出港 重要輸入港 中段 重要輸出國 重要輸入國 下段 重要輸出品 重要輸入品



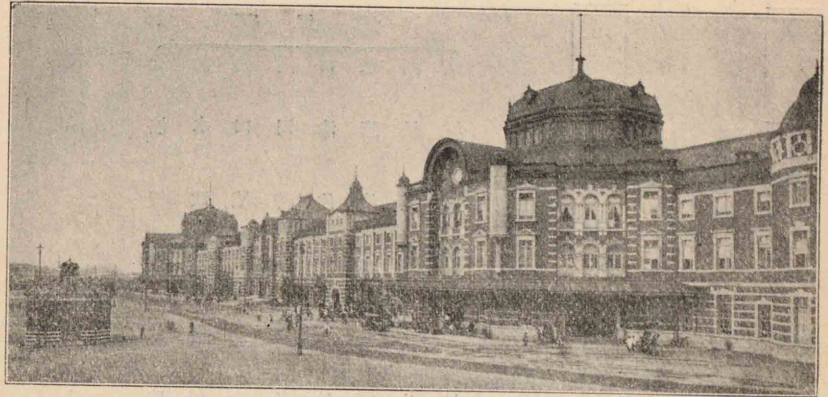
要仕入地、重要輸出品と重要輸入品は、之を表示せん。而して輸出の生絲と輸入の繰綿とは、貿易品中、遙に一頭地を抽けり。

貿易場									
大泊	清水	濱田	門司	山口	基隆	高雄	京城	大泊	根室
武豊	境	若松	住江	淡路	東港	鎮南	鎮南	武豊	室蘭
名古屋	宮津	博多	三池	舊港	馬公	平壤	平壤	名古屋	釧路
四日市	敦賀	唐津	三浦	後壠	釜山	龍巖	龍巖	四日市	室蘭
大阪	七尾	敬原	鹿兒島	梧棲	大邱	新義州	新義州	大阪	函館
神戸	伏木	鹿見	那覇	鹿港	木浦	元山	元山	神戸	小樽
青森	新湊	佐須奈	東石港	東石港	群山	津城	津城	青森	青森
横濱	下	長崎	安	安	仁	清	清	横濱	横濱
關	關	崎	川	川	川	川	川	關	關

第二節 交通

道路 道路は、汽車、汽船の發達につれて、必要の度減少するが如きも、尙ほ我が獨創の人力車を始め、馬車、自動車、荷車等を通じ、年々、之が開鑿修繕に巨費を要す。
鐵道 今や全長一萬哩に達し、殊に國有制度の確立以來、發展の

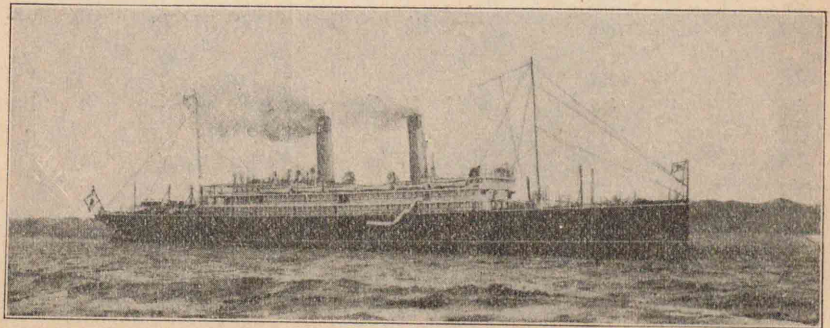
圖解上 東京驛
圖解下 日本の
巨船天洋丸
(東洋汽船會社
所刊)



度著しく、且つ輕便鐵道・電車鐵道も、敷設盛なり。明治五年、初めて京濱間鐵道の開通を見たるもの、今日の盛況に接して、果して如何の感かある。但し朝鮮以外に廣軌なきを缺點とす。今地圖によりて、主要鐵道線の起點・終點を考ふべし。

航路

我が國は、世



*朝鮮臺灣樺太
を除く

△我が國有線も成
れり
*丁抹國の大北電
信會社
△幌延落石岬原町
富岡大吠岬船橋潮

界屈指の海運國にして、内外の航路頗る多く、汽船の總噸數も、三百萬噸に達せんとす。之を明治元年の一萬五千噸に比すれば、誰か、シテ昔の感に堪へざらむ。汽船會社の大なるは、世界有數の日本郵船シテを始め、大阪商船、東洋汽船、日清汽船、國際汽船等なり。

郵便

郵便は、明治四年、初めて東京横濱間に行はれ、同十年、萬國郵便聯合に加はり、今や山間僻地に至るも、郵便脚夫の足跡を見ざらなく、每一人の受配數、一年に約三十通(英米は約百通)を數ふ。

電信

明治二年、東京横濱間に通じ、明治十二年、萬國電信聯合に加盟し、今や村落と雖、其の主要なるものには、郵便電信局の設けあり。海底電線も、大に發達し、殊に東京小笠原島間のものは、小笠原グアム兩島間のそれと相連れり。但し長崎上海間、長崎浦鹽斯德間の海底電線は、外人の敷設領有に係る。近年、無線電信も發達して、海岸局十有餘あり。

脚 下津井川島大瀬
崎 下島富基角港
門 島小青島等にあり

電話 電話は明治二十三年に創設せられて、近時特に發達し、長距離電話も亦漸次延長せり。

第三節 住民

種族 大和族は國民の大部(約八)を占め、歴代の恩澤に霑ひて、忠君愛國の念燃ゆるが如く、團結の堅きこと巖の如し。而かも其の性情や、頗る溫雅にして、學術を好み、工藝に長じ、發展進歩の天稟を有して、文明の花を開き、實を結び、今や優に世界の大國民たり。大和族の外に朝鮮族、漢族、臺灣蕃族、アイヌ族、ギリアーク族、オロコ族あれども、唯朝鮮族が朝鮮に於て、漢族が臺灣に於て多數を占むるのみにして、他は甚だ少なく、且つ何れの種族も、漸次大和族に同化せられて、國內統一せり。

人口 其の數、七千有餘萬を算し、樺太朝鮮を除算すれば、一方里に約二千人ありて、世界屈指の人口稠密國たり。

* 同勢調査の結果
減せり

人口既に稠密なり、加ふるに年々六七十萬人を増加して、遠からず一億に達すべし。移民植民の急務なる所以、實に爰に在り。斯くて今は、朝鮮、滿洲、南米に赴く者漸く多く、既に布哇、米國西岸等に至れる者多くして、總數五十萬を算す。

教育 我が國の教育は、世界稀に見るの盛觀を呈し、支那等より、來り學ぶ者少なからず。小學校は、其の數二萬六千、學齡兒童の不就學者は、百分の二にも充たず。中學校の生徒は十五萬人、高等女學校の生徒は九萬人に達せり。高等教育には、六個の大學、十七個の高等學校、五個の醫學專門學校、富山藥學專門學校の外、公立私立に關するものあり。四個の高等師範學校と、地方の師範學校とは、教員を養成し、陸軍に陸軍大學校、陸軍士官學校、海軍に海軍大學校、海軍兵學校等あり。實業教育には、五個

下記の計數は臺灣
朝鮮樺太を除く

- * 東京名古屋仙臺
- 金澤京都岡山熊本
- 鹿児島水戸山形松
- 本新潟山口松山佐
- 賀弘前松江
- * 千葉新潟金澤岡
- 山長崎(何れも早
- 晩大學)
- △小樽神戸山口長
- 崎名古屋
- ▲東京米澤名古屋
- 大阪熊本桐生横濱
- 廣島金澤
- 東京高等蠶絲學
- 校京都高等蠶業學
- 校上田蠶絲專門學

の高等商業學校と、九個の高等工業學校、二個の高等農林學校、京都高等工藝學校、三個の蠶絲學校、秋田鑛山專門學校、鳥取高等農業學校等あり。以上の外、臺灣、朝鮮、關東州には、其の土地に適する教育制度を設けたり。

神社 我が國民は、皇祖、祖宗を始め、忠臣、賢士の靈を祭祀す。神

神社數 十二萬
寺院數 十一萬

社は、伊勢神宮を始め、官幣社(社中)・別格官幣社・國幣社(社中)・府縣社・郷社・村社等に分る。

宗教 神道は、帝國固有の宗教にして、佛教(眞言天台淨土眞宗臨濟曹洞日蓮等の諸派あり)は、

百濟等より來り、共に我が民心を支配せり。又基督教も漸次普及し、殊に都會及び開港場に、其の信徒多し。

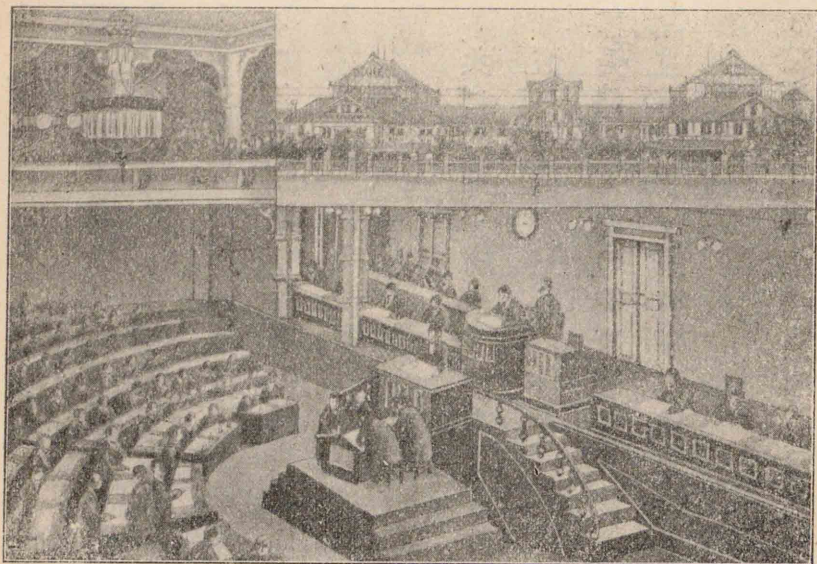
都會 都會は、割合に狭き土地に、多數の住民の集まれるものにして、關東、近畿、濃尾の平野に多し。

古來農業國たる我が國は、住民散在せしに、今や商工業の發達と、交

概し産業發達せば
人口の稠密を來し
人口稠密なれば又
産業の發達を促す

都會には市制を施行せられし者多し

圖解 帝國議會
議事堂の外觀と
貴族院の議事室



通機關の進歩とにつれて、歐米の文明國に於けるが如く、東京、大阪等の都會に、住民集合の傾向を生ぜり。

第四節 政治

國體 天日嗣は、必ず天祖の

後裔にして、男系の皇男子孫、祖

宗の神器を承け、萬世一系、皇統

連綿、天壤と共に窮りなし。是れ

我が國體の精華にして、世界萬

國に比類なき所なり。

政體 我が國は、建國以來、專

制政體なりしが、明治元年に「廣

ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スヘシとの御誓文あり降つて二十二年憲法の發布二十三年帝國議會の開設を見今や立法司法行政の三大統治機關分立し東洋に於ける憲政の模範國たり。

*現時衆議院議員の定員は三百八十一名とす

1 立法機關 立法機關即ち帝國議會は貴族院衆議院より成り法律の制定に協賛し豫算の議決等に當る。

2 行政機關 行政機關の中央にあるものは内閣十省(内務外務大藏陸軍海軍司法文部農商)にして内閣總理大臣と各省の大臣とは國務大臣と稱せられ共に内閣を組織す地方にあるものは北海道廳の長官警視廳の

總監三府四十三縣の知事朝鮮の朝鮮總督臺灣の臺灣總督樺太の樺太廳關東廳の關東長官等なり。而して朝鮮總督の下に政務總官と十三道の知事臺灣總督の下に五州の知事と二廳の廳長とあり。

3 司法機關 司法機關即ち裁判所の内大審院は東京に控訴院は東

京仙臺函館名古屋大阪廣島長崎にあり。又北海道に四箇各府縣及び樺太廳に各一箇の地方裁判所其の下に區裁判所あり。而して朝鮮臺灣關東州には特別の司法制度を布けり。

以上三大統治機關の外皇室に關する一切の事務を處理すべき宮内省あり。天皇の最高諮詢機關たる樞密院あり。又會計検査院は帝國の財政を監督し、行政裁判所は行政訴訟を判決す。

兵 備

畏くも大元帥陛下は陸海軍を統帥し給へり。國民は十七歳より四十歳に至るまで兵役に服すべき義務あり其の兵役には常備(現役豫)後備補充國民の四種あり。

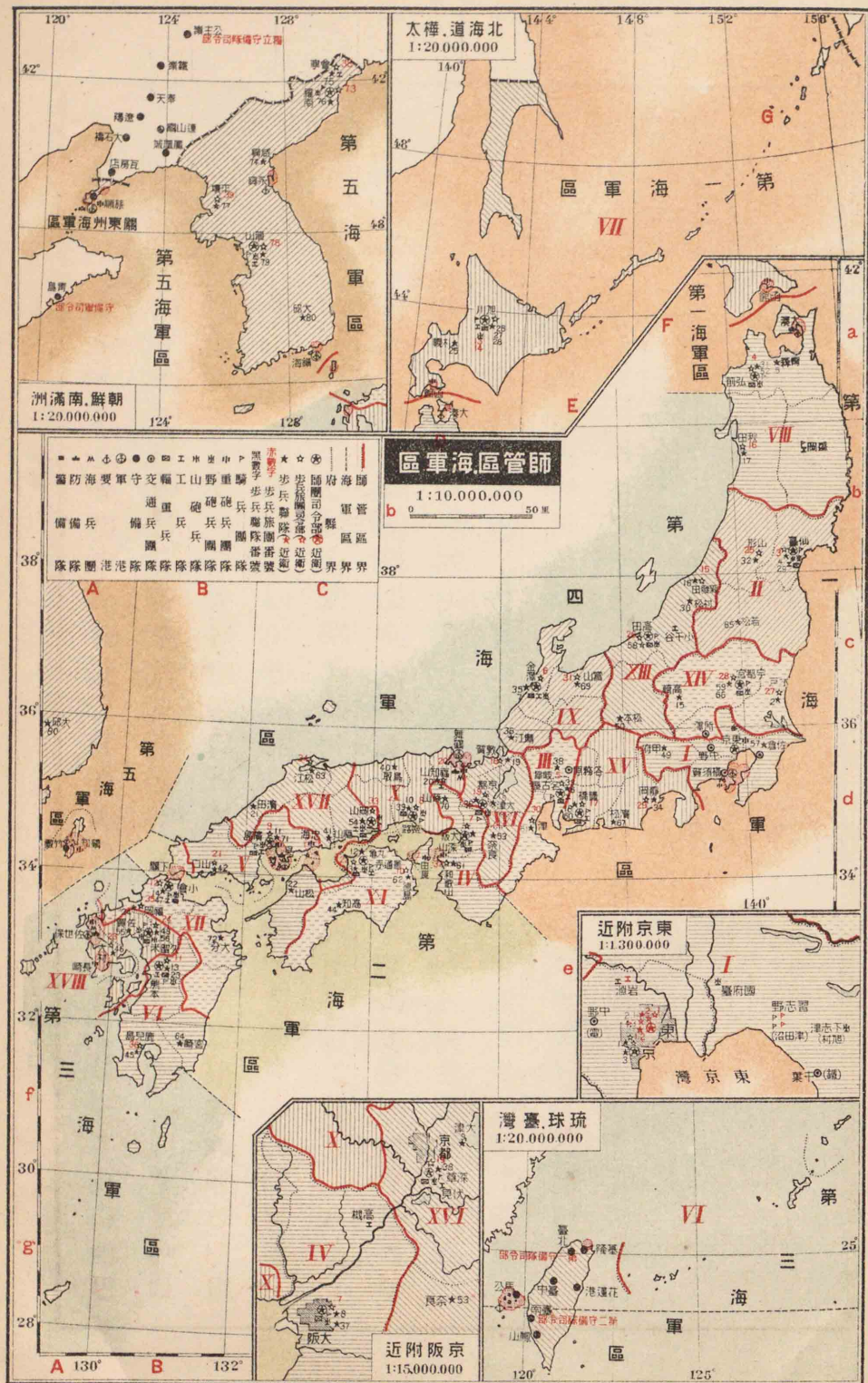
1 陸軍 陸軍には二十一箇師團ありて要地に其の司令部を置く。列強に比して兵員多からざるも忠勇義烈は我れ等祖先の遺風にして是れ清露獨を破りたる主因なり。

2 海軍 全國の海岸海面を五海軍區に分ち各區に存する各軍港

の鎮守府之を管す。艦艇七十萬噸、兵員約五萬を數へて、實に世界屈指の海軍國たり。祖先以來、船を家とし、波を枕とする同胞は、巧に船艦を操り、殊に今や、造船、造兵の技術に長けて、横須賀、吳等の海軍工廠、長崎、川崎、神戸の三造船所などは、大艦を建造するに至れり。東洋の霸王。我が兵備は、鉞上の如しと雖、未だ以て満足すべからず。但し我が國は、距離近き關係上、東洋に於ては、陸と海とを壓して、其の霸王たるの盛觀あり。

師團司令部所在地

近衛	東京	第一	東京
第一	東京	第二	仙臺
第三	名古屋	第四	大阪
第五	廣島	第六	熊本
第七	旭川	第八	弘前
第九	金澤	第十	姫路
第十一	善通寺	第十二	小倉
第十三	高田	第十四	宇都宮
第十五	豊橋	第十六	京都
第十七	岡山	第十八	久留米
第十九	羅南	第二十	龍山



軍 第一—横須賀 第二—吳 第三—佐世保 第四—舞鶴
港 第五—鎮海

要港 大湊 竹敷 馬公 永興 旅順

財政 明治二十七八年頃は、歲計總額一億圓内外なりしも、其の後軍備の擴張、新事業の施設等によりて、年々増加し、又國債額も十六億圓に激増して、其の元利の償却をも計上するが故に、歲計、十億圓を超過す。苟も國力の伸張、國運の發展を望まば、従つて國費増加す。されば國民たるものは、華を去り實に就き、勤と儉と是れ守り、多々益々之を負擔せざるべからず。

外交 世界列國との交際、年に親密を加へ、大使又は公使を遣りて國交を修め、又領事を送りて通商などに當らしむる處多し。長く東洋の禍根たりし朝鮮を併合し、列國分割の兆ありし老大不振の支那を保全して、我が國は政治上に於ても、亦實に、東亞の防波堤

たるの感あり。

曩に東洋(印度方面を含む)の平和と利益とを目的として、英國と攻守同盟を締結し、佛露米の三國とも、利權の衝突を避くる爲、親善の協商又は協約成り、近年の大戦には、聯合國側に立ちて、海に陸に、+偉功を樹てたり。

斯くて我が國は、今や優に世界の大國たるの地位を占むるに至りたり。想ひ起す嘉永の昔浦賀濱頭に米艦を認めし時、誰か能く今日あることを期せんや。

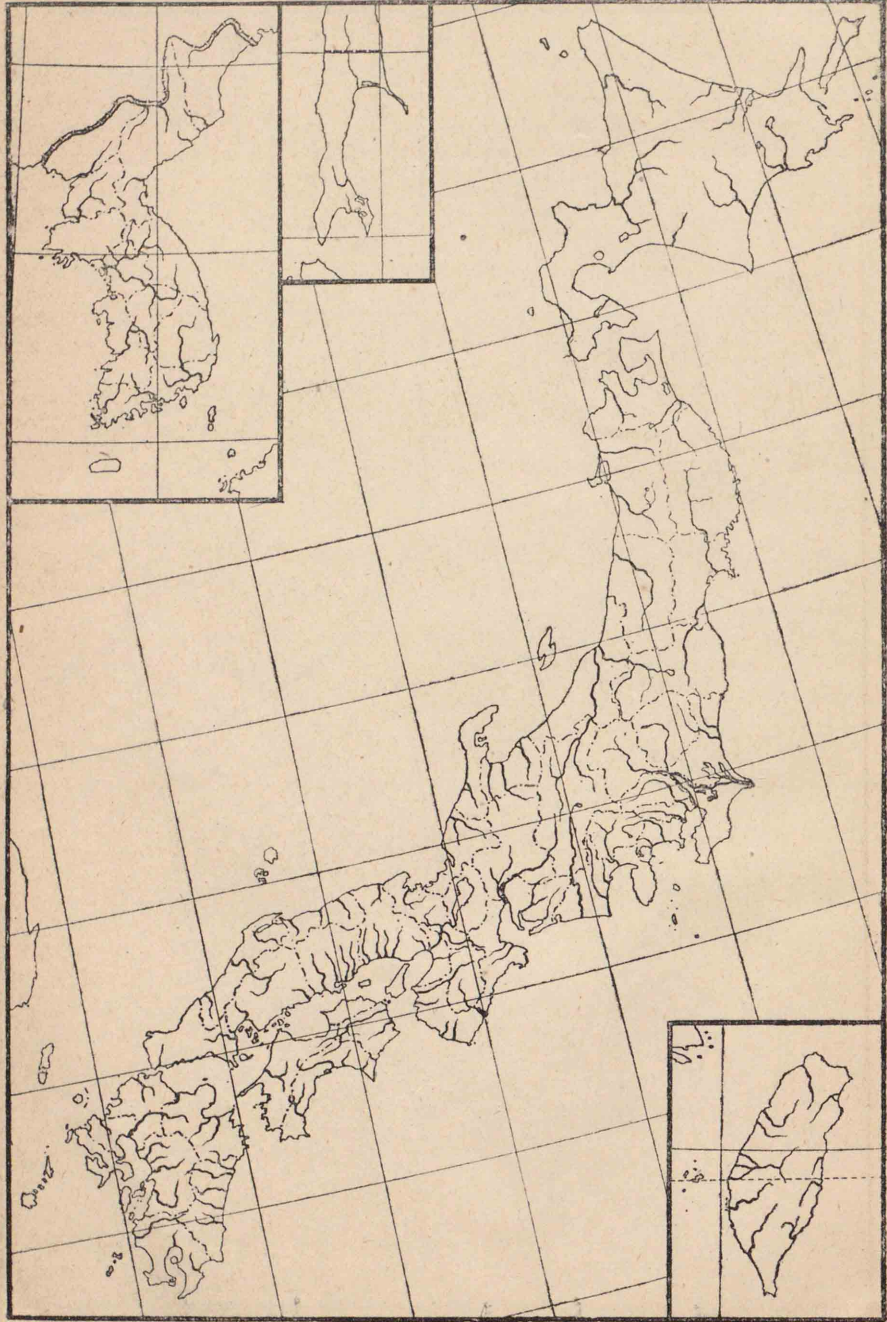
結 論

今や世界の大战、終局を告げたりと雖、尙ほ到る處に戰雲低迷し、貿易航海植民等の平和的競争、亦將に激甚たらんとす。即ち世界は、文と武との競争、常に絶えざるなり。

我が國が、極東に偏在しながら、尙ほ以て世界の一等國たるに至りしは、天の時と人の和カによること勿論なりと雖、亦實に、地の利の宜しきものあればなり。然り我が國土の地利は、眞に我が國運をして、今日あるに至らしめたり。

されば我が國土の優勝點を研究して、益、其の優勝を發揮せしめ、以て世界文武の競争に、常勝の地位を占め、上は、萬世一系の聖天子を安んじ奉り、下は、吾等祖先の忠實を顯彰せざるべからず。是れ吾人の帝國地理の學習が、重要にして且つ、愉絶快絶なる所以にあら

よせ射暗を沼湖び及川河の習既付に圖本

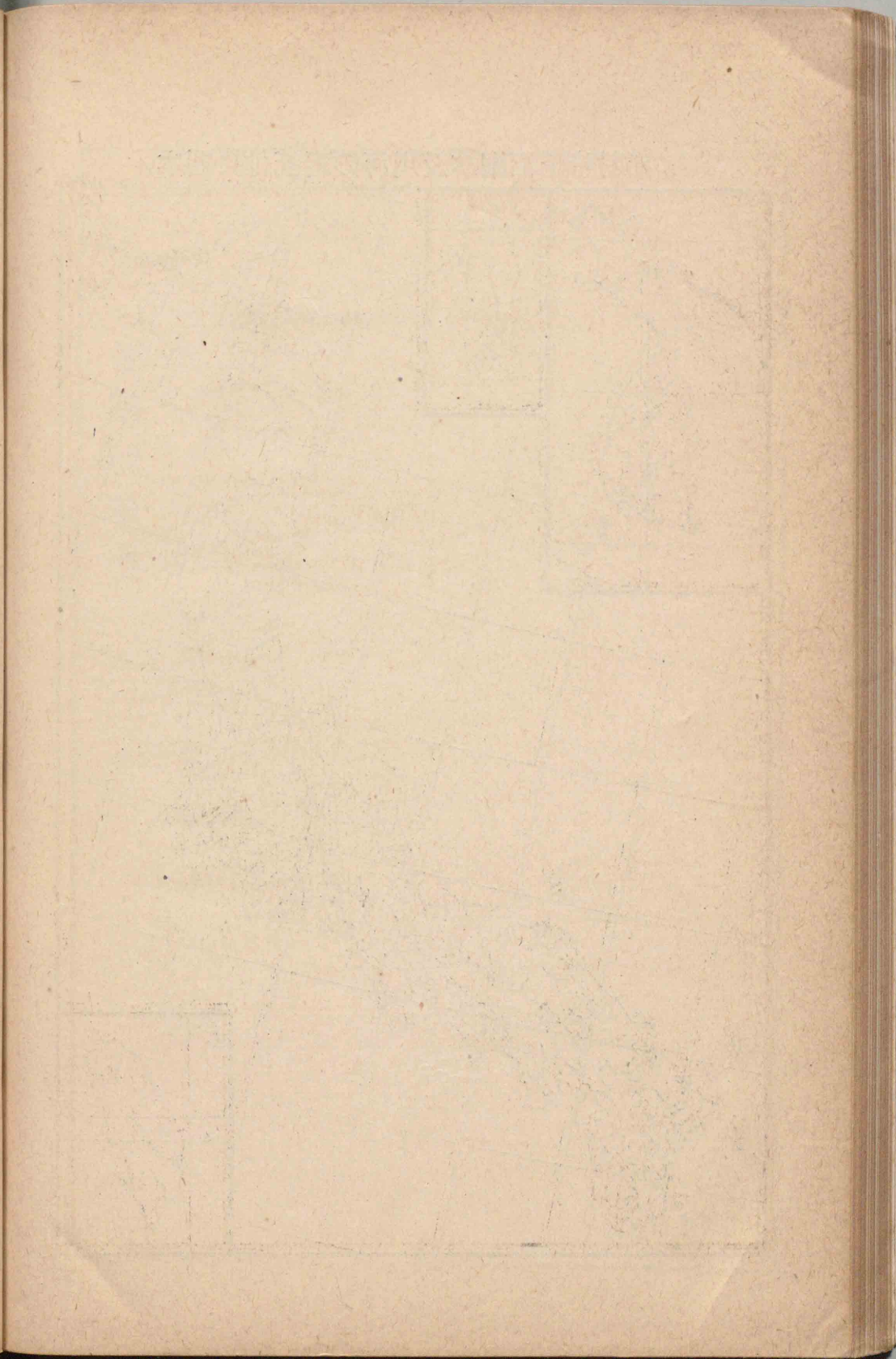
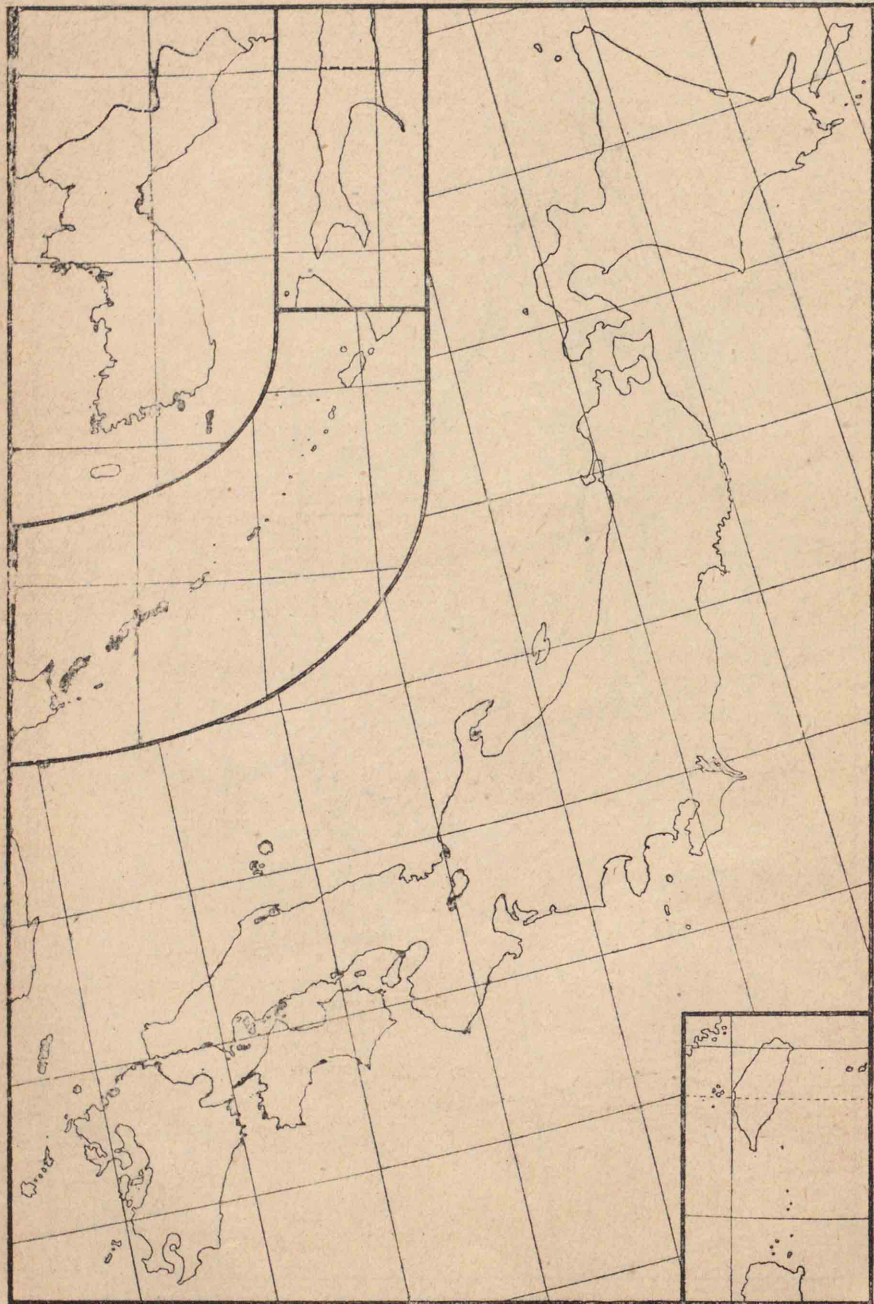


帝國地理 (終)

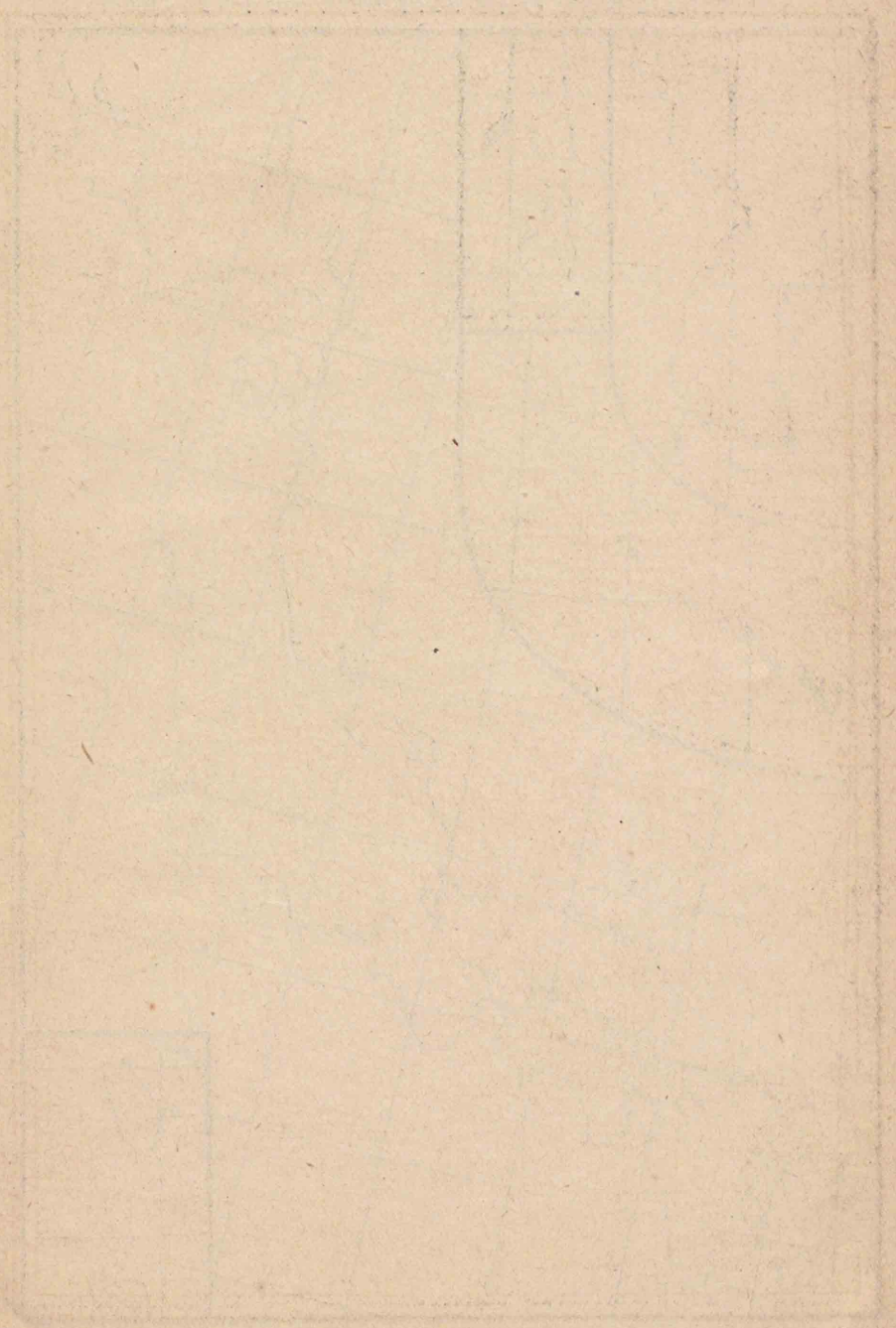
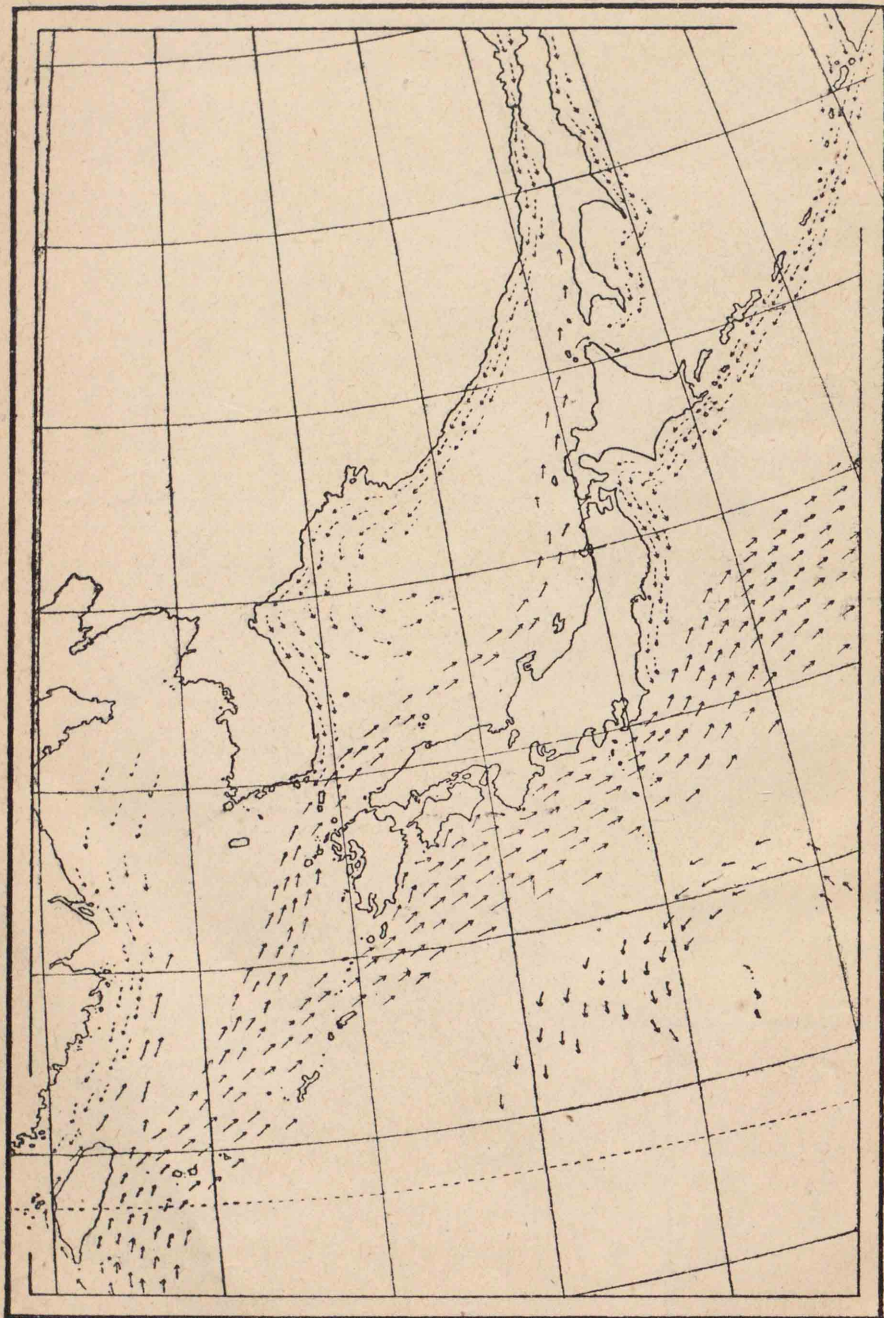
よせ

結 論

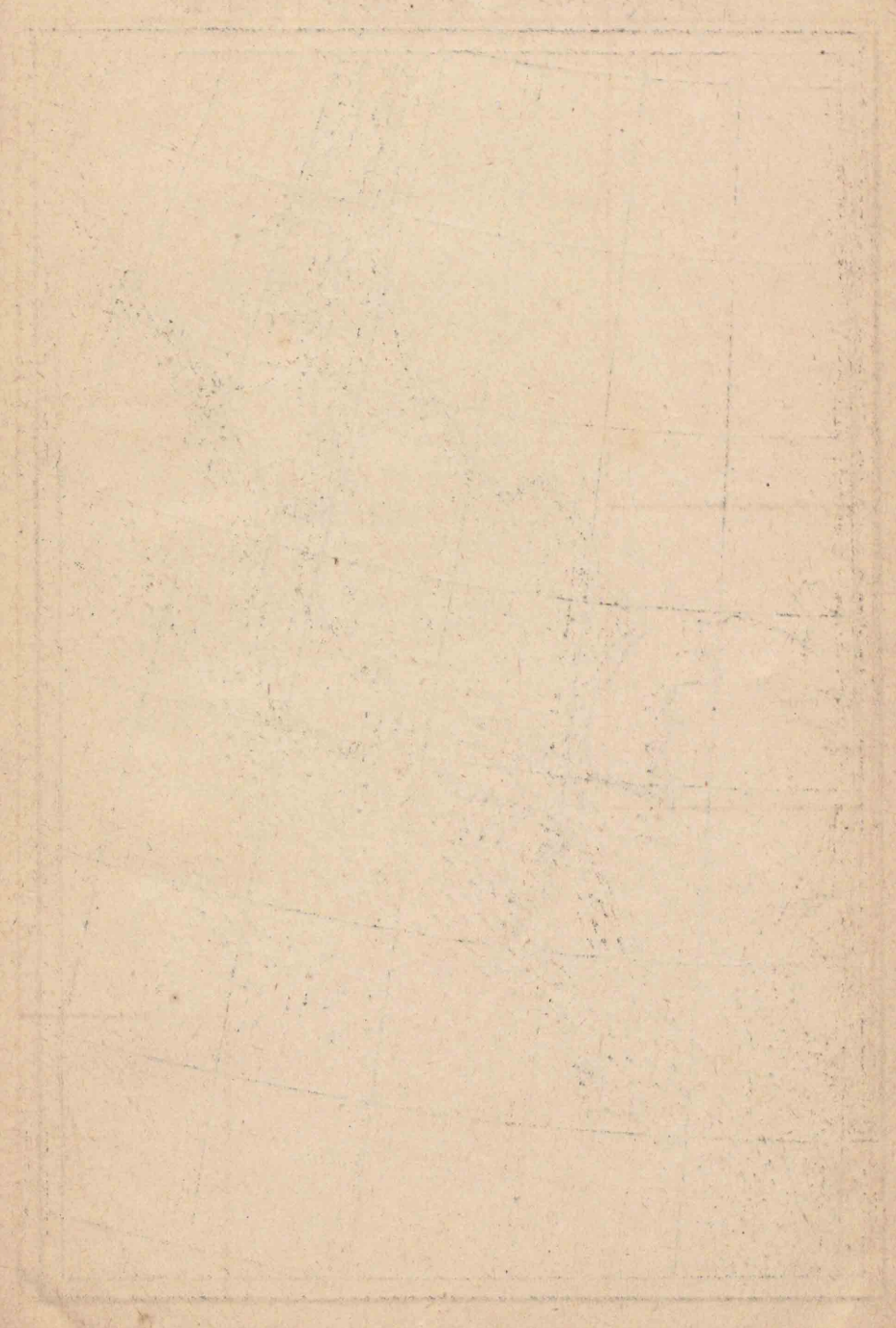
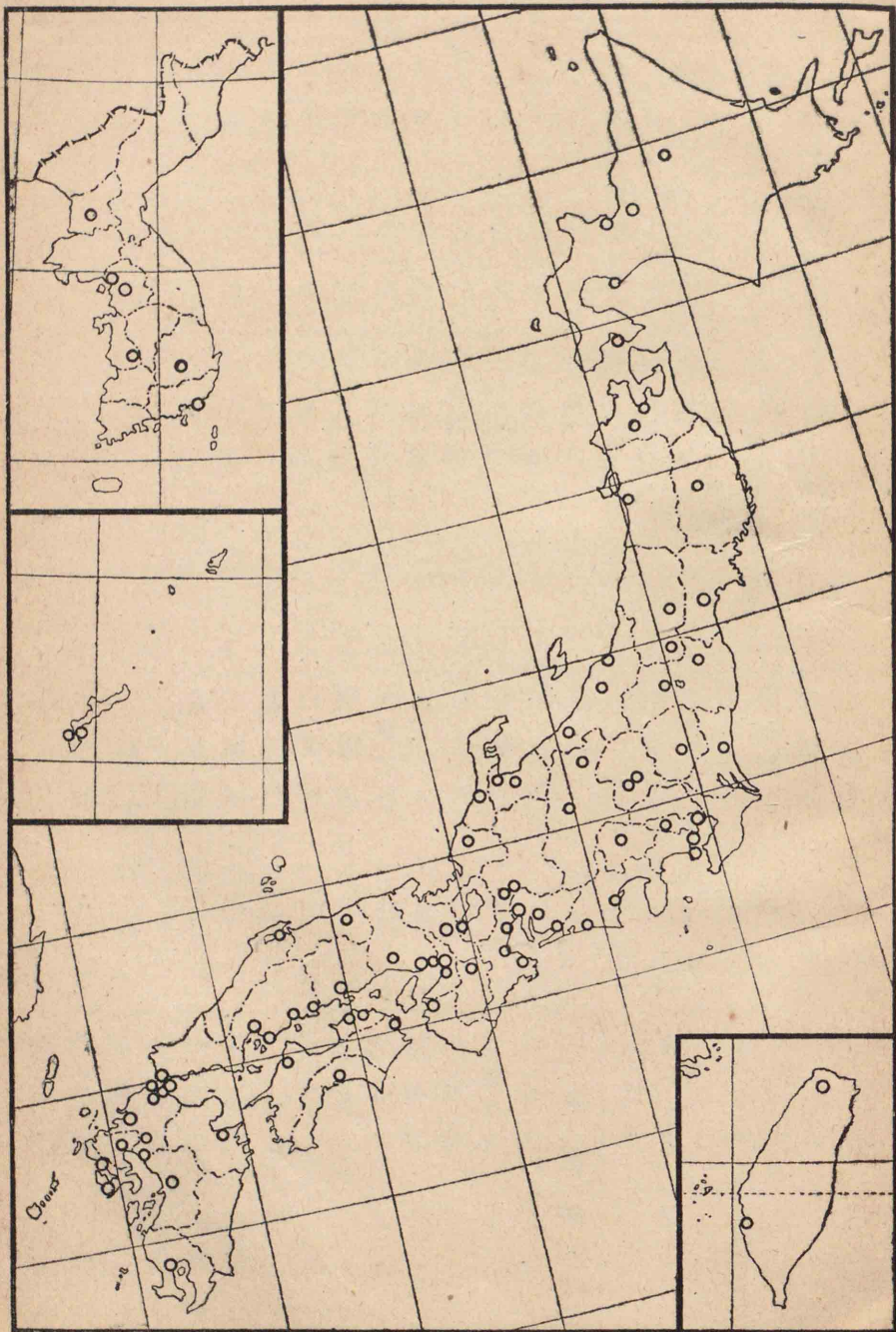
よせ射暗を嶼島・峽海・灣海・崎岬・島半付に圖本

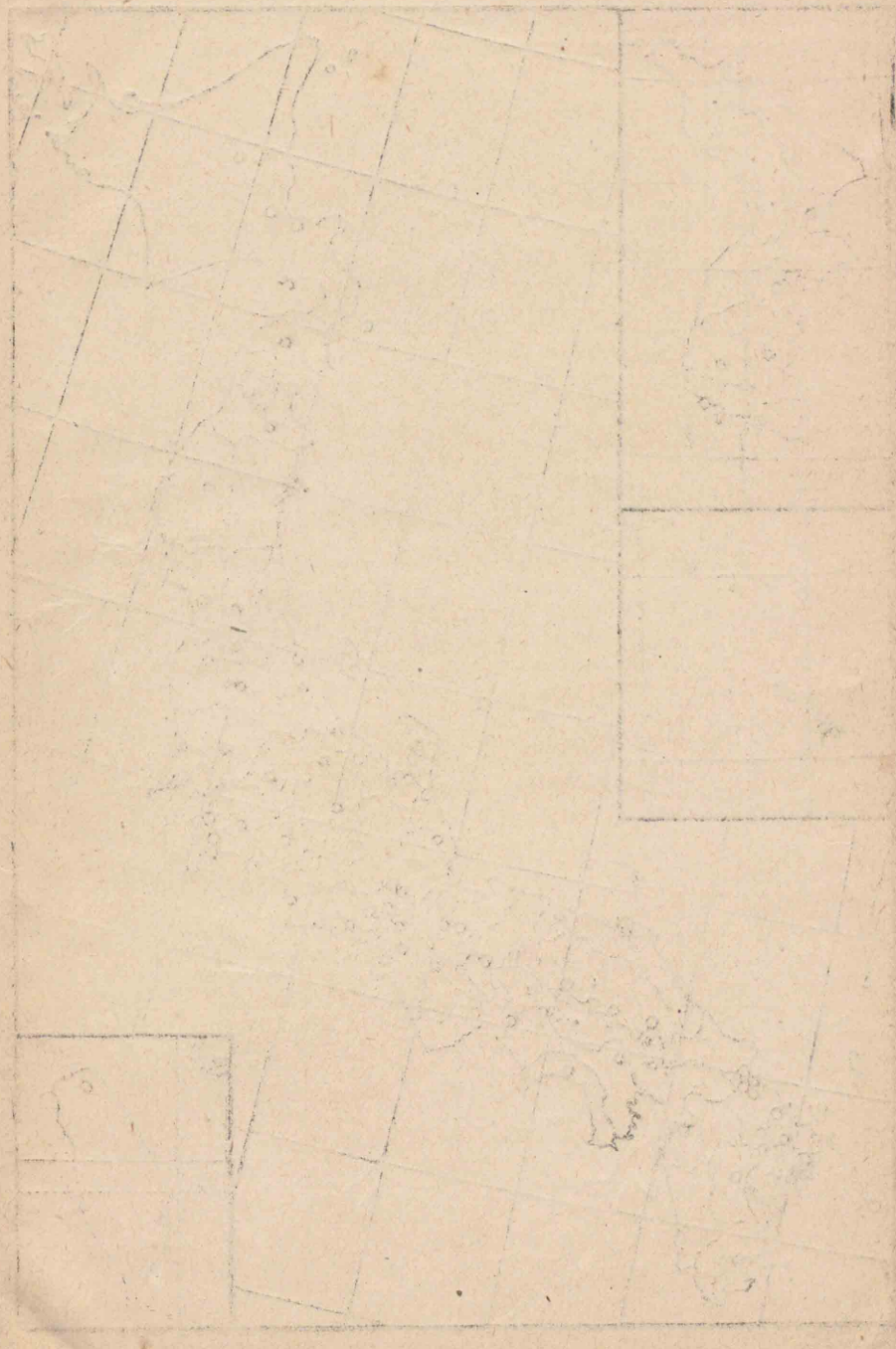


よせ入記を名流海各に内圖本



よせ射暗を邑都各の内圖本





附錄 國勢調査都市村落人口一覽表

(一萬人以上の者を掲ぐ、單位萬人、括弧内は大正七年末の者)

東京府 (三九七,九七)		神奈川縣 (三三三,三三)	
東京市 (三六,四) 二七,三	大久保町 (一,三) 二,八	横濱市 (四七) 四,三	川口町 (一,七) 一,九
澁谷町 (八,三) 八,一	高田町 (一,八) 二,七	横須賀市 (八,九) 九,〇	本庄町 (一,四) 一,四
西巢鴨町 (四,〇) 五,一	大野町 (一,七) 二,二	小田原町 (二,三) 二,三	深谷町 (一,三) 一,三
南千住町 (三,八) 五,一	中野町 (一,七) 二,二	保土ヶ谷町 (一,一) 二,一	秩父町 (一,二) 一,二
日暮里町 (三,三) 四,二	三河島町 (一,三) 二,二	川崎町 (一,一) 二,一	忍父町 (一,一) 一,一
品川町 (三,五) 四,一	代々幡町 (一,七) 二,〇	茅ヶ崎町 (一,八) 一,八	浦和町 (一,四) 一,三
瀧野川町 (三,三) 四,一	大森町 (一,八) 二,〇	鎌倉町 (一,五) 一,八	千葉市 (三,三) 三,三
八王子市 (四,三) 三,九	寺島村 (一,三) 一,九	藤澤町 (一,八) 一,七	本銚子町 (一,六) 一,七
龜戸町 (三,〇) 三,九	入新井村 (一,四) 一,九	町田村 (一,一) 一,七	船橋町 (一,五) 一,五
王子町 (三,七) 三,八	戸塚町 (一,三) 一,八	生見尾村 (一,二) 一,五	佐原町 (一,五) 一,五
大井町 (二,六) 三,七	目黒村 (一,五) 一,八	平塚町 (一,〇) 一,三	千葉市 (三,三) 三,三
千駄ヶ谷町 (二,八) 三,六	板橋町 (一,六) 一,七	足柄村 (一,一) 一,二	千葉市 (三,三) 三,三
大崎町 (二,六) 三,五	岩淵町 (一,三) 一,六	三崎町 (一,〇) 一,一	前橋市 (五,八) 六,二
千住町 (二,八) 三,一	隅田村 (一,三) 一,五	秦野町 (一,〇) 一,〇	桐生市 (四,〇) 三,七
吾嬬町 (二,四) 三,一	砂田村 (一,〇) 一,三	熊谷町 (二,三) 二,二	高崎市 (四,四) 三,七
			館林町 (一,四) 一,五
			伊勢崎町 (一,三) 一,四
			富岡町 (一,一) 一,一

附錄

一

富士見村 (一、一)	栃木縣 (一、四〇、六)	宇都宮市 (五、七)	足利市 (三、五)	足尾町 (三、七)	栃木町 (二、七)	鹿沼町 (一、七)	日光町 (一、六)	佐野町 (一、七)	田沼町 (一、三)	那須町 (一、一)	小山市 (一、一)	今市町 (一、一)	北郷村 (一、一)	茨城縣 (一、三〇、〇)	水戸市 (五、三)	日立村 (二、五)	古河町 (一、五)	石岡町 (一、五)	結城町 (一、四)	土浦町 (一、三)
淡濱町 (一、四)	磯濱町 (一、三)	北中郷村 (一、〇)	福島縣 (一、三三、〇)	若松市 (四、七)	福島市 (三、六)	郡山町 (二、五)	平郷町 (二、一)	内郷町 (一、六)	白河町 (一、九)	好間村 (一、〇)	須賀川町 (一、四)	湯本村 (一、二)	磐崎村 (一、一)	宮城縣 (九、五、三)	仙台市 (三、三)	石巻市 (二、〇)	鹽釜町 (一、一)	古川町 (一、一)	白石町 (一、〇)	
巖手縣 (八、四、六)	盛岡市 (四、八)	釜石町 (三、二)	青森縣 (七、五、八)	青森市 (四、五)	弘前市 (三、七)	八戸町 (一、八)	湊川町 (一、一)	野邊地町 (一、〇)	川内町 (一、〇)	秋田縣 (九、七、七)	秋田市 (四、一)	能代港町 (二、一)	土崎港町 (一、八)	小坂町 (二、〇)	横手町 (一、九)	大館町 (一、四)	本莊町 (一、一)	山形縣 (九、六、九)	山形市 (四、九)	
米澤市 (四、一)	鶴岡市 (三、九)	酒田町 (二、六)	新庄町 (二、六)	谷地町 (一、一)	靜岡縣 (五、五、〇)	靜岡市 (七、四)	濱松市 (六、一)	沼津町 (一、七)	島田町 (一、八)	大宮町 (一、八)	小島町 (一、六)	三島町 (一、四)	燒津町 (一、四)	長田村 (一、三)	吉田村 (一、三)	伊東町 (一、三)	川崎町 (一、三)	大里村 (一、三)	相良町 (一、一)	清水町 (一、〇)

甲府市 (五、八)	山梨縣 (五、六)	名古屋市 (四、七)	豊橋市 (六、七)	岡崎市 (四、〇)	愛知縣 (三、四、〇)	一宮町 (三、六)	瀬戸町 (三、三)	呼種町 (二、六)	千種町 (二、二)	中村町 (二、一)	高師村 (一、九)	安城町 (一、九)	半田町 (一、八)	西尾町 (一、六)	一色村 (一、五)	御器所村 (一、五)	龜崎町 (一、四)	津島町 (一、四)	古知野町 (一、三)		
田原町 (一、三)	祖父江町 (一、二)	舉母町 (一、二)	小牧町 (一、二)	蒲郡町 (一、二)	稻澤町 (一、二)	福江町 (一、二)	矢作町 (一、二)	犬山町 (一、二)	明治村 (一、二)	八幡村 (一、二)	高濱町 (一、二)	二川町 (一、二)	起岩町 (一、二)	成岩町 (一、二)	岐阜縣 (一、七、〇)	岐阜市 (五、八)	大垣市 (三、二)	高山町 (一、八)	中津町 (一、四)	船津町 (一、〇)	加納町 (一、〇)
長野縣 (五、〇)	松本市 (五、〇)	長野市 (四、一)	平野村 (一、八)	上野市 (三、〇)	飯田町 (一、八)	上諏訪町 (一、七)	下諏訪町 (一、七)	須坂町 (一、三)	伊那町 (一、三)	川岸村 (一、五)	赤穂村 (一、三)	丸尾村 (一、二)	小諸町 (一、二)	長野縣 (一、七、六)	新潟縣 (一、七、六)	新潟市 (九、二)	長岡市 (四、二)	高田市 (三、四)	三條町 (二、三)	新發田町 (二、〇)	加茂町 (一、七)
新津町 (一、五)	直江津町 (一、三)	寺泊町 (一、四)	五泉町 (一、三)	中之島村 (一、二)	板倉村 (一、〇)	富山縣 (七、四)	富山市 (七、四)	高岡市 (四、〇)	新湊町 (二、〇)	氷見町 (一、五)	魚津町 (一、五)	石川縣 (八、〇、三)	石川市 (五、九)	金澤市 (三、九)	小松町 (一、五)	輪島町 (一、三)	七尾町 (一、三)	福井縣 (六、三、七)	福井市 (六、〇)	敦賀町 (一、九)	

武生町 (一八)	大野町 (二〇)	滋賀縣 (七〇三)	大津市 (四四)	彦根町 (二五)	長濱町 (一三)	京都府 (二二七)	京都市 (六〇)	伏見町 (三四)	中舞鶴町 (二九)	福知山町 (一九)	新舞鶴町 (二一)	深草村 (一六)	綾部町 (〇八)	舞鶴町 (〇九)	山科村 (〇九)	奈良縣 (五九四)	奈良市 (四八)	十津川村 (〇三)	郡山町 (一三)
高田町 (一一)	丹波市町 (一〇)	三重縣 (一〇六九)	津市 (五五)	宇治山田市 (四一)	四日市市 (三四)	桑名町 (二四)	上野町 (一六)	松坂町 (一七)	尾鷲町 (一三)	龜山町 (二二)	和歌山縣 (七九五)	和歌山市 (八五)	新宮町 (二四)	田邊町 (一一)	箕島町 (一一)	大阪府 (二八八八)	大阪市 (四二)	堺市 (八七)	豐崎町 (四六)
今宮町 (二七)	鷺洲町 (三六)	天王寺村 (二二)	鶴橋町 (二八)	中木町 (三七)	岸和田町 (二六)	中津町 (二二)	玉出町 (一七)	鯉江町 (一五)	千船村 (一〇)	平野町 (一四)	城東村 (一一)	西中島村 (一一)	傳法町 (一一)	神津村 (〇八)	池田町 (〇五)	兵庫縣 (四四七)	神戶市 (六三)	姫路市 (四四)	尼崎市 (三五)
明石市 (三三)	西宮町 (二五)	洲木町 (二二)	西灘村 (二〇)	小田村 (一四)	相生町 (一三)	御影町 (一三)	住吉村 (一三)	高砂町 (一三)	飾磨町 (一〇)	精道村 (〇八)	鳥取縣 (四六五)	鳥取市 (三四)	米子町 (二二)	倉吉町 (一一)	島根縣 (七二八)	松江市 (三七)	濱田町 (二二)	岡山市 (九六)	岡山市 (九六)

玉島町 (二二)	津山町 (一七)	笠岡町 (一三)	倉敷町 (一三)	日比町 (〇七)	琴浦町 (一〇)	連島町 (一一)	廣島縣 (一六八)	廣島市 (一六)	吳市 (五五)	福山市 (三五)	尾道市 (三二)	倉橋島村 (一七)	江田島村 (一四)	廣田村 (一四)	土生村 (一四)	仁保村 (一三)	音戸村 (一三)	三原町 (一三)	阿賀町 (一三)	警固屋町 (一三)
下關市 (六八)	宇部町 (三五)	山口縣 (一〇九〇)	山府町 (二五)	防府町 (二二)	徳島町 (一九)	彦島村 (一七)	小野田町 (一六)	柳井町 (一三)	萩町 (一四)	岩國町 (一一)	中關村 (一〇)	徳島市 (七三)	撫養町 (一九)	小松島町 (一五)	香川縣 (七七一)	高松市 (四八)	丸龜市 (三三)	坂出町 (二七)	善通寺町 (一七)	
觀音寺町 (一七)	愛媛縣 (一〇四七)	松山市 (五八)	今治市 (二八)	宇和島町 (二二)	三津濱町 (一一)	宮窪村 (〇七)	八幡濱町 (〇八)	八幡村 (〇八)	高知縣 (七〇九)	高知市 (五二)	福岡縣 (二二八)	八幡市 (八九)	福岡市 (一〇)	門司市 (七三)	大牟田市 (七二)	若松市 (四二)	久留米市 (四八)	穗波村 (三九)	小倉市 (三四)	
飯塚町 (二五)	添田町 (二四)	後藤寺町 (二〇)	伊田町 (一七)	宮田村 (一八)	住吉町 (一九)	直方町 (一五)	香月村 (一八)	板橋村 (一六)	堅粕村 (一三)	稻築村 (一四)	駛馬村 (一五)	企救町 (一五)	足立村 (一三)	三川町 (一四)	勝野村 (一五)	熊田村 (一五)	國分村 (一五)	二瀬村 (一五)	桂川村 (一五)	銀水村 (一四)

相佐 知賀 村市	佐賀縣 (七九)	千代 町	庄內 村	糸田 村	新入 村	大任 村	幸袋 村	志免 村	水田 村	宇美 村	大川 村	西川 村	三橋 村	大里 村	大津 村	長濱 村	姪濱 村	瀬高 村	川崎 村	
(三,一)	(三,九)	(〇,八)	(〇,九)	(〇,〇)	(〇,〇)	(〇,〇)	(〇,〇)	(〇,三)	(〇,九)	(〇,九)	(〇,九)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,五)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,七)	(〇,七)	
二,四	三,四	一,〇	一,〇	一,〇	一,一	一,一	一,一	一,二	一,三	一,三	一,三	一,三	一,三	一,三	一,四	一,四	一,四	一,四	一,四	
北小 國村	牛深 町	八代 村	荒尾 村	水俣 町	熊本 市	熊本 縣 (三三三)	西有家 村	山口 村	崎戸 村	松島 村	富江 村	佐世保 市	長崎 市	長崎 縣 (三三六)	唐津 村	唐津 町	嚴木 村	北波多 村	北方 村	
(〇,〇)	(〇,一)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,〇)	(七,四)	(三,三)	(〇,三)	(〇,〇)	(〇,〇)	(〇,一)	(〇,四)	(三,四)	(三,四)	(三,六)	(〇,九)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,七)	(〇,七)	
一,〇	一,二	一,二	一,五	二,一	七,〇	一,〇	一,〇	一,一	一,三	一,三	一,四	八,七	一,七	一,〇	一,〇	一,三	一,五	一,七	一,八	
名瀨 村	谷山 村	額娃 村	鹿兒 島市	富高 村	高崎 村	三股 村	飯野 村	宮崎 町	小林 町	都城 町	宮崎 縣 (六五二)	東大野 村	日田 町	佐賀 町	中津 町	白杵 町	別府 町	大分 市	大分 縣 (四三〇)	
(三,五)	(三,一)	(三,八)	(九,三)	(〇,〇)	(〇,〇)	(〇,一)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,六)	(六,五)	(〇,〇)	(〇,一)	(〇,一)	(〇,三)	(〇,一)	(〇,六)	(四,四)	(四,三)	
二,六	二,六	二,七	一,〇	一,〇	一,一	一,一	一,三	二,二	二,三	二,六	二,六	一,〇	一,一	一,一	一,四	一,九	二,九	四,三	四,三	
喜界 村	高山 村	東市來 村	加治木 町	知名 村	宮之城 村	伊作 村	西加世 田村	加世田 村	志布志 町	川邊 村	末吉 村	知覽 村	島尻 村	北種子 村	鹿屋 町	垂水 村	伊敷 村	阿久根 村	串木野 村	東南方 村
(二,一)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,五)	(二,四)	(二,五)	(二,五)	(〇,八)	(〇,九)	(〇,五)	(〇,〇)	(〇,七)	(〇,八)	(〇,八)	(〇,八)	(〇,七)	(〇,〇)	(〇,三)	(〇,一)	(〇,三)	(二,五)
一,三	一,四	一,四	一,四	一,五	一,五	一,五	一,六	一,六	一,六	一,七	一,七	一,八	一,八	一,八	一,八	一,九	一,九	二,一	二,二	二,四

大口 町	高城 村	西串 良村	中種 子村	東加 世田村	財部 村	横園 村	蒲生 村	下甕 村	龍郷 村	大崎 村	喜入 村	西南 方村	和泊 村	限之 城村	西國 分村	天城 村	笠利 村	中出 水村	龜津 村	吉野 村	出水 町	
(〇,〇)	(〇,一)	(〇,一)	(〇,二)	(〇,四)	(〇,一)	(〇,九)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,一)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,三)	(〇,二)	(〇,四)	(〇,三)	(〇,四)	(〇,四)	(〇,三)	(〇,四)	(〇,四)	
一,〇	一,〇	一,一	一,一	一,二	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	
城邊 村	宜野 灣村	眞和 志村	名護 村	石垣 村	大里 村	今歸 仁村	北谷 村	讀谷 山	美里 村	中城 村	具志 川	平良 村	本部 村	首里 區	那霸 區	沖繩 縣 (五七二)	東天 城	東方 村	大根 占	中伊 集院		
(〇,二)	(〇,三)	(〇,一)	(〇,四)	(〇,三)	(〇,五)	(〇,四)	(〇,五)	(〇,六)	(〇,七)	(〇,八)	(〇,八)	(〇,一)	(〇,四)	(〇,八)	(五,九)	(五,七)	(〇,一)	(〇,〇)	(〇,〇)	(〇,一)		
一,三	一,三	一,三	一,四	一,四	一,四	一,四	一,五	一,六	一,七	一,八	一,八	一,一	一,三	一,三	一,四	一,四	一,〇	一,〇	一,〇	一,〇		
函館 區	北海 道 (三三九)	東港	高雄	彰化	宜蘭	新竹	基隆	鹿港	臺中	嘉義	臺南	臺北	臺南	臺北	臺南	臺灣 (大正六年 末現在)	小祿 村	西原 村	與那 城	國頭 村	羽地 村	浦添 村
(三,三)	(三,五)	一,一	一,七	一,七	一,七	一,八	一,九	一,九	二,一	二,二	二,三	二,三	二,三	二,三	二,三	二,三	(二,一)	(二,五)	(二,八)	(二,一)	(二,二)	(二,二)
一,四	一,五	一,一	一,七	一,七	一,七	一,八	一,九	一,九	二,一	二,二	二,三	二,三	二,三	二,三	二,三	二,三	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一	一,一
帶廣 町	頓別 村	余市 町	砂川 村	江別 町	遠輕 村	苫小 牧	音更 村	鷹栖 村	栗澤 村	三笠 山	岩見 澤	歌志 內	網走 町	野付 牛	沼貝 村	釧路 區	夕張 區	室蘭 區	旭川 區	札幌 區	小樽 區	
(〇,二)	(〇,四)	(〇,九)	(二,五)	(二,五)	(未詳)	(二,三)	(二,三)	(二,〇)	(二,七)	(二,五)	(二,四)	(二,三)	(二,四)	(二,四)	(二,六)	(三,三)	(三,三)	(三,六)	(六,九)	(九,五)	(〇,二)	
一,六	一,七	一,七	一,七	一,七	一,八	一,九	二,〇	二,〇	二,一	二,一	二,二	二,三	二,三	二,三	二,三	二,三	二,三	二,三	二,三	二,三	二,三	

俱知安町	(一、五)	一六
芽室町	(一、三)	一六
名寄町	(一、三)	一六
新十津川村	(一、五)	一五
東旭川村	(一、八)	一五
本別村	(一、二)	一五
根室町	(一、四)	一五
蘆別村	(一、三)	一五
八雲町	(一、六)	一四
川合村	(一、三)	一四
留萌町	(未詳)	一四
斜里村	(一、六)	一四
角田村	(一、六)	一四
美珠村	(一、四)	一四
深川村	(一、一)	一三
當別村	(一、三)	一三
士別町	(一、三)	一三
稚内町	(一、〇)	一三
豐平町	(一、三)	一三
伊達村	(一、三)	一三
武華村	(一、〇)	一二
真狩村	(一、三)	一二

岩内町	(一、五)	一三
長沼村	(一、一)	一三
大正村	(〇、八)	一二
幕別村	(〇、九)	一二
森別村	(一、三)	一一
美深村	(未詳)	一一
增毛町	(一、三)	一一
富良野町	(一、〇)	一一
南尻別村	(一、〇)	一一
美幌村	(未詳)	一一
上富良野村	(一、〇)	一一
上磯町	(一、三)	一一
厚岸町	(一、一)	一一
劍淵村	(一、〇)	一〇
瀧川町	(一、〇)	一〇
多寄村	(九、〇)	一〇
京	二五、三	一〇
釜山	六三	一〇
平壤	五八	一〇
開城	三九	一〇

大邱	三九
仁川	三三
鎮南	二五
元山	二四
咸興	一七
東萊	一六
木浦	一五
海州	一五
全州	一四
統營	一四
群山	一三
光州	一一
晉州	一一
大關東	一〇
旅順	一六

大正七年十一月三十日印刷
 大正七年十二月廿四日印刷
 大正九年十二月初訂印刷
 大正七年十二月五日發行
 大正七年十二月廿七日訂正發行
 大正九年十二月十六日發行

定價金六拾八錢

著作權所有

不許複製

著者

東京市麴町區飯田町六丁目拾參番地
地理教授同志會
代表者 野口保興 守屋荒美雄

發行者

東京市麴町區飯田町六丁目拾參番地
外松荒三

印刷者

東京市京橋區弓町二十五番地
高橋郁

發行所

東京市麴町區飯田町六丁目拾參番地
帝國書院

販賣所

東京市麴町區飯田町六丁目拾三番地
螢雪書院
振替口座東京三三九番

關西販賣所

大阪市東區南本町四丁目
三宅莊藏書店
振替口座大阪九番



庫
21
88

広島大学図書
2000024188
